

茨城県自然博物館総合調査報告書

— 2008年 茨城県の昆虫類および無脊椎動物の動向 —

Report of Comprehensive Surveys of Plants, Animals and Geology
in Ibaraki Prefecture by the Ibaraki Nature Museum

– Trends of Insects and Other Invertebrates in 2008 –



Bando, Ibaraki, Japan

March 2009

はじめに

ミュージアムパーク茨城県自然博物館では、茨城県内の動物・植物の分布・生態・生息環境の特性、地質・気象等の地学的特性を把握し、それらの相互関係や変遷のメカニズムを解明することを目的とした総合調査研究を実施している。この総合調査は、当館活動の基本方針に掲げた「地域自然の継続的調査研究」を推進し動植物の分布状況や保全状況を把握すると共に、調査で得られた情報を活用し地域の自然特性に応じた生物多様性の保全を図るための活動につなげていこうとするものである。

今回発行される総合調査報告書「2008年茨城県の昆虫類および無脊椎動物の動向」は、昨年の「2007年茨城県の昆虫類および無脊椎動物の動向」に引き続くものである。自然環境の変化が著しい現在、動植物の分布状況について、より新しくかつ正確な情報を市民に提供し、地域に応じた保全活動を支援していくことが求められている。特に昆虫類においては、巧みに環境に適応し新たに活動領域を広げるものもあれば、絶滅に危機に瀕している昆虫もあり、継続した調査と成果の速やかな公表が重要である。

本報告書は総合調査に参画した多くの方々の地道な調査研究に感謝申し上げ共に、本書が各方面で広く活用されることを願ってやまない。

ミュージアムパーク茨城県自然博物館

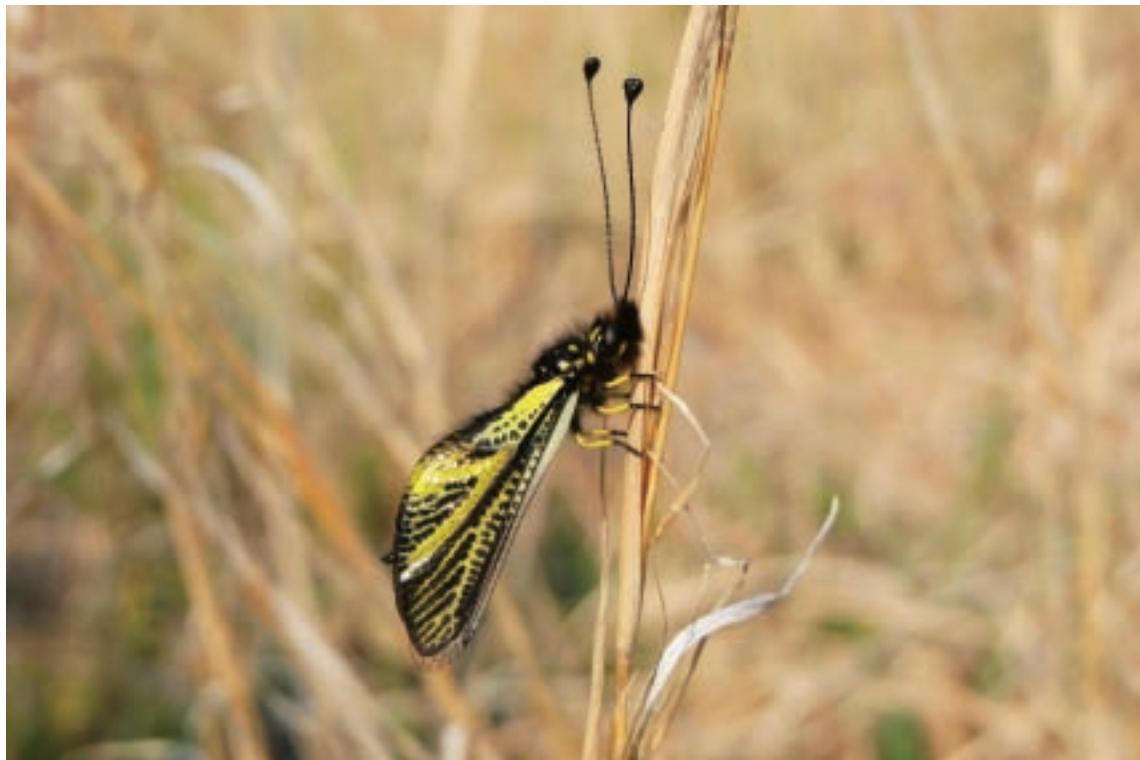
館長 菅 谷 博



トワダカワゲラ（北茨城市 花園渓谷, 2008. 7. 21, 佐々木泰弘撮影）



ムカシヤンマ（城里町 御前山, 2008. 6. 15, 2008. 7. 21, 佐々木泰弘撮影）



キバネツノトンボ（小美玉市中延, 2008. 4. 27, 桜井 浩撮影）



ヒロオビシリシアゲ（大子町 八溝山, 2008. 7. 19, 桜井 浩撮影）



スギタニルリシジミ（大子町 八溝山, 2008.5.5, 佐々木泰弘撮影）



ナガサキアゲハ（坂東市ミュージアムパーク茨城県自然博物館, 2008.8.29, 石塚幸蔵撮影）



カントワイドウズムシ（常総市豊岡町，茅根重夫撮影）



カントワイドウズムシが生息する常総市豊岡町の石塚要二私宅の浅井戸

目 次

総合調査研究について	1
「茨城県の昆虫類および その他の無脊椎動物の動向」調査について	1
2008年茨城県の昆虫類の動向	2
〔各論〕	
カゲロウ目・カワゲラ目	5
トンボ目	7
バッタ目・ゴキブリ目・カマキリ目・ナナフシ目	9
カメムシ目	11
カメムシ目(アブラムシ類)	13
アミメカゲロウ目	19
コウチュウ目	21
コウチュウ目(分布拡大種)	25
ハチ目	27
ハチ目(アリ類)	29
シリアゲムシ目	31
ハエ目(ハナアブ類)	33
トビケラ目	35
チョウ目(チョウ類)	37
チョウ目(ガ類)	41
〔基礎資料〕	
茨城県産ハエ目の記録	43
宍塙大池におけるガ類の記録(2003~2008年)	53
茨城県産淡水・汽水性プラナリア類	69

総合調査研究について

ミュージアムパーク茨城県自然博物館が実施している「総合調査研究」は、茨城県内の動植物の分布や生息環境の特性、地質・気象等の地学的特性を把握し、それらの相互関係や変遷のメカニズムを解明するとともに、自然史資料の収集を図ることを目的とした調査研究活動である。当館では、総合調査研究を調査研究活動の中心として位置づけ、博物館が開館した1994年から実施している。1994～2005年の12年間をかけた第Ⅰ期総合調査研究では、茨城県全域を4地域に分け第1次から第4次の調査を実施し、県内の動植物と地学的特性についての調査を実施してきた。2006年からはじまった第Ⅱ期総合調査研究では、これまでの調査結果をもとに、茨城の自然の全体像を明らかにするために調査をすすめている。

「茨城県の昆虫類およびその他の無脊椎動物の動向」調査について

2007年は、本州を北上する南方系のチョウ類ナガサキアゲハ、ツマグロヒョウモン、クロコノマチョウ、ムラサキツバメなどの分布が注目された。茨城県南部ではセミ類クマゼミの発生の確認があったが、北限地として国指定天然記念物に指定されているヒメハルゼミの笠間市での生息状況は、例年と大差はなかった。セスジササキリモドキ、モリチャバネゴキブリ、オオホシカメムシの生息確認なども温暖化の余波の一例とみなせるかもしれない。

ミュージアムパーク茨城県自然博物館では、刻々と変化する昆虫相の変化を知るために、前のように「2007年茨城県の昆虫類および無脊椎動物の動向」をまとめた。本報告は、昨年に引き続き2008年の動向をまとめたものである。さまざまな昆虫の発生状況を毎年記録し、それを積み重ねることによって茨城の動物相の経年変化を押さえていきたい。また、茨城県の動物相を解明するための基礎資料として、今回は「茨城県産ハエ目の記録」「宍塙大池におけるガ類の記録（2003～2008年）」「茨城県産淡水・汽水性プラナリア類」について記した。

調査は、茨城陸生無脊椎動物研究会に委託し実施した。茨城陸生無脊椎動物研究会は、茨城県の昆虫類の他に、陸生無脊椎動物全般のファウナを調べるために組織された団体である。山根爽一茨城大学教授を代表に、茨城県を代表する自然の研究者20名ほどのメンバーで構成されている。

(久松正樹)

2008 年茨城県の昆虫類の動向

廣瀬 誠

2007 年に引き続き、2008 年も茨城県の昆虫相調査の力点のひとつは、本州を北上する南方系昆虫類の分布様相の推移等の実態把握であった。

注目度の高いチョウ類のナガサキアゲハ、ツマグロヒョウモン、クロコノマチョウ、ムラサキツバメについては、複数地において幼虫の確認もあり、茨城県南西地域においては数多くの観察例が報じられている。これらの生態的な知見を累積し、分布の限界帶での生活史に何らかの特性が見いだせるかどうか、継続的な飼育観察記録の充実を期待している。茨城県北部の山地性のチョウ類では、生息地が限定されている種の減少が進んでいるが、八溝山周辺のスギタニルリシジミや、常陸太田市(旧里美村)里川宿のムモンアカシジミといった新しい産地が佐々木泰弘氏によって報じられた。また、戦後まもなく姿を消したヒョウモンもどきの過去の採集地を探索した塩田正寛氏の論説は評価に値するものである。全体的に研究調査が広く実現しているチョウ類については、井上大成、佐々木泰弘、飯島義克、植村好延、荒川 正、塩田正寛の諸氏の活動の足跡が、県内の生物関係の機関紙上に載り、茨城県のチョウ相の解明度は高まっている。ガ類においても南方系の種の北進傾向は顕著であり、ビロードハマキのように各地に見られるようになつた現象の原因追及には、生活史の究明が必須の課題となっている。林 恵治、佐藤和明、釣巻岳人、金井節博ら各氏によるガ類調査にも同様の期待を持つ。2007 年で特記すべきは、佐藤・釣巻両氏による里山的景観を色濃く残す土浦市宍塚一体のガ相の報告である。こうした調査の進展によって、茨城県産のガの種数は 1,200 種を超えた。

南方系大型種クマゼミは、鳴き声によってその存在が確認され、さらに 2008 年にも脱皮殻が採集され、茨城県南部では継続的な記録が続いている。こうした一方で、八溝山系に生息するハルゼミ、チッチゼミの鳴き声の報告例は減少し、笠間市片庭の国指定天然記念物ヒメハルゼミ発生地でも生息数の減少の兆しがあり、照葉樹林復活策が求められる。

加速度的に各自の専攻領域の調査が進行しているコウチュウ類については、調査の第一人者である大桃定洋氏の整理によって、116 科 2,749 種の種数がでた。注目度の低かった霞ヶ浦周辺、なかでも稲敷市浮島湖畔の妙技の鼻の低湿地帯の調査成果は貴重な報告だ。分布拡大種として疋田直之氏が報じたユリクビナガハムシの侵入や、水戸市におけるトウキョウヒメハンミョウの北

進にも追加記録の続出を期待しておこう。公文 暁・公文保之氏共著の「花瓶山周辺で見つかつた甲虫類の記録」（るりぼし）は、八溝山系を構成する山地のひとつを調査し、コウチュウ相の特異性を紹介している。さらに市川和雄氏を加えた3名の共著で、「茨城県のカミキリムシⅡ」（るりぼし）の大論文を発表した。これにより19年ぶりに県産目録が更新され、カミキリムシは系237種となった。会誌“るりぼし”の編集者のひとり綿引健夫氏をして“水戸昆の記念碑となる大作”といわせた論文である。

山根爽一氏と久松正樹氏などによるハチ目ハナバチ類の分布や訪花生態調査は進行し、八溝山における調査の成果が、久松・山根両氏の共著「茨城県八溝山麓における野生ハナバチの種構成と花の利用様式」（日本昆虫学会昆蟲ニューシリーズ）で論究され、八溝山は御前山、水戸市、坂東市菅生沼に比べて種数も多く豊かなハナバチ相を保つ地域と評された。県内のアリ類の調査は、井上尚武氏等によって進行しているが、三浦麻里子氏は国営ひたち海浜公園の海浜植生におけるアリ群集の調査を山根爽一氏の指導で実施した。

市毛勝義氏によるハエ目ハナアブ類の調査では、北上種ササヤマオビヒラタアブ、キゴシハナアブの記録が注目された。また、ヒメガガンボ科、ミズアブ科、ヤドリバエ科など、いくつもの科において茨城県初記録種を発見された。今後、さらなる調査によって、未開分野の多いハエ目相の調査進展の進行役としての市毛氏への期待は大きいものがある。

桜井 浩氏が担当のシリアゲムシ目では、ガガンボモドキ科の資料の充実が見られた。水生昆虫を代表するトビケラ目においては、勝間信之氏が茨城県南部の土浦市でトビケラ相解明に着手した。

井上尚武氏は、バッタ目について戦前の記録が残るオオクサキリの標本やカワラバッタの記録を確認し、戦前活躍した水戸市の昆虫研究家である谷 伴夫の業績を紹介した（おかげ）が、こうした戦陣の偉業の見直しや評価は労の多い作業ではある。

渡辺 健氏の調査によって、鹿行地区に平地性トンボの生息地の発見があり那珂台地周辺の池沼に生息する平地性ヤンマ類の現況も把握された。ヒヌマイトトンボの発生状況は、涸沼と涸沼川水系、利根川河口域一体とともに6月下旬からの発生量は例年なみであった。一方、個体数は少數であったが、生息地周辺のヨシ群落は安定している。

現在、6,000種に達しようとしている茨城県の昆虫相に新しく加わる種の現状を総括した久松正樹氏の「茨城の新しい住人たち—昆虫編一」（茨城の生物）は必見の報告である。久松氏は、新記録種を北上する南方系の種と外来昆虫とに整理した。特記すべきは、外来種ホソオチョウ、

セイヨウオオマルハナバチ, ブタクサハムシ, ラミーカミキリの観察記録等を集計し, 詳細な文献目録をあげたことだ. 今後は, これら外来昆虫と在来種との間に生じるであろう転換, 生態系の遷移や攪乱などが調査の課題となってくる.

2008年は気象的にやや異常であった年ではあったが, 昆虫の発生状況については大きな変化は認められない1年であったと総括できよう. 2008年の茨城県の昆虫の動向については, “茨城県自然博物館研究報告”, “るりぼし”, “おけら”からの情報を主とし, 昆虫関係の学会誌や月刊誌, さらに下記に示す茨城県内の自然関係の諸団体の機関誌から情報を得ることができる.

- ・ 日立自然友の会会誌「のびる」
- ・ 茨城生物の会会誌「茨城生物」
- ・ 小美玉生物の会会報「さとやま」
- ・ NPO 法人宍塚の自然と歴史の会報「五斗蒔だより」
- ・ NPO 法人つくば環境フォーラム「ニュースレター TEF TEF」, 「筑波山ファンクラブ通信」「筑波山麓地域情報紙「すみそろく」」
- ・ つくば市立豊里ゆかりの森昆虫館「Bulletin of the Toyosato Museum of Entomology」
- ・ 牛久自然観察の森通信「森のしんぶん」
- ・ 「取手自然友の会ニュース」
- ・ 「利根タブノキ会通信」
- ・ 茨城県高等学校教育研究会生物部「会誌」
- ・ (社)霞ヶ浦市民協会「霞ヶ浦 News」

1年を回顧して, 茨城県の昆虫相究明の歩みが, 研究者ばかりか市民レベルにおいても活発で, 広く情報収集の和が広がりつつある実態に, ミュージアムパーク茨城県自然博物館の諸行事や学芸員の支援と協働が大きく寄与していると実感している.

カゲロウ目・カワゲラ目

岸本 亨

2008年のカゲロウ目・カワゲラ目昆虫の動向

1. カゲロウ目・カワゲラ目の調査状況

2008年は桜川市高峰山付近、城里町御前山周辺、常陸大宮市鷺子山周辺の細流やひたちなか市の早戸川、つくば市神郡の細草川などにおいて幼虫調査を行った。調査を行った地点では水生昆虫類の種数、個体数ともに少なく、カゲロウ目・カワゲラ目とともに新たに確認できた種はなかった。

つくば市の細草川は2003年に調査を行ったことがあり5年振りの調査であったが、水生昆虫類の個体数が減少しており、特にカワゲラ目昆虫の種数・個体数ともに少なかった。水生昆虫類の減少の原因は特定できないが、2003年以降に上流の川沿いに蓄麦屋と釣堀が建築されたことと関係があるかもしれない。

城里町御前山周辺と常陸大宮市鷺子山周辺の調査はトワダカワゲラの調査を目的として行ったものである。茨城県では県北地域においてトワダカワゲラの生息地が確認されているが、栃木県の茂木付近にトワダカワゲラの生息地があるらしいという情報があったため両地域で調査を試みた。しかししながらトワダカワゲラは確認されなかった。

2. 八溝山におけるトワダカワゲラ調査

水戸在住の今井初太郎氏は茨城県におけるトワダカワゲラの生態研究の先駆けとしてよく知られている。今井氏は2008年9月～11月にかけて八溝川支流のクサレ沢、マナイタ沢、小寺崎沢においてトワダカワゲラの幼虫調査を行った。その調査結果および調査で採集された幼虫を飼育し羽化させて得られた成虫による種の同定結果を今井氏の許可を得てここにその概要を報告する。

幼虫調査では、クサレ沢本流の上流部、マナイタ沢で幼虫が採集された(図)。採集された幼虫を持ち帰り飼育した結果得られた成虫はオス4個体、メス22個体であり、すべてトワダカワゲラ *Scopura longa* であった。



図 八溝山クサレ沢におけるトワダカワゲラの分布
●2008年9月～11月の調査において確認された地点
(原図 今井初太郎氏作成)

トワダカワゲラ科は現在日本と朝鮮半島から8種が記載されており、本州ではトワダカワゲラ *Scopura longa* とミネトワダカワゲラ *Scopura montana* の2種が分布している。トワダカワゲラは栃木県北部と茨城県北部から東北地方に分布し、ミネトワダカワゲラは関東地方、中部地方、滋賀県に分布している。かつてトワダカワゲラ属はトワダカワゲラ *Scopura longa* 1種であったものが、1987年内田らによって5種に分類された。1987年より前の記録はすべてトワダカワゲラとなっており、分布記録に関しては再検討する必要がある。また、2種の分布境界は比較的明瞭と考えられていたが、最近、福島県や新潟県において混

生地が発見されるようになったため、新たに分布調査をする必要も生じてきた。茨城県では1987年以降八溝山、里美村、花園渓谷などにおいてトワダカワゲラが記録されている。同定は成虫によって行っているため正確である。八溝山地の栃木県側においてもトワダカワゲラが記録されており、今回の今井氏の調査結果を含めて、茨城県ではトワダカワゲラのみが分布していると考えるのが妥当である。よって「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物（動物編）茨城県版レッドデータブック」（2000年）の中で希少種として記載されているミネトワダカワゲラの内容の訂正をする必要がある。

3. カワゲラ目に関する調査・研究の動向

茨城県においてカゲロウ目・カワゲラ目に関する調査、研究を行っているのは現在のところ筆者と前述の今井氏、静岡県在住の吉成暁氏である。今井氏は阿武隈山系のトワダカワゲラの分布を精力的に調査しており、多くの生息地を確認している。吉成氏は昨年の総合調査報告書にも引用したように、マレーズトラップで採集されたカワゲラ目成虫について報告している。また、トウゴウカワゲラ属 *Togoperla* の全国の分布を調べているが、茨城県内ではほとんど採集されていない。この属は肉食の中型昆虫であり、主に山地の細流に生息している。四国や中国・近畿地方では低標高から高標高まで分布しているが、関東地方、東北地方では非常に少ないカワゲラ類である。山地における生息環境はトワダカワゲラ類の生息環境とよく似ており、中部地方以東ではトウゴウカワゲラではなくトワダカワゲラ類やモンカワゲラ *Calineuria stigmatica* が見つかることが多い。これらの種間の関係も興味深いので今後の研究課題としたい。

1994年から筆者が事務局となっているカワゲラ懇談会という集まりがある。2008年は筆者が「トワダカワゲラの生息環境について～水温と気

温の連続測定結果より～」、今井氏が「トワダカワゲラの形態的考察」、吉成氏が「遺伝子から見たトウゴウカワゲラの分類」について発表した。

筆者はトワダカワゲラの生息地数箇所において水温と気温の連続測定を行い、生息地の水温と気温の変化と羽化時期との関係について発表した。今井氏は茨城県北部、阿武隈山系、会津周辺においてトワダカワゲラ類の採集を行い、成虫の形態的な変異について発表した。吉成氏は全国から採集されたトウゴウカワゲラの遺伝子を比較し、遺伝的に大きく区別できる2つの集団に分けることができることを報告している。

2009年度は5月に筆者と今井氏が幹事となりカワゲラ懇談会を開催する。

2008年のカゲロウ目・カワゲラ目昆虫の文献

2008年に印刷されたカゲロウ目昆虫に関する文献はない。カワゲラ目に関する文献は以下の通りである。岸本（2008）は、氷河期の遺存種として知られているトワダカワゲラ類の分布、本州に生息するトワダカワゲラとミネトワダカワゲラの2種の混生地に関する新しい知見、トワダカワゲラ類の形態学的な特徴について解説した。Jin他（2008）は、日本と朝鮮半島に生息するトワダカワゲラ科8種の分布とその形態の特徴から系統について再検討を行った。

- 岸本 亨. 2008. 山岳溪流に生息する氷河期の遺存種～トワダカワゲラ類～. 昆虫と自然, 43(7): 14-17.
- Jin, Y. H., T. Kishimoto and Y. J. Bae. 2008. Systematic Review of the wingless stonefly family Scopuridae. In International Advances in the Ecology, Zoogeography, and Systematics of Mayflies and Stoneflies (University of California Publications in Entomology). F. R. Hauer, J. A. Stanford, R. L. Newell (eds). pp. 395-412. University of California Press.

トンボ目

渡辺 健

2008年のトンボ目昆虫の動向

2008年の調査は、平地池沼を中心に実施した。エゾトンボ科のトラフトンボ *Epitheca marginata* の成虫は5月を中心とした春季に現れ、主に平地から丘陵地にかけてのヒシやヒツジグサなど浮葉植物の豊富な池沼で見られるが、県内での分布は限られ、個体数も少ない。本年の調査では、従来の産地である県北地域の常陸太田市や那珂市、水戸市以外に鹿行地域の鉾田市串挽や潮来市島須(水郷県民の森:大膳池)で生息を確認することができた。潮来市島須では、比較的多くの個体数を観察できたが、池には極めて多数の外来魚(ブルーギル、ブラックバス)が生息しており、トンボ目幼虫に対しても摂食圧がかかっている可能性は否めない。また、鉾田市串挽ではコバネアオイトトンボ *Lestes japonicas* (絶滅危惧II類) を1頭確認した。県内では本種の分布は極限しており、今後の鹿行地域の精査が必要である。

那珂市鴻巣では池沼隣接地に農産物直売所が開設され、開発による周囲の池沼や雑木林の環境悪化が懸念されたが、現在のところ環境に変化はない。同所は、平地池沼に生息するギンヤンマ *Anax parthenope julius*、ヤブヤンマ *Polycaanthagyna melanictera*、マルタンヤンマ *Anaciaeschna martini*、カトリヤンマ *Gynacantha japonica*、オオルリボシヤンマ *Aeshna nigroflava*、マダラヤンマ *Aeshna mixta soneharai* 等のヤンマ類も多く観察できる貴重な場所である。ヤブヤンマやマルタンヤンマ等、盛夏時には黄昏時にしか観察できない種類も秋季には日中に飛翔する。同所では9月下旬から10月上旬にかけて、日中に摂食活動する上記ヤンマ類が観察できる。

マダラヤンマは、池沼隣接空間で摂食・飛翔する個体を観察することができるが、ほとんどが♂個体である。同所には広大なヨシ林が生い茂っているため、♂が♀を探すパトロール飛翔はヨシ林の中で行われているのであろう。また、♂が池沼に

隣接した栗林や杉林の周囲を飛翔し、上部の木の枝に向かって突っつくような飛翔行動をするのを度々観察した。この行動は林内に静止している♀を探している可能性が高く、同様な行動をするマルタンヤンマ♂も観察した。

水田は耕作しないと1年でヨシやガマ等の水生多年草が生え始め、2~3年で全面に生い茂ることも珍しくない。本年訪れた鉾田市串挽では、「環境の良い湿地」だと思っていた場所が、耕作放棄地であることを作業していた農家から聞いて驚いた。このような場所にはアオヤンマ *Aeschnophlebia longistigma* が住み着くことが多い。同所でのアオヤンマの個体数は多かった。また、長期間観察を続けている那珂市大内においてもヨシやガマが生い茂った耕作放棄地で、しばらく観察できなかった本種の生息を確認した。

2008年のトンボ目昆虫の文献

2008年に印刷されたトンボ目昆虫に関する文献は、以下の通りである。

一家 (2008) は、霞ヶ浦や牛久沼に流れ込む各地の河川(天の川、桜川、西谷田川)でヤゴの生息調査を行い、キイロヤマトンボ *Macromia daimoji* のヤゴを採集・確認して県南部の広範囲の河川で本種が生息している可能性を示唆した。

桜井 (2008) は、分布域が本県南東部に偏っているコノシメトンボ *Sympetrum baccha matutinum* を小美玉市の小川地区(旧小川町)で生息確認したことを報じた。

廣瀬 誠. 2008a. 茨城県のホソミオツネントンボ

史. 茨城生物, (28): 38-54.

廣瀬 誠. 2008b. カワトンボの和名が変った. 茨城生物, (28): 54.

一家伴安. 2008. 県南部の各河川でキイロヤマトンボのヤゴを採集。るりぼし, (36): 63-64.

大澤昌子・廣瀬 誠. 2008. 茨城のネキトンボ. 茨

- 城生物, (28): 55-58.
- 櫻井 浩. 2008. 小美玉市におけるコノシメトンボ
の記録. るりぼし, (36): 62-63.
- 植村好延・久松正樹. 2008. つくば市におけるベニ
イトトンボ (トンボ目:イトトンボ科) の記録.
茨城県自然博物館研究報告, (11): 11-12.

バッタ目・ゴキブリ目・カマキリ目・ナナフシ目

井上 尚武

2008 年のバッタ目昆虫の動向

2008 年の茨城県北部地区で特筆すべき点は、昨年に引き続きセスジササキリモドキ *Xiphidiopsis spatulata* が一部の地域（常陸太田市数カ所）で多数発生したこと、定着していることは間違いない。発見された場所での過去の調査記録がないので、温暖化が原因かどうかは不明である。本種については 1983 年頃、稲敷市（当時江戸崎町）で筆者によって採集されたが直後に逃亡したため標本が残っていない。同市からはその後採集はもちろん目撃すらできていない。今後も引き続き調査する予定である。

常陸太田市増井町では、灯火に飛來したヒメオノブバッタ *Atractomorpha nipponica* を採集した。本種は市川顕彦氏（私信）によると、「福島県只見町で撮影したオノブバッタとされる写真（井上・三田村, 2008）がヒメオノブバッタに見える」ということであった。このことから福島県にも生息する可能性があると判断された。また島根県雲南市三刀屋からはすでに記録がある（日本直翅類学会, 2006）。その後福島県只見町からはそれらしい種が記録され、現在検討中である（井上・三田村、印刷中）。以上のことから福島県と島根県の間に位置する茨城県においても生息すると予想されていたが、今まで記録がなかったものである。標本は 1 個体のみなので、今後さらに調査したい。

ヒメオノブバッタ

Atractomorpha nipponica Steinmann

〔採集記録〕

1♂, 常陸太田市増井町, 2008 年 9 月 15 日, 井
上尚武採集

県北部から過去に記録のあったオオクサキリ *Ruspolia* sp. やクロツヤコオロギ *Phonarellus ritsemai* (いずれも県絶滅危惧種) は、今年も確認

できなかった。新たな産地の可能性を求めて今後も調査を継続したい。常陸海浜公園のオオクサキリは、個体数が非常に減少しており、8 月 9 日に 3 ♂ 程の鳴き声を確認した。ハマズズ *Dianemobius csikii* (県絶滅危惧種) も個体数が減少したが、かろうじて砂浜の海浜植生とともに保護されているのを 11 月 15 日に確認した。またコガタコオロギ *Velarifictorus ornatus* (県希少種) は過去に常陸海浜公園内に記録があったが、7 月 6 日の調査で公園内とその付近に今でも生息していることを確認した。本種は茨城県が北限となっているので、県内での分布が海岸付近に限られている。

リュウキュウチビズズ *Pteronemobius sulfurariae* Chopard (県絶滅危惧種) は、2008 年の本報告で水郷地帯に広く生息している可能性があることを指摘したが、9 月 14 日の調査で神栖市横瀬・利根川河川敷ヨシ原で多数確認した。利根川河川敷の産地は初めての記録となる。なお対岸の千葉県側についても 2008 年に 4 回 (8 月 10, 22 日, 9 月 7, 14 日) 調査した結果、香取市、銚子市、東庄町の利根川河川敷でも確認したので、霞ヶ浦や北浦沿岸だけでなく、利根川下流域にも広く生息していることが示唆された。本種は、本州（関東地方、新潟）と南西諸島に分布するが、本州と南西諸島に分布するなかまでは、生息地や生活史が異なる。両方の個体群の間に生殖隔離がないので同種とされ、亜種程度の差があると考えられる興味深い種である。本州では、他に新潟県信濃川河川敷にのみ隔離分布する。

キリギリス *Gampsocleis buergeri* は減少しているとは言いながら、県内各地で局地的であるが確認している。

2008 年の調査は県北地区および県東地区に重点を置いた。県西地区の調査については、次年の課題としたい。

引用文献

井上尚武・三田村敏正. 2008. 福島県只見町で記録したバッタ目. ふくしまの虫,(26):10-12.
井上尚武・三田村敏正 (印刷中) 福島県只見町で記録したバッタ目・2. ふくしまの虫.
日本直翅類学会 (編). 2006. バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑. 687. pp., 北海道大学出版会.

2008 年のゴキブリ目・カマキリ目・ナナフシ目

2008 年のゴキブリ目, カマキリ目, ナナフシ目に関する知見は得られなかった.

2008 年のバッタ目昆虫の文献

2008年に印刷されたバッタ目昆虫に関わる文献は, 筆者の知る限り以下の1編である. 井上 (2008) は, この中で戦前に茨城県産のオオクサキリやカヤキリの完璧な標本を残した谷伴夫の生い立ちや業績, 標本保管の意義などについて考察した.

井上尚武. 2008. 戦前茨城の昆虫研究家谷伴夫の残した標本について. おけら, (64): 1-9.

カメムシ目

成田 行弘・久松 正樹

2008 年のカメムシ目昆虫の動向

2008 年の記録として特筆すべきと考えるいくつかの種についてふれることで動向としたい。

イシハラカメムシ *Brachynema ishiharai* は、本県中央部の御前山周辺（常陸大宮市、城里町）の一部に生息し、発生数も限られることから、茨城県レッドデータブックでは「絶滅危惧種」にランクされている種である。今、カメムシ類に関心をもつ研究者が増えた現在においても、本県において、新たな生息地の報は聞かない。本種は、ミツバウツギを食草とし、本県の記録においても、成虫越冬後の 5 月初旬、ミツバウツギの花に訪花したもののが採集例がほとんどを占める。ミツバウツギは、沢沿いなどの湿った場所に生育し、御前山周辺では、那珂川支流の相川、皇都川の河岸にやや稀に見られるが、本種を観察する樹木個体は限られる傾向が強い。また、周辺の植物上のスウェーピングで得られることはほとんどないことから、生活史において、寄主とする植物体への依存が強く、分散能力も強くないことが推測される。2008 年 5 月においても、上述したミツバウツギ生育地ポイントにおいて本種を確認したが、懸念されること、その後、その観察ポイントは、「御前山ダム」工事に伴い、立ち入り禁止となり、2008 年 12 月に、観察ポイントを見下ろせる場所から様子を見るところでは、有用財としてのスギ、ヒノキ以外のいわゆる雑木は伐採された様子である。そのため、イシハラカメムシへの影響が強く懸念されるところであるので、周辺も含めた生息状況の調査が必要である。

ツヤアオカメムシ *Glaucias subpunctatus* は、本県では普通に見られるアオクサカメムシ *Nezara antennata* によく似るが、その名のとおり、背面に光沢があることに加え、後胸板が隆起することなどによりその区別は容易である。2001 年 1 月の水戸市での越冬（成虫）の観察例からも、本県で

の生息は確実なものと考えられるが、少なくとも水戸市周辺では安定した発生をしているとはいいがたく、その発生量には著しい差がみられる。2008 年においては、2002 年以来の大発生で、9 月の発生期以降は、一般に見られる最も普通なカメムシ類であった。『原色昆虫大図鑑』（北隆館）には、年によって多数出現する時があるとあり、生活史の究明が長年待たれている種といえるだろう。

一方、この数年間、県央部の市街地やその周辺では、最も我々の目にふれる機会が多かったヨコヅナサシガメ *Agriosphodrus dohrni* の発生量はさほどではなく、発生は落ち着いてきた感がある。

また、近年、県内の平野部での発見が続いたアカスジカメムシ *Graphosoma rubrolineatum* については、平野部での発生に広がりがみられないことや、県北山地などでの報告例がないことから、ハーブ類を介しての移入種と判断すべきものではないかと考えるが、さらに、発生数や生息例を確認する必要もあるろう。

2008 年、県央部においては、小型のツチカメムシ類が多数見られたことが特徴的であった。大型のヨコヅナツチカメムシ *Adrisa magna* を時に灯火において目撃することはあったが、小型のツチカメムシ類を観察することは稀であった。このことについては、2 種以上に及ぶことが判明し、現在、未整理でもあるので、後の機会の報告を考えたい。

クマゼミ *Cryptotympana facialis* は、南方系の種で茨城県には生息していなかったが、近年、鳴き声が頻繁に記録されるようになり（久松, 2008），2007 年には取手市において抜け殻も記録された（石塚ほか, 2008）。2008 年も少なくとも以下の地点で、鳴き声や抜け殻が記録された（久松, 印刷中）。

つくば市古来（鳴き声）

常総市水海道元町（鳴き声）

常総市坂手町（鳴き声）

取手市 藤代庁舎（抜け殻）

取手市井野台（鳴き声）
守谷市 小絹の先の鬼怒川堤防（鳴き声）

引用文献

- 久松正樹. 2008. カメムシ目（セミ類）. ミュージアムパーク茨城県自然博物館（編）. 茨城県自然博物館総合調査報告書－2007年茨城県の昆虫およびその他の無脊椎動物の動向. pp. 19-20, ミュージアムパーク茨城県自然博物館.
- 久松正樹（印刷中）2008年クマゼミの記録. るりぼし.
- 石塚武彦・鈴木浩二・久松正樹. 2008. 茨城県取手市におけるクマゼミ *Cryptotympana facialis* (Hemiptera,Cicadidae) の脱け殻の採集記録. 茨城県自然博物館研究報告. (11): 13-14.

2008年のカメムシ目昆虫の文献

前述以外のカメムシ目に関する文献は以下の通りである. 指宿（2008）には、大阪市立自然史博物館学芸員の著者が、笠間市片庭のヒメハルゼミ発生地を訪れた旅行記が記されている. 発生地の現状を「ヒメハルゼミはシイを主体とした鬱蒼とした森にすむものと思っていましたから、このような劣悪な状況の中で北限地を辛うじて維持しているのは、かなり驚きました」と記している.

- 久松正樹. 2008. 茨城の新しい住人たち－昆虫編
－. 茨城生物, (28): 59-69.
- 久松正樹. 2008. 昆虫からみる茨城の環境変化. 環境とカウンセラー, 4(2): 44-49.
- 勝間信之. 2008. 土浦市でモンキツノカメムシを採集 るりぼし, (36): 64-65.
- 指宿成彦. 2008. 原始日本のセミ：ヒメハルゼミの魅力. 大阪市立自然史博物館・大阪自然誌センター（編著）. 鳴く虫セレクション－音に聴く虫の世界. pp. 121-126. 東海大学出版会.

カメムシ目(アブラムシ類)

松本 嘉幸

2008年のアブラムシ類の動向

本報告は筆者が2008年に採集した茨城県産のアブラムシから、プレパラート標本にし、同定が完了した67種を報告する。リストでは、採集地、採集年月日、寄主植物および寄生していた部位の順に示した。また、胎生雌虫でない場合にはそのモルフも示した。この中でイグサコブアブラムシ *Carolinaia obscura* (H.R.L.)、ナナカマドハマキアブランムシ *Sorbaphis chaetosiphon* Shaposhnikov、チドリノキカマガタアブラム *Yamatocallis acericola* Higuchiの3種は関東地方では希な種であると思われる。

寄主植物の同定については千葉県立中央博物館の大野啓一博士および千葉県立我孫子高校の谷城勝弘教諭の手を煩わせた。両氏にお礼申し上げる。

オオアブラムシ亜科 *Lachininae*

クリオオアブラムシ

Lachnus tropicalis (van der Goot)

日立市水木町泉神社, 9. XI. 2008, スダジイ-幹, 卵生雌虫と有翅雄虫／鉾田市二重作, 23. XI. 2008, クリ-小枝, 卵生雌虫と有翅雄虫。

ブナクチナガオオアブラムシ

Stomaphis fagi Takahashi

大子町八溝山, 7. VI. 2008, ブナ-幹, 蟻を伴う。

アブラムシ亜科 *Aphidinae*

アブラムシ族 *Aphidini*

サルトリイバラアブラムシ

Aleurosisphon smilacifoliae (Takahashi)

鉾田市二重作, 23. XI. 2008, サルトリイバラ-葉裏。

クサギアブラムシ

Aphis clerodendri clerodendri Matsumura

石岡市小幡広根場林道, 25. V. 2008, クサギ葉裏。

ヤナギアブラムシ

Aphis farinose yanagicola Matsumura

大子町上野宮寒沢, 8. VI. 2008, *Salix* sp.-枝先

フキアブラムシ

Aphis fukii Shinji

大子町上野宮寒沢, 8. VI. 2008, フキ-葉裏。

キヅタミドリアアブラムシ

Aphis hederiphaga Takahashi

石岡市上曾, 25. V. 2008, セイヨウキヅタ-蔓。

ユキヤナギアブラムシ

Aphis spiraecola Patch

ひたちなか市高野, 9. XI. 2008, セイタカアワダチソウ-花穂・茎／鹿嶋市中, 23. XI. 2008, セイタカアワダチソウ-葉裏。

タンポポアブラムシ

Aphis taraxacicola (Börner)

石岡市小幡広根場林道, 25. V. 2008, タンポポの1種-根際, アリを伴う。

コミカンアブラムシ

Toxoptera aurantii aurantii (Boyer de Fonscolombe)

石岡市小幡広根場林道, 25. V. 2008, オトギリソウ／大子町上野宮寒沢, 8. VI. 2008, マタタビ-茎の先端。

ミカンクロアブラムシ

Toxoptera citricida (Kirkaldy)

城里町御前山赤沢林道, 5. V. 2008, ツタウルシ-葉裏。

ハゼアブラムシ

Toxoptera odinae (van der Goot)

城里町御前山赤沢林道, 5. V. 2008, ガマズミ-花梗・葉裏.

ヒゲナガアブラムシ族 **Macrosiphini**

タデヨツオヒゲナガア布拉ムシ

Akkaia polygoni Takahashi

鹿嶋市中, 23. XI. 2008, ミヅソバ-葉裏.

タイワンヨツオヒゲナガア布拉ムシ

Akkaia taiwana Takahashi

鹿嶋市中, 23. XI. 2008, ミヅソバ-葉裏.

カキドウシヒゲナガア布拉ムシ

Aulacorthum glechomae Takahashi

石岡市上曾, 25. V. 2008, カキドウシ-葉裏.

イボタヒゲナガア布拉ムシ

Aulacorthum ibotum (Essig et Kuwana)

大子町上郷赤岡沢林道, 8. VI. 2008, イボタノキ-葉裏.

ヤマブキヒゲナガア布拉ムシ

Aulacorthum kerriae (Shinji)

大子町上郷赤岡沢林道, 8. VI. 2008, ヤマブキ-葉裏.

ニワトコヒゲナガア布拉ムシ

Aulacorthum magnolia (Essig et Kuwana)

大子町八溝山, 7. VI. 2008, ニワトコ-葉裏／鉢田市二重作, 23. XI. 2008, ニワトコ-葉裏や葉柄, 卵生雌虫を含む.

アブラチャンコブア布拉ムシ

Aulacorthum muradachi (Shinji)

城里町御前山赤沢林道, 5. V. 2008, アブラチャン-葉裏.

ヘクソカズラヒゲナガア布拉ムシ

Aulacorthum nipponicum (Essig et Kuwana)

大子町上郷赤岡沢林道, 8. VI. 2008, ヘクソカズラ-葉裏や蔓.

ジャガイモヒゲナガア布拉ムシ

Aulacorthum solani (Kaltenbach)

日立市金沢町金沢川上流, 9. XI. 2008, アオカラムシ-葉裏.

イグサコブア布拉ムシ

Carolinaia obscura (H.R.L.)

本種はイグサの茎株元に見られる赤褐色～褐色のア布拉ムシである。トビイロケアリ(井上尚武氏同定)が蟻道を作りその中に生活している。

石岡市小幡広根場林道, 25. V. 2008, イグサ-茎基部／大子町上野宮寒沢, 8. VI. 2008, イグサ.

アザミクギケア布拉ムシ

Capitophorus cirsiiiphagus Takahashi

鹿嶋市中, 23. XI. 2008, *Cirsium* sp.-葉裏.

シシウドネフタオア布拉ムシ

Cavariella heraclei Takahashi

常陸太田市里川町岡見, 23. IX. 2008, ノダケ-葉柄基部.

ヨモギクビレア布拉ムシ

Coloradoa campestrella Ossiannilsson

日立市水木町泉神社, 9. XI. 2008, ヨモギ-葉裏.

ホウセンカコブア布拉ムシ

Eumyzus impatiensae (Shinji)

日立市金沢町金沢川上流, 9. XI. 2008, ツリフネソウ-葉の虫こぶ, 有翅雄虫を含む.

ツリフネソウスナヨセア布拉ムシ

Hydonaphis impatiens Shinji

高萩市下君田, 23. IX. 2008, ハガクレツリフネ根.

ムカゴイラクサスナヨセア布拉ムシ

Hydonaphis laporteae Miyazaki

高萩市下君田, 23. IX. 2008, ムカゴイラクサ-根.

ホウセンカヒゲナガアブラムシ

Impatientinum impatiens (Shinji)

日立市金沢町金沢川上流, 9. XI. 2008, ハガクレ
ツリフネ-花梗, 有翅雄虫を含む.

キスゲフクレアアブラムシ

Indomegoura indica (van der Goot)

城里町御前山赤沢林道, 5. V. 2008, ミツバウツ
ギ-茎.

イタドリオマルアアブラムシ

Macchiatiella itadori (Shinji)

常陸太田市里川町岡見, 23. IX. 2008, イタドリ-
葉裏.

コモチシダコブアアブラムシ

Macromyzus woodwardiae (Takahashi)

常陸太田市下伊勢畑, 5. V. 2008, タマアジサイ
-葉裏, 幹母を含む／石岡市上曾, 25. V. 2008, ベ
ニシダ-葉裏.

ヒコサンヒメヒゲナガアア布拉ムシ

Macrosiphoniella hikosanensis Moritsu

日立市水木町泉神社, 9. XI. 2008, ヨモギ-葉裏,
卵生雌虫を含む.

キタヒメヒゲナガアア布拉ムシ

Macrosiphoniella hokkaidensis Miyazaki

ひたちなか市高野, 9. XI. 2008, ヨモギ-茎先端
や葉裏.

ヨモギヒメヒゲナガアア布拉ムシ

Macrosiphoniella yomogicola (Matsumura)

日立市金沢町金沢川上流, 9. XI. 2008, ヨモギ-葉裏,
有翅雄虫を含む.

イチゴハマツムラアア布拉ムシ

Matsumuraja rubifoliae Takahashi

石岡市上曾, 25. V. 2008, クサイチゴ-葉裏／日
立市金沢町金沢川上流, 9. XI. 2008, クサイチゴ-
葉裏, 有翅雄虫を含む.

キキョウアア布拉ムシ

Neomyzus codonopsis (Miyazaki)

大子町上郷赤岡沢林道, 8. VI. 2008, ツルニンジ
ン-葉裏.

ウツギトックリアア布拉ムシ

Rhopalosiphoninus deutzifoliae Shinji

常陸大宮市下伊勢畑, 5. V. 2008, ウツギ-葉裏.

シナノキトックリアア布拉ムシ

Rhopalosiphoninus tiliae (Matsumura)

常陸太田市里川町岡見, 23. IX. 2008, ノブキ-果
梗, 有翅雄虫を含む.

ハナウドチビクダアア布拉ムシ

Semaphis heraclei (Takahashi)

常陸太田市里川町岡見, 23. IX. 2008, ミツバ-花
梗基部／日立市金沢町金沢川上流, 9. XI. 2008, ミ
ツバ-葉裏や果梗付近.

ムギヒゲナガアア布拉ムシ

Sitobion akebiae (Shinji)

常陸大宮市下伊勢畑, 5. V. 2008, アケビ-蔓／
石岡市上曾, 25. V. 2008, シラスグ-小穂.

ヤマボウシヒゲナガアア布拉ムシ

Sitobion cornifoliae Shinji

常陸太田市里川町岡見, 23. IX. 2008, ヤマボウ
シ-葉裏.

ナナカマドハマキアア布拉ムシ

Sorbaphis chaetosiphon Shaposhnikov

本種はまず Miyazaki (1971) によりナナカマド
で緩く葉を巻く日本産初記録のアア布拉ムシとして
紹介され, その後, 本種の二次寄主であるオタカラ
コウ世代が岸本 (1996) により記録された (宮
崎昌久博士の同定). 本種の寄生が見られるオタカラ
コウでは葉柄や花梗に蟻道が作られている. 蟻
道を注意深く剥がした時に蟻とともに暗褐色のア
ア布拉ムシが確認できればほぼ本種であることは間
違いない.

常陸太田市里川町岡見, 23. IX. 2008, オタカラ

コウ-葉柄や花梗.

チダケサシヒゲナガアブラムシ

Taiwanomyzus montanus (Takahashi)

大子町上野宮寒沢, 8. VI. 2008, トリアンショウマ-葉裏.

スイカズラヒゲナガア布拉ムシ

Trichosiphonaphis lonicerae (Uye)

日立市金沢町金沢川上流, 9. XI. 2008, ミゾソバ-茎.

アマミヒゲナガア布拉ムシ

Uroleucon amamianum (Takahashi)

常陸太田市里川町岡見, 23. IX. 2008, アキノキリンソウ-茎.

アザミオオヒゲナガア布拉ムシ

Uroleucon giganteum (Matsumura)

日立市金沢町金沢川上流, 9. XI. 2008, タイアザミ-花梗や茎の先端, 卵生雌虫を含む.

ヤマシロギクヒゲナガア布拉ムシ

Uroleucon monticola (Takahashi)

石岡市上曾, 25. V. 2008, シロヨメナ-葉裏や茎の上部／鉾田市二重作, 23. XI. 2008, シロヨメナ-花梗, 有翅雄虫と卵生雌虫を含む.

セイタカアワダチソウヒゲナガア布拉ムシ

Uroleucon nigrotuberculatum (Olive)

鹿嶋市中, 23. XI. 2008, セイタカアワダチソウ-茎／ひたちなか市高野, 9. XI. 2008, セイタカアワダチソウ-茎や花穂／鉾田市二重作, 23. XI. 2008, セイタカアワダチソウ-茎.

コウゾリナヒゲナガア布拉ムシ

Uroleucon picridis (Fabricius)

常陸太田市里川町岡見, 23. IX. 2008, コウゾリナ-茎.

Uroleucon (Uromelan) sp.

本種はノブキの茎で見られた赤色のア布拉ムシ

である. 採集個体は卵生雌虫と有翅雄虫のみで同定の基準となる胎生雌虫が今回は得られなかった. 卵生雌虫の尾片は, 暗色で角状管もほぼ同色であることから *Uromelan* 亜属の 1 種と思われる.

日立市金沢町金沢川上流, 9. XI. 2008, ノブキ-茎, 有翅雄虫と卵生雌虫

キブシアア布拉ムシ

Xenosiphonaphis japonica Takahashi

常陸大宮市下伊勢畑, 5. V. 2008, キブシ-葉裏, 幹母.

マダラアア布拉ムシ亜科 *Drepanosiphinae*

サワシバズチアア布拉ムシ

Mesocallis sawashibae (Matsumura)

城里町御前山赤沢林道, 5. V. 2008, サワシバ-葉裏／石岡市小幡広根場林道, 25. V. 2008, クマシデ-葉裏.

モミジニタイケアア布拉ムシ

Periphyllus californiensis (Shinji)

城里町御前山赤沢林道, 5. V. 2008, チドリノキ-葉裏／常陸大宮市下伊勢畑, 5. V. 2008, チドリノキ-翼果／大子町上野宮寒沢, 8. VI. 2008, チドリノキ-果穗.

クワナニタイケアア布拉ムシ

Periphyllus kuwanaii (Takahashi)

常陸大宮市下伊勢畑, 5. V. 2008, オニイタヤ-葉裏.

イタヤミドリケアア布拉ムシ

Periphyllus viridis viridis (Matsumura)

常陸大宮市下伊勢畑, 5. V. 2008, オニイタヤ-葉裏.

ブナハアア布拉ムシ

Phylloxaphis fagifoliae Takahashi

大子町八溝山, 7. VI. 2008, イヌブナ-葉裏.

ケヤキブチアブラムシ

Tinocallis zelkowae (Takahashi)

城里町御前山赤沢林道, 5. V. 2008, ケヤキ-葉裏.

クリヒゲマダラアブラムシ

Tuberculatus kuricola (Matsumura)

鉾田市二重作, 23.XI.2008, クリ-葉裏, 有翅雄虫と卵生雌虫を含む.

チドリノキカマガタアブラムシ

Yamatocallis acericola Higuchi

確認した個体は黄緑色の有翅胎生雌虫である。本種は比較的大型で、特異な前脚腿節の形からすぐりにカマガタアブラムシの1種であることが判る(松本, 2008)。チドリノキの葉表に点在して寄生が見られ、1コロニーを構成する個体数は少ないが周囲の状況から、偶発寄生ではないことが確認できた。

城里町御前山赤沢林道, 5. V. 2008, チドリノキ-葉表.

ケクダアブラムシ亜科 **Greenideinae**

コナラケクダアブラムシ

Greenidea prinicola Sugimoto

常陸太田市里川町岡見, 23. IX. 2008, テリハコナラ-小枝の蟻道内で生活.

シイニセケクダアブラムシ

Mollitrichosiphum tenuicorpus (Okajima)

日立市水木町泉神社, 9. XI. 2008, スダジイ-小枝の先端, 有翅卵生雌虫を含む.

ヒラタアブラムシ亜科 **Hormaphidinae**

ヨメナコナジラミモドキ (改称)

Aleurodaphis asteris Takahashi et Sorin

鉾田市二重作, 23. XI. 2008, シロヨメナ-葉裏.

ヤブタバココナジラミモドキ

Aleurodaphis blumeae van der Goot

日立市金沢町金沢川上流, 9. XI. 2008, ヤブタバコ-葉裏.

エゴノネコアシアアブラムシ

Ceratovacuna nekoashi (Sasaki)

常陸太田市里川町岡見, 23. IX. 2008, アシボゾ-葉身.

ヒエツノアブラムシ

Pseudoregma panicola (Takahashi)

鉾田市二重作, 23. XI. 2008, ケチヂミザサ-小穂.

ワタムシ亜科 **Eriosomatinae**

センニンソウワタムシ

Colophina clematicola (Shinji)

ひたちなか市高野, 9. XI. 2008, センニンソウ-蔓や茎.

引用文献

岸本 修. 1996. 福井県産アブラムシ科昆虫目録.

福井虫報, 18: 5-12.

松本嘉幸. 2008. アブラムシ入門図鑑. 239 pp., 全国農村教育協会.

Miyazaki, M. 1971. A revision of the tribe Macrosiphini of Japan (Hom., Aphid.). *Insecta Matsumurana*, 34: 1-247.

アミメカゲロウ目

榎本 友好

2008年のアミメカゲロウ目昆虫の動向

茨城県産アミメカゲロウ目昆虫は、2007年までの調査で10科27種が確認されていたが、文献、記録とともに少なく、さらなる調査により多くの種の追加が予想されていた。2008年は、茨城県北部地域や中央地域において桜井 浩氏が精力的に調査を行い、新たにヒロバカゲロウ科4種、ヒメカゲロウ科9種、クサカゲロウ科8種の計21種を確認した(桜井、私信)。採集の詳細については、水戸昆虫研究会会誌「るりぼし」に投稿予定である。

これまでの記録(榎本, 1997; 久保田, 1993; 守谷町自然調査会, 2000)に、桜井氏(私信)の2008年の調査結果を加え、茨城県産アミメカゲロウ目10科48種の種名リストを以下に示した。なお*は、県初記録となる種である。

アミメカゲロウ目昆虫は、茨城県内でもまだ未調査地が多く、種ごとの採集個体数も少ないために、分布や発生状況を考察するにはまだまだデータ不足である。2008年の桜井氏のような調査活動を積極的に進めていきたい。

アミメカゲロウ目 NEUROPTERA

ヘビトンボ科 Corydalidae

1. クロスジヘビトンボ

Parachauiodes continentalis van der Weele

2. ヤマトクロスジヘビトンボ

Parachauiodes japonicus (MacLachlan)

3. ヘビトンボ

Protohermes grandis Thunberg

ラクダムシ科 Inocelliidae

1. ラクダムシ

Inocellia japonica Okamoto

コナカゲロウ科 Coniopterygidae

1. マダラコナカゲロウ

Coniocmpsa japonica Enderlein

2. キバラコナカゲロウ

Coniopteryx abdominalis Okamoto

3. ムツボシコナカゲロウ

Spiloconis sexguttata Enderlein

ミズカゲロウ科 Sisyridae

1. ミズカゲロウ

Sisyrna nikkoana Navas

ヒロバカゲロウ科 Osmylidae

1. ウンモンヒロバカゲロウ*

Osmylus tesselatus MacLachlan

2. ツマモンヒロバカゲロウ

Plethosmylus decoratus (Nakahara)

3. スカシヒロバカゲロウ*

Plethosmylus hyalinatus (MacLachlan)

4. ヒロバカゲロウ

Lysmus harmandinus (Navas)

5. キマダラヒロバカゲロウ

Spilosmylus fravicornis (MacLachlan)

6. カスリヒロバカゲロウ*

Spilosmylus nipponensis (Okamoto)

7. ヤマトヒロバカゲロウ*

Spilosmylus tuberculatus (Walker)

ヒメカゲロウ科 Hemerobiidae

1. ミドリヒメカゲロウ

Notiobiella subolivacea Nakahara

2. ミヤマヒメカゲロウ*

Hemerobius humulinus Linnaeus

3. ヤマトヒメカゲロウ*

Hemerobius japonicus Nakahara

4. サザナミヒメカゲロウ*

Hemerobius shibakawae Nakahara

5. チャバネヒメカゲロウ

Micromus numerosus Navás

6. コチャバネヒメカゲロウ*

- Micromus angulatus* (Stephens)
7. ホソバヒメカゲロウ*
- Micromus multipunctatus* Matsumura
8. アヤホソバヒメカゲロウ*
- Micromus variegatus* (Fabricius)
9. シロタエヒメカゲロウ*
- Micromus dissimilis* (Nakahara)
10. アシマダラヒメカゲロウ*
- Spilomicromus maculatipes* (Nakahara)
11. プチヘリヒメカゲロウ*
- Wesmaelius nervosus* (Fabricius)
- クサカゲロウ科 Chrysopidae
1. キントキクサカゲロウ*
Brinckochrysa kintoki (Okamoto)
2. クモンクサカゲロウ*
Chrysopa formosa Brauer
3. ヨツボシクサカゲロウ
Chrysopa septempunctata Wesmael
4. ヤマトクサカゲロウ
Chrysoperla nipponensis (Okamoto)
5. アカスジクサカゲロウ
Chrysoperla furcifera (Okamoto)
6. スズキクサカゲロウ*
Chrysoperla suzukii (Okamoto)
7. フタモンクサカゲロウ*
Dichochrysa formosana (Matsumura)
8. ヨツボシアカマダラクサカゲロウ*
Dichochrysa parabola (Okamoto)
9. イツホシアカマダラクサカゲロウ*
Dichochrysa cognatella (Okamoto)
10. クロヒゲフタモンクサカゲロウ*
Dichochrysa ussuriensis (Makarkin)
11. タイワンクサカゲロウ*
Mallada formosana (Matsumura)
12. カオマダラクサカゲロウ*
Mallada desjardinsi (Navas)
13. キタオオクサカゲロウ*
Nineta alpicola (Kuwayama)
14. アミメクサカゲロウ
Nacaura matsumurae (Okamoto)
- カマキリモドキ科 Mantispidae
1. キカマキリモドキ
Eumantispes harmandi Navas
2. ヒメカマキリモドキ
Mantispa japonica MacLachlan
- ウスバカゲロウ科 Myrmeleontidae
1. ウスバカゲロウ
Hagenomyia micans MacLachlan
2. ホシウスバカゲロウ
Glenuroides japonicus MacLachlan
3. オオウスバカゲロウ
Heoclisis japonica (MacLachlan)
- ツノトンボ科 Ascalaphidae
1. オオツノトンボ
Protidricerus japonicus (MacLachlan)
2. キバネツノトンボ
Ascalaphus ramburi MacLachlan
3. ツノトンボ
Hybris subjacens Walker

引用文献

- 榎本友好, 1997 牛久自然観察の森における昆虫目録, 牛久自然観察の森環境調査報告書II ; P 112-126
- 久保田正秀. 1993. アミメカゲロウ目. 水戸昆虫研究会(編). 茨城県の昆虫. pp. 86-87, 水戸市立博物館.
- 守谷町自然調査会(編). 2000. もりやの自然誌. 321pp., 守谷町教育委員会.

コウチュウ目

大桃 定洋

2008 年のコウチュウ目昆虫の動向

1. コウチュウ目昆虫の調査状況

茨城県産コウチュウ目昆虫の調査は当面の目標を 3,000 種として進めている。進捗状況は緩やかでも着実に増加して前年 (2007 年) 末までの県産種は 115 科 2,722 種であったが、2008 年の調査で新たに 17 科 27 種の分布を確認したので総数は 116 科 2,749 種となった。茨城県産甲虫目録掲載種数の増加の変遷は以下の通りである。

茨城県産甲虫リスト (2000) : 107 科 2,412 種

補遺目録 (1)(2005) : +58 科 171 種
→112 科 2,583 種

補遺目録 (2)(2008) : +51 科 139 種
→115 科 2,722 種

追加記録 (2008) : +17 科 27 種
→116 科 2,749 種

本年は全般的に昆虫の発生数が少なかったように感じた。これは山間部の枯れ木の叩き網で落する昆虫や訪花している昆虫の数などから実感できた。また、夏季～秋季の高頻度な豪雨は多くの河川を洪水状態とし、河川敷に生息する甲虫類や水生甲虫類の生息を攪乱した。この影響は初冬まで続いている河川での採集は全く成果が上がらなかつたが、稲敷市浮島の低湿地(妙岐の鼻)などの止水域における発生状況には影響を及ぼさなかつたようを感じた。

2. 追加種

2008 年は県初記録として以下の 27 種の生息を確認した。今回も目録の充実に貴重な標本を提供された市毛勝義、坂寄 廣、高橋敬一の各氏に感謝申し上げる。なお、科名の後ろの (カッコ) 内の数値はその科の県内からの記録種数 + 今回の報告種数 = 茨城県産種数を示す。

1. タマキノコムシ科 Leiodidae (15+1=16)

1) オオカワタマキノコムシ

Leiodes okawai Nakane

1 ex., 20.X.2001, 高萩市上君田 (alt. 570m),
坂寄 廣 採集。

2. ハネカクシ科 Staphylinidae (205+5=210)

1) セミゾキノカワハネカクシ

Coprophilus impressus Sharp

1 ex., 24.VI.2008, 高萩市横川・大北川源流部,
高橋採集。

2) ヤマトオオメハネカクシ

Quedius juno Sharp

1 ex., 24.VI.2007, 笠間市 (旧岩間町) 愛宕山,
大桃採集。

3) ネアカマルクビハネカクシ

Tachinus trifidus Sharp

大子町花瓶山(公文・公文, 2008); 1ex.,
24.VI.2007, 笠間市(旧岩間町)愛宕山, 大桃採集。

4) ツマグロアカバハネカクシ

Hesperus tiro (Sharp)

1 ex., 24.VII.2008, 高萩市横川・大北川源流部,
大桃採集。

5) オオシリグロハネカクシ

Astenus suffusus (Sharp)

1 ex., 2.VI.2008, 稲敷市 (旧桜川村) 浮島, 大桃採集。

3. ホソクシヒゲムシ科 Callirhipidae (0+1=1)

1) ムネアカクシヒゲムシ

Horatocera niponica Lewis

大子町花瓶山(公文・公文, 2008).

4. コメツキダマシ科 Eucnemidae (18+1=19)

1) ヒゲボソヒメコメツキダマシ

Hypocoelus harmandi Fleutiaux

1♂, 24.VI.2008, 常陸太田市 (旧里美村) 岡見,
高橋採集。

5. ケシキスイ科 Nitidulidae (76+1=77)
- 1) トゲアシチビケシキスイ
Meligethes scheklini Reitter
 5 exs., 2.VI.2008, 稲敷市浮島, 大桃採集.
6. テントウムシ科 Coccinellidae (67+1=68)
- 1) ナカイケミヒメテントウ
Scymnus nakaikemensis Sasaji
 1 ex., 3.IV.2008, 稲敷市(旧桜川村)浮島, 高橋採集.
7. ヒメマキムシ科 Lathridiidae (10+1=11)
- 1) トフシケシマキムシ
Migneauxia orientalis Reitter
 2 exs., 17.VII.2007, 北茨城市華川町水沼ダム, 大桃採集.
8. コキノコムシ科 Mycetophagidae (12+1=13)
- 1) コモンヒメコキノコムシ
Litargus japonicus Reitter
 2 exs., 13.X.2008, 牛久市下根町, 高橋採集.
9. チビキカワムシ科 Salpingidae (5+1=6)
- 1) マルムネチビキカワムシ
Salpingidae mineus humeralis Lewis
 1 ex., 29.IV.2007, 城里町(旧七会村) 塩子・仏国寺, 大桃採集.
10. ナガクチキムシ科 Melandryidae (45+1=46)
- 1) ミゾバネナガクチキ
Melandrya modesta Lewis
 大子町花瓶山(公文・公文, 2008).
11. キノコムシダマシ科 Tetratomidae (6+1=7)
- 1) ルリコノコムシダマシ
Tetratoma sakaguchii Nakane
 1 ex., 28.IX.2008, 北茨城市関本町定波, 高橋採集.
12. カミキリムシ科 Cerambicyidae (234+3=237)
- 1) ナカネアメイロカミキリ
Obrium nakanei Ohbayashi
- 北茨城市関本町(市川ら, 2008).
- 2) ミヤマドウボソカミキリ
Pseudocalamobius montanus Hayashi
 北茨城市関本町, 高萩市花貫渓谷, 大子町花瓶山, 日立市堅砂山, 常陸太田市武生林道(市川ら, 2008).
 - 3) クビアカトラカミキリ
Xylotrechus rufilius Bates
 土浦市右糀(市川ら, 2008).
13. ヒゲナガゾウムシ科 Anthribidae (34+1=35)
- 1) タテスジヒメヒゲナガゾウムシ
Rhaphitropis japonica Shibata
 大子町花瓶山(公文・公文, 2008).
14. オトシズミ科 Attelabidae (46+2=48)
- 1) セアカチョッキ
Inovolvulus sanguinipennis (Roelofs)
 2 exs., 28.VI.2008, 阿見町下小池, 大桃採集.
 カマツカの生葉を掬って採集した.
 - 2) ムツモンオトシズミ
Apoderus praecellens Sharp
 大子町花瓶山(公文・公文, 2008).
15. ゾウムシ科 Curculionidae (220+4=224)
- 1) コウノクモゾウムシ
Euryommatus kanoi Zumpt
 大子町花瓶山(公文・公文, 2008).
 - 2) ハリゲカシワクチブトゾウムシ
Nothomyloceus illitus (Reitter)
 土浦市宗塚(吉武・瀬島, 2008).
 - 3) アイノシギゾウムシ
Curculio aino Kono
 1 ex., 2.VI.2008, 稲敷市(旧桜川村)浮島, 高橋採集; 1 ex., 2.VI.2008, 稲敷市(旧桜川村)浮島, 大桃採集.
 - 4) ツメクサタネコバンゾウムシ
Tychius picrostris (Fabricius)
 1 ex., 2.VI.2008, 稲敷市(旧桜川村)浮島, 高橋採集, 森本桂同定・保管. 目下分布拡大中の注目種で, 北海道, 秋田, 新潟, 栃木, 石川, 岐阜, 岡山の各県からの記録がある.

霞ヶ浦・浮島のコウチュウ類

16. ホソクチゾウムシ科 Apionidae (12+1=13)

1) クチナガホソクチゾウムシ

Apion protractum Sharp

1 ex., 12.IV.2008, かすみがうら市 (旧千代田町) 閑居山, 高橋採集; 1 ex., 24.VI.2008, 高萩市横川・大北川源流部, 大桃採集.

17. キクイムシ科 Scolytidae (12+1=13)

1) チュウガタナガキクイムシ

Platypus modestus Blandford

大子町花瓶山 (公文・公文, 2008).

3. 引用文献

- 市川和雄・公文暁・公文保幸. 2008. 茨城県のカミキリムシ II. るりぼし, (37): 2-216.
 公文 暁・公文保幸. 2008. 花瓶山周辺で見つかつた甲虫類の記録. るりぼし, (36): 38-52.
 高野 勉・大桃定洋. 2000. 茨城県産甲虫リスト. るりぼし, (23): 2-155.
 高野 勉・大桃定洋. 2005. 茨城県産甲虫リスト補遺 (1). るりぼし, (32): 35-61.
 高野 勉・大桃定洋. 2008. 茨城県産甲虫リスト補遺 (2). るりぼし, (36): 18-37.
 吉武 啓・瀬島翔馬. 2008. 茨城県と岡山県におけるハリゲカシワクチブトゾウムシの採集例. 甲虫ニュース, (163): 16.

2008 年のコウチュウ目昆虫の文献

茨城県産コウチュウ目昆虫を扱った 2008 年の報文の中で、市川らがまとめた茨城県のカミキリムシ II は労作である。従来の記録を可能な限り精査して新たに 3 種の生息を確認するとともに茨城県産種を 237 種にまとめあげ、今後の調査の方向性などを指摘している。また、高野・大桃がまとめた茨城県産甲虫リスト補遺 (2) は、補遺 (1) の後の 3 年間の調査結果をまとめた報告で、茨城県産種として新たに 51 科 139 種を追加した。公文兄弟による花瓶山の甲虫類に関する報告は 5 種の茨城県初記録と多くの珍しい種の記録を含み、調査の乏しかった地域の貴重な資料である。

1. 稲敷市浮島地区 (旧桜川村妙岐の鼻)

その昔、霞ヶ浦の湖畔には広々としたヨシ原の所々に舟付き場、砂浜、ガレ場などがあつたらしが、近年の防岸整備事業などで消滅してしまつた。ところが近年、景観に対する価値観の変化とともに一部では砂浜やヨシ原の復元・復活が試験され、一見して類似の景観は復活しているかに見える。しかし、そこに生息していた多くの生き物が本当に復活しているのかは難しい問題であるが、僅かに潜み・生き延びていた生き物達が繁殖を始めるかもしれないことに期待したい。その様な復活の可能性を秘めた場所が霞ヶ浦の南西湖畔：稲敷市浮島地区 (旧桜川村妙岐の鼻) である。そこは辛うじて残されたヨシ刈り場で、オオセツカ、ヒシクイ、コジュリンなどに代表される野鳥の休息・聖域地として保護され、観察小屋、駐車場、トイレが整備されてヨシ原には木製の遊歩道も設置されている。この環境は、同時に低湿地に適応した生き物にも聖域の地を提供しているかもしれない。そこで、妙岐の鼻周辺にはどんな昆虫類 (特にコウチュウ類) が生息しているかを調べ、将来への遺産として残したいと思う。

2. 霞ヶ浦周辺の昆虫相

霞ヶ浦周辺の甲虫類に関するまとまった報告はない。昭和 55 年頃から始まった茨城県の昆虫相調査の報告書 (大桃ら, 1993) にも僅かな種の記録が散見されるだけである。その様な状況の中、オビヒメツキモドキの生息が確認 (大桃・高橋, 2005) されて霞ヶ浦・浮島はにわかに騒がしくなり、さらに、ナカイメミヒメテントウの生息も確認されて益々注目度は上昇した。その後の数回の調査で茨城県初記録となる 17 種 (高野・大桃, 2008) を含む 44 科 148 種の甲虫を確認した。今後も継続する調査でより多くの種を確認できると思われるが、適当な時期に生息する甲虫類の目録を含めて別途公表したいと考えている。

3. 浮島の甲虫相の特徴

浮島地域で記録した甲虫類の一部は既に茨城県

産甲虫リスト補遺 (2) (高野・大桃, 2008) に報じたが、これらを含めて目下のところ、同地の甲虫は 44 科 148 種である。この中の下記の 17 種は県内唯一の生息地となっている。

- 1) キバネセミゾハネカクシ
Stenagria sapida (Sharp)
- 2) オオシリグロハネカクシ
Astenus suffusus (Sharp)
- 3) スジマグソコガネ
Aphodius rugosostriatus Waterhouse
- 4) ホソデオネスイ
Europs temporis Reitter
- 5) コバケデオネスイ
Mimemodes monstrosus (Reitter)
- 6) ミカドチビケシキスイ
Meligethes mikado Reitter
- 7) オビヒメコメツキモドキ
Anadastus pulchelloides Nakane
- 8) エグリツヤヒメマキムシ
Holoparamecus contractus Wollaston
- 9) ヒラムネヒメマキムシ
Enicmus histrio Toy et Tomlin
- 10) オシマヒメテントウ
Nephus oshimensis Sasaji
- 11) ナカイケミヒメテントウ
Scymnus nakaikemensis Sasaji
- 12) フタオビヒメハナノミ
Mordellina signatella (Marseul)
- 13) ケオビアリモドキ
Anthelephila cribriceps (Marseul)
- 14) クロホシトビハムシ
Longitarsus bimaculatus (Bily)
- 15) フタイロヒサゴトビハムシ
Chaetocnema bicolorata Kimoto
- 16) アイノシギゾウムシ
Curculio aino Kono
- 17) ツメクサタネコバンゾウムシ
Tychius picirostris (Fabricius)

先に廣瀬はトンボ類を材料に浮島地区が貴重な昆虫の宝庫であることを指摘し、ほとんど調査がされていない甲虫類も早急な対応を喚起した (廣瀬, 1980)。その後 30 年を経て、筆者が 2006-2008

年の調査に基づいてまとめた結果は 44 科 148 種であった。勿論、調査途上のまとめであり、おそらく 500-700 種は記録できるであろうと思っている。今回のまとめでは既に 17 種もの浮島地域特産種を記録し、それらの中のオビヒメコメツキモドキ、ナカイケミヒメテントウ、ホソデオネスイなどは全国的に非常に珍しい種である。また、県内では他に 1~2 例しか記録のないコハンミョウモドキ、シマケシゲンゴロウ、ミヤタケダルマガムシ、ガマキスイ、オオルリハムシ、ババスクヒメゾウムシなどの多くの湿地環境に特有の種を確認し、浮島の地勢がよく反映されていることを認めた。

4. 引用文献

- 大桃定洋ら. 1993. コウチュウ目 Coleoptera, 茨城県の甲虫, 水戸市立博物館, p.88-196.
- 大桃定洋・高橋敬一. 2005. オビヒメコメツキモドキを霞ヶ浦湖畔で採集, 月刊 むし, 418: 4-5.
- 佐藤光一. 2000. 栃木県産テントウムシ科分布資料. インセクト, 51(1): 7-9.
- 高野 勉・大桃定洋. 2008. 茨城県産甲虫リスト補遺 (2), るりぼし, (36): 18-37.
- 廣瀬 誠. 1980. 「ここにも虫が」, (3) 霞ヶ浦南岸, おけら, (50): 139.
- 平野幸彦. 2007. 日本産ネスイムシ科 Monotomiidae について, *Kanagawa-Chuho*, (158): 11-20.
- H.Yoshitomi. 2005. Systematic revision of the family Scirtidae of Japan, with phylogeny, morphology and bionomics (Insecta, Coleoptera, Scirtidae). *Jpn. J. Sys. ent., Monographic Ser.*, 3, 312pp.

2008 年のコウチュウ目昆虫の文献

- 吾妻正樹. 2008. ホタルの幼虫を放流することで起きる問題. 茨城生物, (28): 75-80.
- 久松正樹. 2008. 茨城の新しい住人たち—昆虫編—. 茨城生物, (28): 59-69.
- 山口卓宏・小西和彦・水谷伸夫・守屋成一. 2008. 茨城県南部で確認されたアルファルファタコゾウムシの捕食寄生性天敵, 「昆蟲」ニューシリーズ, 11(4): 179-184.

コウチュウ目(分布拡大種)

疋田 直之

1. ユリクビナガハムシの本県への侵入

ユリクビナガハムシ *Lilioceris merdigera* (Linnaeus) は栽培種のユリ属の害虫として知られているがこれまで茨城県から発見されてなかった、体長7.0~8.5mmの大型のハムシである。海外ではヨーロッパ、アメリカ、メキシコ、ブラジル、中国、朝鮮半島、台湾に広く分布し、日本国内の個体群は栽培種のユリ属のみを食草とすることから帰化種である可能性が指摘されている（永幡、1995）。なお、ヨーロッパではスズラン、ユキザサ、タマネギ等も食草として利用している。

下記のように本種を採集しているので、茨城県初記録として報告する。

2exs., 13 VI 2008, 水戸市千波町北葉山 (初見日).

1ex., 9 VIII 2008, 水戸市千波町北葉山 (終見日).

1ex., 22 VI 2008, 水戸市笠原町.

1ex., 27 VI 2008, 水戸市千波町中山.

1ex., 27 VI 2008, 水戸市見川町手負山.

上記のうち千波町北葉山の記録は、自宅庭に栽培しているシンテンポウユリ(タカサゴユリ×テンポウユリ)とヤマユリより得た。千波町中山と見川町手負山はシンテンポウユリから、笠原町では園芸種のカサブランカよりそれぞれ採集した。自宅でおこなった観察では、成虫は6月中旬から8月中旬に、幼虫は6月下旬から9月上旬に確認した。ヤマユリ等の夏に咲く栽培ユリの若い蕾を成虫・幼虫共に加害することとなり、今後本県においても栽培ユリの害虫となる可能性を示唆している。さらに、近年個体数の減少が著しいヤマユリを食草としたことから、本種が野生のヤマユリを加害し、大きな打撃を与える可能性も考えられる。

また、櫻井浩氏より下記のデータを頂いたので公表するとともに、お礼申し上げる。なお、食草については不明である。

1ex., 22 IV 2008, 小美玉市羽鳥, 櫻井浩採集.

同所的に近縁種のアカクビナガハムシ *Lilioce ris subpolita* (Motschulsky) も同じ食草より観察されたが、この種は成虫が4月下旬から5月下旬、幼虫が5月中旬から7月中旬に観察され、栽培種のユリ属の蕾を加害することはなかった。

2. トウキョウヒメハンミョウの北進

疋田・渡辺 (2008) は、これまで本県では県南部からのみ記録されていたトウキョウヒメハンミョウ *Cicindela kaleea yedoensis* Kano を水戸市から報告した。またこの記録が本種の分布北限となる。前年確認した産地を観察したところ、下記の産地では本年も安定した発生を確認した。

3exs., 23 VII 2008, 水戸市千波町北葉山.

多数., 26 VII 2008, 水戸市千波町千波公園.

多数., 26 VII 2008, 水戸市米沢町逆川緑地.

多数., 26 VII 2008, 水戸市笠原町水戸保健所.

多数., 26 VII 2008, 水戸市見川町偕楽園公園.

多数., 26 VII 2008, 水戸市下国井町七ツ洞公園.

また以下の産地で新たに確認することができた。

1ex., 25 VII 2008, 水戸市見川町手負山.

多数., 26 VII 2008, 水戸市常磐町偕楽園.

上記のうち多数の成虫を観察した産地では、サイズの異なる幼虫の巣穴も多数確認することができたことは、本種がこの地域に定着したことを示唆している。特に、千波町千波公園、米沢町逆川緑地、見川町偕楽園公園及び常磐町偕楽園では、極めて多数の本種を確認することができ、最も高い個体密度は1平方メートル当たり10頭を超えた。また公園緑地だけでなく、千波町北葉山や見川町手負山のような住宅地にも散見されることから、個体密度は低いものの千波湖周辺にはかなり広範囲に分布している可能性が高い。

水戸市近隣の東茨城郡城里町常北家族旅行村ふれあいの里、那珂市戸茨城県植物園及びひたちなか市海浜公園でも2008年8月9日に調査を行ったが、本種を確認することはできなかった。

引用文献

- 永幡嘉之. 1995. 島根県で採集したユリクビナガハムシについて. すかしば, (41/42): 9.
- 疋田直之・渡辺健. 2008. 水戸市でトウキョウヒメハンミョウを採集. るりぼし, (36): 65.

ハチ目

久松 正樹

2008年のハチ目昆虫の動向

2008年は、梅雨前線の活動が弱く少雨となり、県内のいくつかの観測所では7月の降水量の最低記録を更新した。一方、8月は大気の状態が不安定となり、雷を伴った大雨の日が多くなった。植物繊維を用いて巣をつくるスズメバチなどは、営巣時期に雨量が少なかつたので、発生量が増えると予想された。大洗町消防のハチ類の駆除件数は、昨年が70件(スズメバチ41, アシナガバチ22, ミツバチ7)であったのに対し、今年は110件(11月末現在で、スズメバチ94, アシナガバチ15, ミツバチ1)であった。つくば市すぐ対応室の集計では、昨年が766件、今年が813件であった。今年は、昨年に比べハチの成育には好条件であったようと思える。この増加の中で、つくば市市街地でのハチの巣駆除件数の増加が見られた(すぐ対応室職員、私信)。このことは、同地域でハチ類の個体数増加があったためなのか、それとも、つくばエクスプレス沿線開発に伴う人口増加によって、人とハチが遭遇する機会が増えたためなのかは不明である。

久松は2008年に北茨城市関本町小川で、ハナバチ類の採集を1年間通して実施し2,106個体を得た。同様の調査は、八溝山、御前山、茨城大学水戸キャンパス、ひたち海浜公園、筑波山、美浦村陸平遺跡、坂東市菅生沼の7カ所で行われているが、2千を越える個体数を得られた場所はなく、小川のハナバチ類相の豊かさが伺える。採集された個体の同定作業が進まないと、種類の詳細を語れないが、春に採集されたもののうちイカズチキマダラハナバチ *Nomada icazti* Tsuneki, ウシヅノキマダラハナバチ *Nomada comparata* Cockerell, トワダキマダラハナバチ *Nomada towada* Tsuneki, カオジロヒメハナバチ *Andrena (Andrena) hondoica* Hirashima, スネナガヒメハナバチ *Andrena (Andrena) longitibialis* Hirashimaなどは県初記録の種となる。

2006年に坂東市で、2007年に坂東市および常総市で観察されたチャイロスズメバチは、本年も常総カントリー倶楽部(坂東市法師戸)で確認された。この附近に定着する可能性が高いと思われる。2009年も引き続き観察していきたい。

2008年は、スズメバチに関する展示会も開催された。茨城大学理学部では、茨城大学理学部・水戸市立博物館共催企画展「スズメバチの仲間の不思議な世界 一刺すのはメスだけ、働くのもメスだけー」を、平成20年8月2日(土)~8月24日(日)に茨城大学理学部で開催した。さらに、同内容を茨城大学理学部サイエンスフォーラムとして平成20年12月9日(火)~平成21年2月10日(火)に茨城大学インフォメーションセンター三の丸庁舎3階(旧県庁舎)で紹介した。

2008年のハチ目昆虫の文献

2008年に印刷されたハチ目昆虫に関する文献は、以下の通りである。久松・山根(2008)は、2000年に八溝山麓で調査したハナバチ類のファウナに関する論文で、県内の既報告との比較検討が行われている。矢島 稔著「ハチのふしげとアリのなぞ」には、2003年るりぼし28号(水戸昆虫研究会発行)に「ウマノオバチの生態」の報告があることが記されている。山口ほか(2008)は、アルファルフアタコゾウムシ蛹から羽化した寄生性天敵の調査し、ヒメバチ科のシンクイトガリヒメバチ *Agrothereutes grapholithae* (Uchida), マツケムシヒラタヒメバチ *Itoplectis alternans epinotiae* Uchida, アカハラタコゾウヤドリヒラタヒメバチ *Scambus (Scambus) rubrigaster* Kusigemati, ミイロトガリヒメバチ *Gambrus ruficoxatus* (Sonan), *Bathythrix kuwanae* Viereck, タコゾウアカヤドリバチ *Gnotus hyperae* Kusigemati, *Gnotus* sp. コバネコバチ科の *Trichomalopsis shirakii* Crawford, *Dibrachoides* sp. の9種を報告した。

- 久松正樹. 2008a. 茨城の新しい住人たち－昆虫編
－. 茨城生物, (28): 59-69.
- 久松正樹. 2008b. 城里町におけるウマノオバチの
記録. るりぼし, (36): 66.
- 久松正樹. 2008c. トゲアシヒメハナバチを採集.
るりぼし, (36): 66.
- 久松正樹. 2007d. 霞ヶ浦湖畔・陸平遺跡の野生ハナ
バチ相. 日本昆虫学会第68回大会事務局 (編).
日本昆虫学会第68回大会講演要旨. pp. 65, 日
本昆虫学会第68回大会事務局.
- 久松正樹. 2008e. 昆虫からみる茨城の環境変化.
環境とカウンセラー, 4(2): 44-49.
- 久松正樹・山根爽一. 2008. 茨城県八溝山麓におけ
る野生ハナバチの種構成と花の利用様式, 「昆
蟲」 ニューシリーズ, 11(3): 115-127.
- 鈴木成美. 2008. アケビコンボウハバチの産卵に出
会う. 茨城生物, (28): 70.
- 矢島 稔. 2008. わたしの昆虫記⑥ハチのふしげと
アリのなぞ. 173 pp., 偕成社.
- 山口卓宏・小西和彦・水谷伸夫・守屋成一. 2008. 茨
城県南部で確認されたアルファアルファタコゾ
ウムシの捕食寄生性天敵, 「昆蟲」 ニューシリ
ーズ, 11(4): 179-184.

ハチ目(アリ類)

三浦麻里子・山根爽一

2008年のアリ類の動向

2008年は、茨城大学教育学部生物学教室で、国営ひたち海浜公園でアリ類の調査が行われた。ここでは、その概要を示す。

国営ひたち海浜公園は、整備前は在日米軍の射爆撃場として使用され、人の出入りが禁じられていたため、場所によっては海岸本来の自然植生を残している。海岸近くに防風の目的で植林されたアカマツ、クロマツの林もある程度の成熟しており、アリの生息環境としては安定している。砂丘には立木がほとんどなく、土壤も砂状で乾燥している。調査は2008年の8月と9月に、ひたち海浜公園内からアカマツ林（サイトA）、クロマツ林（サイトB）、砂丘（サイトC）と環境条件の異なる3サイトを調査地として選定し、見つけ捕りとリター篠い、土壤篠い、蜂蜜トラップの4つの方法を組み合わせて採集した。ただし、サイトCにおいては木本植物がなかった為、リター篠いと蜂蜜トラップの樹幹部を行わなかった。

調査の結果、4亜科14属19種、3,668個体が得られた。亜科別の種数はカタアリ亜科Dolichoderinae 1属1種、

ヤマアリ亜科 Formicinae 4属8種、フタフシアリ亜科 Myrmicinae 7属8種、ハリアリ亜科 Ponerinae 2属2種であった（表1）。

採集されたアリは普通種がほとんどで希少種はおらず、平地や公園型の環境に生息する種が多くなった。サイトごとのアリ種数をまとめると、サイトAでは3亜科12属16種、サイトBは4亜科13属17種、サイトCは2亜科5属5種となった（図1）。また、単一のサイトでのみ捕れた種はサイトAでミカドオオアリ *Camponotus japonica*、サイト

表1. ひたち海浜公園内の3つのサイトで採集されたアリの種別個体数。

亜科名および種名		サイトA	サイトB	サイトC	合計
Dolichoderinae カタアリ亜科					
<i>Technomyrmex gibbosus</i>	ヒラフシアリ	0	1	0	1
小計		0	1	0	1
Formicinae ヤマアリ亜科					
<i>Camponotus japonicus</i>	クロオオアリ	58	3	6	67
<i>Camponotus kiusiuensis</i>	ミカドオオアリ	1	0	0	1
<i>Formica japonica</i>	クロヤマアリ	130	109	15	254
<i>Lasius hayashi</i>	ハヤシケアリ	0	1	0	1
<i>Lasius japonica</i>	トビイロケアリ	155	12	0	167
<i>Lasius talpa</i>	ヒメキイロケアリ	6	7	0	13
<i>Paratrechina flavipes</i>	アメイロアリ	71	161	0	232
<i>Paratrechina sakurae</i>	サクラアリ	4	5	4	13
小計		425	298	25	748
Myrmicinae フタフシアリ亜科					
<i>Crematogaster matsumurai</i>	ハリブトシリアゲアリ	35	3	0	38
<i>Crematogaster osakensis</i>	キイロシリアゲアリ	40	34	0	74
<i>Leptothorax spinosior</i>	ハリナガムネボソアリ	11	1	0	12
<i>Myrmica jessensis</i>	エゾクシケアリ	0	0	9	9
<i>Pheidole fervida</i>	アズマオオズアリ	357	43	0	400
<i>Pristomyrmex punctatus</i>	アミメアリ	108	104	0	212
<i>Solenopsis japonica</i>	トフシアリ	19	47	0	66
<i>Tetramorium tsushimae</i>	トビイロシワアリ	935	1,100	61	2,096
sp.*	不明種	1	0	0	1
小計		1,506	1,332	70	2,908
Ponerinae ハリアリ亜科					
<i>Hypoponera sauteri</i>	ニセハリアリ	3	3	0	6
<i>Ponera japonica</i>	ヒメハリアリ	3	1	0	4
<i>Brachyponera chinensis*</i>	オオハリアリ(♂)	0	1	0	1
小計		6	5	0	11
合計個体数		1,937	1,636	95	3,668

*:集計上ではデータから除外した

Bでヒラフシアリ *Technomyrmex gibbosus* (♀), サイトCでエゾクシケアリ *Myrmica jessensis* である。このうちヒラフシアリは関東では稀とされているが、本調査で採集されたのは有翅の女王であり、結婚飛行とも時期が重なるため、他の地域から飛来したことと考えられる。エゾクシケアリは、本来は標高 200~1700 m の山地に生息する種とされているが、河口付近の開けた草地や裸地、河原などでも発見例がある(久保田, 1983)。また、ひたち海浜公園(当時、水戸射爆場)でも 30 年ほど前に採集報告がある(山根・井上, 1993)ので、海浜公園においては定着しているものと思われる。前例については河川の洪水で山地から運ばれたという説があるが、確かな理由は不明である。

過去に行われた茨城県内各地における調査結果と比較すると、砂丘部は極端に少ない種数からみてファウナは貧弱だが、マツ林の部分は貧弱ということはなかった。

引用文献

- 久保田政雄. 1983. アリに関する記録(3). 蟻(11): 7-8.
 山根爽一・井上尚武. 1993. ハチ目 HYMENOPTERA. 水戸昆虫研究会(編). 茨城県の昆虫. pp. 197-215, 水戸市立博物館.

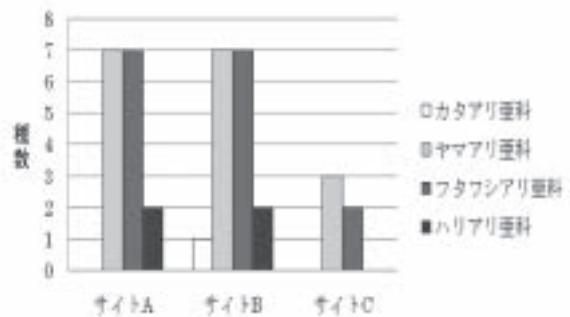


図 1. ひたち海浜公園で採集されたアリのサイトごとの種数(亜科別)。

シリアゲムシ目

桜井 浩

2008年シリアゲムシ目昆虫の動向

現在までに茨城県下でシリアゲムシ目の昆虫を対象にした調査はほとんどなかった(櫻井, 2007)。そこで筆者は2008年に、茨城県最北部の大子町および北茨城市で山地に生息する種を、小美玉市およびほとんどが未調査の地域である県西地方を中心に平野に生息する種の調査を行った。その結果、茨城県初記録となるヒロオビシリアゲ *Panorpa miyakei Miyamoto* を、八溝山で確認することができた。以下に、2008年のシリアゲムシ昆虫の調査結果を採集記録と共に記しておく。なお、採集者は全て筆者である。

ガガンボモドキ科

2007年までの調査で確認されていた未記載種ガガンボモドキの1種 *Bittacus sp.*(櫻井, 2007)は、今回の調査で新たに北茨城市と大子町から確認された。勝間信之(私信)によれば、常陸太田市里美および北茨城市定波でのマレーズトラップ採集品の中から本種が確認されており、北部山地に広く分布しているようだ。

ガガンボモドキ *Bittacus nipponicus Navas* は県西部に点在する平地林で多くの個体を確認することができた。水田に囲まれた林では特に個体数が多くあらためて湿り気のある環境を好むことがわかる。

トガリバガガンボモドキ *Bittacus mastrillii Navas* は八溝山では確認できたが、八溝以外の地域では発見できなかつた。本種は八溝山山頂周辺の林道沿いなどで見られたが、道路脇が刈り取り整備された場所ではほとんど見られなかつた。人為的な整備による生息数への影響が懸念される。

2008年のガガンボモドキ科の採集記録は以下の通りである。

[採集記録]

ガガンボモドキの一種 *Bittacus sp.*

2♂2♀, 14 VI 2008, 北茨城市関本町栄蔵室山

1♀, 14 VI 2008, 北茨城市関本町小川

1♀, 19 VII 2008, 大子町八溝山

ガガンボモドキ *Bittacus nipponicus Navas*

2♂2♀, 22 VI 2008, 筑西市猫島

2♂2♀, 15 VIII 2008, 北茨城市関本町花園

1♂1♀, 15 VIII 2008, 北茨城市関本町定波

トガリバガガンボモドキ *Bittacus mastrillii Navas*

3♂, 19 VII 2008, 大子町八溝山

キアシガガンボモドキ *Bittacus laevipes Navas*

1♀, 19 VII 2008, 常陸太田市武生林道

2♂, 15 VIII 2008, 北茨城市関本町花園

シリアゲムシ科

2007年までの調査では、茨城県で6種のシリアゲムシが確認されている(櫻井, 2008)。

2008年の調査では、新たにヒロオビシリアゲ *Panorpa miyakei Miyamoto* が八溝山において確認され、茨城県初記録となった。なお、同定は栃木県立博物館の中村剛之氏による。中村(2000)によれば、ヒロオビシリアゲは栃木県北西部の山地で記録されているものの個体数は少ないという。茨城で発見されたことは極めて興味深い記録といえる。また、多賀山地の日立市高鈴山での採集品の中からマルバネシリアゲ *Panorpa nipponensis Navas* を確認した。今後筑波山塊からの記録も期待される。

2008年のシリアゲムシ科の採集記録及び新たに確認された記録は以下の通りである。

[採集記録]

シリアゲモドキ属

スカシシリアゲモドキ

Panorpodes paradoxus Maclachian

3♂3♀, 14 VI 2008, 北茨城市関本町栄蔵室山

シリアゲムシ属

キシタトゲシリアゲ

Panorpa fulvicaudaria Miyake

1♂3♀, 22 IV 2008, 石岡市大塚加波山

3♀, 26 IV 2008, 笠間市上郷駒場

1♂2♀, 14 VI 2008, 北茨城市関本町栄蔵室山

プライアシリアゲ *Panorpa pryeri* MacLachian

2♀, 14 VI 2008, 北茨城市関本町栄蔵室山

キバネシリアゲ *Panorpa ochraceopennis* Miyake

2♂2♀, 19 VII 2008, 大子町八溝山

ヤマトシリアゲ *Panorpa japonica* Thunberg

1♂, 27 IV 2008, 小美玉市中延

1♂, 9 V 2008, 小美玉市羽鳥

3♂, 15 V 2008, 小美玉市与沢百里

1♂, 14 VI 2008, 北茨城市関本町才丸

1♂, 14 VI 2008, 北茨城市関本町栄蔵室山

1♂, 19 VII 2008, 大子町八溝山

1♂, 7 IX 2008, 小美玉市与沢百里

ヒロオビシリアゲ *Panorpa miyakei* Miyamoto

1♂1♀, 19 VII 2008, 大子町八溝山

マルバネシリアゲ *Panorpa nipponensis* Navas

1♂2♀, 22 VII 2006, 日立市宮田町高鈴山

4♂, 15 VIII 2008, 北茨城市関本町定波

1♂1♀, 15 VIII 2008, 北茨城市関本町小川

引用文献

中村剛之. 2000. 栃木県の長翅目 (昆虫綱). 栃木

県立博物館研究紀要-自然-, (17): 1-18.

櫻井 浩. 2007. 茨城県のガガンボモドキ. るりぼ
し, (34): 2-6.櫻井 浩. 2008. シリアゲムシ目. ミュージアムパ
ーク茨城県自然博物館 (編). 茨城県自然博物
館総合調査報告書—2007年茨城県の昆虫お
よびその他の無脊椎動物の動向. pp. 33-34, ミ
ュージアムパーク茨城県自然博物館.

茨城県で記録されたガガンボモドキ科は4種.

シリアゲムシ科はヒロオビシリアゲが1種増え7種となった。両科ともに、茨城県に生息の可能性のある種が複数あるので、さらに調査を続けてていきたい。栃木県では未記載種も数種発見されており(中村, 2000), 北関東全域にわたって、さらに多くの調査が望まれる。

ハエ目(ハナアブ類)

市毛 勝義

2008年ハナアブ類の動向

2008年は、春先から全国的に気温が高い傾向が報道されていたが、茨城東部は低温と天候不順に悩まされる日々が続いた。そのためか、花貫渓谷ではイタヤカエデとイロハモミジの開花時期がほぼ重なる等の現象が起き、ハナアブ科も例年と異なる顔ぶれが見られた。

今年は、奥久慈男体山を何度か訪れてみた。男体山は2002年の山火事前後に数回登っていたが、山火事で弱った広葉樹が多数倒れたためか、幼虫が朽木で育つグループのハナアブが比較的多く見られた。残念ながら大型の朽木性ハナアブは発見出来なかつたが、ムツボシハチモドキハナアブ *Takaomyia sexmaculata* が多数発生しており、山頂部に集まって乱舞するさまは壯觀であった。また、山頂部や山頂周辺での登山道を覆っていた中・高木がほとんどなくなつたため、風通しの良い場所を好むオビヒラタアブ類などが多くなり、山火事以前とはかなりハナアブ相が変わっている。

1. 南方系ハナアブ科の北進傾向

ハエ目は同定が非常に困難なため、全国的な分布が明らかになっている種類は少ない。そのなかで、ハナアブ科は比較的大形な種類が含まれ、全国的に興味を持つアマチュアも増えていることもあり、大凡の分布が明らかになっている。

2007年も八溝山頂でササヤマオビヒラタアブ *Epistrophe sasayamana* を多数確認したが、2008年も5月と10月に奥久慈の男体山で複数の個体を確認した。ササヤマオビヒラタアブは、体長12mm程のハナアブで、近縁種とは顔の黒色中条で容易に区別できる。昨年は、7月の採集だったので、西日本等から飛来した個体が二次的に発生したと考えていたが、この春に得られた個体は翅の損傷もなく、県内で継続的に発生していると思われる。

また、キゴシハナアブ *Eristalinus (Lathyrophthalmus) quinquestriatus* も北上を続けて

いるハナアブとされており、従来茨城では夏から秋にかけて稀に得られるだけであったが、本年の11月の調査では局所的にかなり多数の個体が確認され、県内の普通種に近づきつつあると思える。

2. 茨城県産ハナアブ科について

今年は、市毛(2008a)で日本産のナミハナアブ亜族 *Eristalina* の再検討を報告した。茨城県産の本亜族は4属10種が記録されており、今後は南部～西部にかけての湿地帯周辺でシマクロハナアブ *Eristalis (Eoseristalis) arbustorum* の発見の可能性が残る。

また、市毛(2008b)で日本産のヒメヒラタアブ属 *Sphaerophoria* についての検討を報告し、日本産を8種に整理した。茨城県産は3種と増減は無いが、カオスジヒメヒラタアブの学名が *Sphaerophoria reginae* へ変更となった。また、従来比較的大型で顔に黒条を欠くヒメヒラタアブはキタヒメヒラタアブ *Sphaerophoria philanthus* とされてきたが、ミナミヒメヒラタアブ *S. indiana* であることが判明し、和名・学名共に変更となった。

引用文献

市毛勝義. 2008a. 日本産ナミハナアブ亜族

*Eristalina*について. はなあぶ, 26: 9-48.

市毛勝義. 2008b. 日本産ヒメヒラタアブ属

*Sphaerophoria*の数種について. はなあぶ, 26:

49-61.

2008年のハナアブ類の文献

前述以外のハエ目昆虫に関する文献は以下の通りである。山口ほか(2008)は、アルファルファタコゾウムシ蛹から羽化した寄生性天敵の調査し、ヤドリバエ科の *Bessa parallela* (Meigen) が認められたことを報告した。

- 市毛勝義. 2008c. 北隆館 新訂原色日本昆虫大図
鑑のハナアブ科に関する追記事項. はなあぶ,
26: 62-65.
- 市毛勝義. 2008d. 茨城県からのツマグロホソヒラ
タアシバエ *Callomyia sonora* Shatalkin の記録.
はなあぶ, 26: 66-67.
- 柳田紀行. 2007. 高萩市でトワダオオカを採集.
るりぼし, 34:46-47.
- Tachi T. and H. Shima. 2008. Phylogenetic
relationships of subgenera of the genus *Exorista*
Meigen, with a revision of the Japanese species
(Diptera: Tachinidae). *Ent. Sci.*, 11(4): 419-448
- 山口卓宏・小西和彦・水谷伸夫・守屋成一. 2008. 茨
城県南部で確認されたアルファルファタコゾウ
ムシの捕食寄生性天敵, 「昆蟲」ニューシリーズ,
11(4): 179-184.

トビケラ目

勝間 信之

2008年のトビケラ目昆虫の動向

2008年は、6、7月は梅雨前線の活動が弱く、雨量が少なかったが、8月以降は局所的な集中豪雨に見舞われ、各地で水害や土砂崩れなどの被害が続出した。特に水生昆虫であるトビケラ目は集中豪雨で河川が氾濫すると河床の搅乱が起こり、成虫の発生量に多大な影響を及ぼすと思われ、8月以降のトビケラ成虫の発生量は前年度より少なかったように思えた。河床が安定すれば再び発生量は徐々に回復すると思われるが、今年の異常とも言える集中豪雨の影響により来年度のトビケラ目の発生量がどのような変化をするのか注目される。

筆者は2008年に土浦市小野で2008年3月下旬からマレーズトラップによる調査を開始し、現在までのところ、合計29種類のトビケラ目を確認している。なお、本調査は冬季のトビケラ目の発生状況を把握するため、2009年3月下旬まで調査を行う予定としている。また、石岡市上曾湿地において、5月、6月、7月にライトトラップ調査を実施した結果、合計17種類のトビケラ目を確認した。筑波山及びその周辺におけるトビケラ相に関しては、河瀬ほか(2004)、勝間(2005)があるが、今年度の記録と合わせればトビケラ相としてはほぼ出揃った感があり、今後まとまった記録を報告する予定としているが、とりあえずここでは茨城県初記録となる種を中心と報告する。

シンテイトビケラ科 *Dipseudopsidae* Ulmer

ニセスイドウトビケラ属の1種

Pseudoneureclipsis sp.

茨城県初記録。本種は大陸で記載されている *Pseudoneureclipsis ussuriensis* Martynovに似るが、種の確定は大陸産との比較検討が必要なため、ここではsp.扱いとした。また、勝間(2007)で記録した栃木県産のものと同一種と思われる。

〔採集記録〕

3♂1♀、常陸太田市武生林道、19 VII 2008、桜井 浩。

シマトビケラ科 *Hydropsychidae* Curtis*Diplectrona aiensis* Kobayashi

茨城県初記録。Kobayashi(1987)により島根県の標本を基に記載された種であるが、全国的な採集例は少ないと思われる。また、勝間(2005)で記録したミヤマシマトビケラ属の1種 *Diplectrona* sp. は再検討の結果、キブネシマトビケラ *D. kibuneana* Tsudaと判明したので、現在のところ、本属は少なくとも上記2種が茨城県内に産することが明らかとなつた。

〔採集記録〕

7♂、石岡市上曾、7 VI 2008、筆者。

カタツムリトビケラ科 *Helicopsychidae* Ulmerカタツムリトビケラ属の1種 *Helicopsyche* sp. (図1)

本属は Iwata(1927)により日本産1種 *Helicopsyche yamadai* Iwataが幼虫を基に記載されているが、成虫を基とした記載はされていない。茨城県内においては勝間(2005)によりつくば市白滝神社において幼虫により記録されたが、成虫での記録は今回が茨城県初記録と思われる。本種は細かな砂礫が多い細流で確認されることから、同様の環境の多い筑波山周辺の細流において個体数は少ないながらも普遍的に生息しているものと思われる。

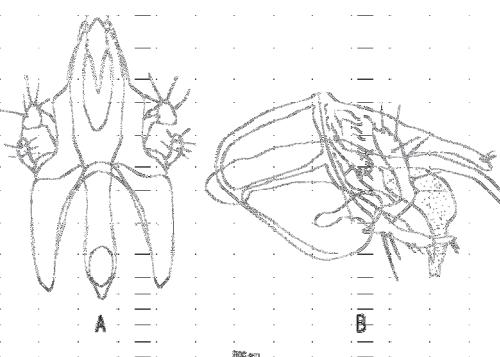


図 1. カタツムリトビケラ属の1種のオスの交尾器。A: 背面, B: 側面。

Fig. 1. Male genitalia of *Helicopsyche* sp. A: dorsal view, B: lateral view.

[採集記録]

1♂3♀, 土浦市小野, 5 VII 2008~21 VII 2008, 筆者;
2♀, 同上, 21 VII 2008~2 VIII 2008, 筆者; 2♀, 同上, 2 VIII 2008~17 VIII 2008, 筆者.

引用文献

- Iwata, M. 1927. Trichopterous larvae from Japan. *Annotationes Zoologicae Japonenses*, 11: 203-233.
- 勝間信之. 2005. 茨城県内で確認したトビケラ類の記録(第1報). るりぼし, 32: 2-10.
- 勝間信之. 2007. 栃木県那珂川町(旧小川町)のトビケラ類. るりぼし, 34: 17-18.
- 河瀬直幹・松村雄・倉西良一・久松正樹. 2004. 茨城県恋瀬川上流域のトビケラ相—マレーズトラップによるトビケラ成虫の調査—. 茨城県自然博物館研究報告, 7: 103-123.
- Kobayashi, M. 1987. Caddisflies or Trichoptera from Shimane Prefecture in Japan. *Bulletin of the Kanagawa prefectural Museum (Natural Science)*, 17: 13-35.

2008年のトビケラ目昆虫の文献

2008年に印刷されたトビケラ目昆虫に関する文献は、以下の通りである。勝間(2008)は、2006年から2007年にかけて茨城県南地方を調査した結果、16種のトビケラ目を報告した。これら16種は水質汚濁の進んでいる県南地方において確認されていることから、比較的水質に対する耐性が強い種と判断されると考えられる。しかし、平地流における河川環境は山地のそれより河川改修、水質汚濁などの人間活動によりめまぐるしく状況が変わることから、トビケラはもとより、県南地方の水生昆虫類の生息状況をこれからも見据えていくことが必要と思われる。

勝間信之. 2008. 茨城県内で確認されたトビケラ類の記録(第3報)—茨城県南地方のトビケラ相—. るりぼし, 36: 57-58.

チョウ目(チョウ類)

佐々木 泰弘

2008 年のチョウ目(チョウ類)の動向

茨城県のチョウの動向について、南方系のチョウの動向と希少種の動向について簡単に述べる。

1. 南方系のチョウの動向

南方系チョウ類の北上分布拡大が、2008 年度もみられた。特にナガサキアゲハ *Papilio memnon*, ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius* の分布拡大がうかがえる。減少傾向がみられたクロコノマチョウ *Melanitis phedima* も確認でき、茨城県内に確実に住み着いているようである。

ナガサキアゲハ *Papilio memnon*

2008 年度も本種は県内各地に分布を拡大している様子がうかがわれる。筑波山麓の桜川市坂寄では複数個体の春型が報告された(飯島. 2008 a)。当地では確実に定着していることが伺える。また、県北地域にても、日立市諏訪町にて塩田正寛氏が複数個体採集している。筆者も常陸太田市大中にも目撃をしており着実に分布を北上させている様子がうかがえる。

1♂, 2008 VIII 2, 常陸太田市大中(目撃)

ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius*

県内の広範囲で確認され、分布が県全域に広がってきてている。2007 年度の筆者自身の確認例だけでも、筑波山山頂、吾国山山頂、笠間市笠間稲荷神社境内、常陸大宮市ガンマフィールド、常陸太田市里美牧場、日立市風神山と、県内の秋には普通に見られる一般的なヒョウモン類となっている。

[採集記録]

1♀, 2008 VII 6, 笠間市吾国山山頂

1♂1♀, 2008 VII 14, 筑波山御幸ヶ原

1♂, 2008 VIII 9, 常陸太田市里美牧場

2♂1♀, 2008 X 2, 笠間市稲荷神社

1♂, 2008 XI 3, 日立市風神山山頂

1♂1♀, 2008 XI 5, 常陸大宮市ガンマ研

クロコノマチョウ *Melanitis phedima*

一時期個体数が減少し、採集確認の報告は少なくなっているが、2008 年度も発生生息していることと考えられる。

[採集記録]

1♂1♀, 2008 IX 28, 常陸太田市亀作

ムラサキツバメ *Narathura bazalus*

県内のマテバシイの植えられたところには広く発生しているようである。分布域は福島県に達している。

2. 希少種の動向

2008 年度は、スギタニルリシジミ *Celastrina sugitanii* の八溝山周辺の新産地が見つかった。また、ムモンアカシジミ *Shirozua jonasi* の多数個体発生している所が見つかった。その他の種に大きな変化は見られなかったが、以下に示す種は、どの種も発生地が限られたものとなっており減少傾向である。

八溝山地の福島県、栃木県にてはウスバシロチョウ *Parnassius glacialis* の発生を、福島県塙町にてはヒメシロチョウ *Leptidea amurensis* の発生を 2008 年も確認しているが、それら発生地から近い大子町では、確認することはできなかった。

チャマダラセセリ *Pyrgus maculatus*

近年、記録がある県内産地の各所で減少傾向が激しい種である。今年度は県北の 3 市で確認できたが、北茨城市以外は、個体数が少なかった。

[採集記録]

1♂1♀, 2008 VIII 3, 高萩市下君田柳沢

1♂, 2008 VIII 9, 常陸太田市里美牧場

8♂2♀, 2008 VIII 10, 北茨城市定波

スジグロチャバネセセリ *Thymelicus leoninus*

[採集記録]

3♂, 2008 VII 5, 常陸太田市里美牧場

2♂, 2008 VIII 3, 常陸太田市里川岡見
1♂, 2008 VIII 9, 北茨城市花園

ツマグロキチョウ *Eurema laeta*

過去ほとんど見ることができなくなっていた種であるが、近年報告が見られるようになり、2008年度も、笠間市周辺にて確認することができた。まだ幼虫等は、確認しておらず丹念に調査し確認していきたい。

[採集記録]

1♂, 2008 VIII 29, 笠間市大渕
1♂, 2008 X 09, 笠間市箱田

スギタニルリシジミ *Celastrina sugitanii*

大子町八溝山周辺で調査を行ったところ、広範囲に生息していることが確認できた。低標高の大子町上金沢でも確認できたが、当地には食樹のトチノキは見あたらず、何を食べているのか確認の必要がある。

[採集記録]

2♂, 2008 IV 26, 大子町上金沢
1♂, 2008 IV 26, 大子町八溝山蛇穴新田
1♂, 2008 IV 29, 大子町八溝山上郷
1♀, 2008 V 4, 常陸太田市里川岡見
1♀, 2008 V 4, 高萩市下君田

ハヤシミドリシジミ *Favonius ultramarinus*

2007年に確認したカシワ林から、今年も発生していることを確認することができた。しかし、過去に記録のあった里美牧場内の他のカシワ林からは、確認することができなかつた。

[採集記録]

1♂, 2008 VII 5, 常陸太田市里美牧場

ウラジロミドリシジミ *Favonius saphirinus*

[採集記録]

2♂, 2008 VII 5, 常陸太田市里美牧場

アイノミドリシジミ *Chrysozephyrus aurorinus*

[採集記録]

4♂, 2008 VIII 3, 常陸太田市里川岡見

オナガシジミ *Araragi enthea*

[採集記録]

2exs., 2008 VIII 9, 常陸太田市里美牧場

ムモンアカシジミ *Shirozua jonasi*

里美村里川宿の産地は50個体を越える数を見ることができた。久しぶりに確認できた大きな発生地であった。

採集記録

[採集記録]

5♂3♀, 2008 VIII 9, 常陸太田市里川宿

2008年チョウ目(チョウ類)の文献

荒川正. 2008. 常陸太田市(旧里美村)でスジボソヤマキチョウ, スジグロチャバネセセリを採集. おけら, (64): 93.

久松正樹. 2008. 茨城の新しい住人たち—昆虫編 一. 茨城生物, (28): 59-69.

久松正樹. 2008. 昆虫からみる茨城の環境変化. 環境とカウンセラー, 4(2): 44-49.

久松正樹・瀬楽かおる. 2008. 茨城県坂東市におけるナガサキアゲハ(チョウ目:アゲハチョウ科)の記録. 茨城県自然博物館研究報告, (11): 15-16.

飯島義克. 2008a. 筑波山の春型ナガサキアゲハの記録. おけら, (64): 87.

飯島義克. 2008b. 自宅の庭で発生するチョウたち. おけら, (64): 88.

井上大成・久松正樹・飯島義克・三浦優子. 2008. 筑波山および茨城県南部と西部の平地におけるウラギンヒョウモン(チョウ目:タテハチヨウ科)の採集・目撃記録と分布. 茨城県自然博物館研究報告, (11): 1-5.

井上大成・植村好延・久松正樹. 2008. 茨城県におけるナガサキアゲハ(チョウ目:アゲハチョウ科)の記録. 茨城県自然博物館研究報告, (11): 17-20.

中村隆志. 2008. 土浦市でウスイロコノマチョウを採集. おけら, (64): 93.

佐々木泰弘. 2008. チャマダラセセリの求愛行動観察. おけら, (64): 44.

- 塩田正寛. 2008. 旧下館市・小貝川河川敷のチヨウ
群集. おけら, (64): 10-44.
- 塩田正寛. 2008. 旧・岩瀬町富谷山のチヨウ群集.
おけら, (64): 59-68.
- 塩田正寛. 2008. 旧・岩間町愛宕山・南山展望台
におけるツマグロヒヨウモンの観察. おけら,
(64): 83-86.
- 塩田正寛. 2008. 漂う・・ヒヨウモンモドキの採
集地(茨城県). やどりが, (218): 43-51.

チョウ目(ガ類)

林 恵治・佐藤 和明・金井 節博

2008 年チョウ目(ガ類)の動向

1. 南方系種の北進傾向

2007 年に続き、南方系種の北進傾向が顕著であった。以下、いくつかの種について、2008 年の状況をまとめておく。

ハマキガ科 Tortricidae

ビロードハマキ

Cerace xanthocosma Diakonoff

分布の北限が茨城で、つくば市吾妻(星, 2007)や、かすみがうら市雪入山(廣瀬, 2008)で記録されていたが、2008 年に福島県いわき市小名浜からも採集報告された(田村, 2008)。なお、県内では 6 月 21 日に水戸市千波町中山(疋田直之採集)や、7 月 1 日に常総市大塚戸(戸塚三郎採集)でも採集されている。

イラガ科 Limacodidae

ヒロヘリアオイラガ

Parasa lepida (Cramer)

1994 年 9 月 15 日の取手市戸頭での幼虫・繭の報告(松井・松井, 1995)に始まり、1996 年 9 月 15 日にはつくば市長峰で幼虫目撃(矢野, 1997)されていた。2008 年は 5 月 26 日に結城市の金井自宅庭のクルミの木で発生を確認した。

ヤガ科 Noctuidae

ホソバミドリヨトウ

Euplexidia angusta Yoshimoto

従来近畿以南に生息するとされていたが、2008 年 9 月 6 日に佐藤が八溝山で採集した。また、同じく佐藤が 2008 年 10 月 25 日に宍塙大池で採集しており、茨城県内へは、既に広く定着していると思われる。茨城県初記録種。

クロモンホソコヤガ

Araeopteron kurokoi Inoue

従来伊豆半島以西に分布とされていたが、2008 年 10 月 25 日に佐藤が土浦市宍塙大池で採集した。茨城県初記録種。

ハマオモトヨトウ

Brithys crini (Fabricius)

従来房総半島以南に分布とされていたが、2008 年 10 月 20 日に、取手市井野台の宅地で育てられている園芸種ベニハケオモトで幼虫を確認した。茨城県初記録種。

ルリモンクチバ

Lacera procellosa Butler

従来関東南部以南に分布とされていたが、2008 年 8 月 9 日に佐藤が北茨城市関本町小川で採集した。

2. 追加記録

2007 年に続き、佐藤が土浦市宍塙大池で、林が取手市、龍ヶ崎市を中心に採集を実施した。また、佐藤が八溝山と北茨城市関本町小川で採集を試みた。その結果、茨城県初記録種が 10 種確認できたので以下に採集記録を示す。なお、水戸市立博物館発刊の「茨城県の昆虫」では、1167 種のガ類が報告されていたが(松井, 1993)，その後の追加記録をまとめると、2008 年までに少なくとも 261 種の追加を加えることができる。茨城県のガ類は 1428 種が記録されたことになる。

以下の採集記録は採集日、採集地、採集者の順で示す。

[採集記録]

シャクガ科 Geometridae

シロテンカバナミシャク

Eupithecia tripunctaria Herrich-schaffer

- 2008 IV 5, 取手市本郷, 林
マエモンオオナミシャク
Triphosa sericata (Butler)
- 2008 IX 6, 大子町八溝山, 佐藤
ハグルマエダシャク *Synegia hadassa* (Butler)
- 2008 VI 28, 土浦市宍塙大池, 佐藤
2008 VIII 23, 取手市井野台, 林
ミスジシロエダシャク
Taeniphila unio (Oberthur)
- 2008 IX 6, 大子町八溝山, 佐藤
クロスジハイイロエダシャク
Hirasa paupera (Butler)
- 2008 IX 6, 大子町八溝山, 佐藤
- カレハガ科 Lasiocampidae
- ギンモンカレハ
Somadasys brevivenis (Butler)
- 2008 IX 6, 大子町八溝山, 佐藤
- ヤガ科 Noctuidae
- スギタニゴマケンモン
Harrisimemna marmorata (Hampson)
- 2008 IX 6, 大子町八溝山, 佐藤
アオアカガネヨトウ
Karana laetevirens (Oberthur)
- 2008 VIII 9, 北茨城市関本町小川, 佐藤
ナンキンキノカワガ
Gadirtha impingens Walker
- 2008 IX 6, 大子町八溝山, 佐藤
シロスジアツバ
Bertula apacoalis (Walker)
- 2008 VI 28, 土浦市宍塙大池, 佐藤

lachesis (Fabricius) は、従来、東海地方以西に分布するとされていたが、2007 年には千葉県富津市まで北上している。茨城県への侵入は時間の問題と思われる所以、2009 年にはこの種の動向を追跡する。

引用文献

- 廣瀬 誠. 2008. 茨城県産の 2 種の蛾の分布記録. 月刊むし, (445): 44-45.
- 星 光流. 2007. 茨城県つくば市でビロードハマキの越冬幼虫を採集. 月刊むし, (442): 26.
- 松井安俊. 1993. チョウ目ガ類. 水戸昆虫研究会(編). 茨城県の昆虫. pp. 238-298, 水戸市立博物館.
- 松井安俊・松井英子. 1995. 茨城県取手市でヒロヘリアオイラガの幼虫・繭を採集. 房総の昆虫, (14): 7.
- 田村克典. 2008. 福島県いわき市でビロードハマキ採集. 月刊むし, (451): 47.
- 矢野幸夫. 1997. 東京都・埼玉県・茨城県に生息するヒロヘリアオイラガ. 房総の昆虫, (19): 2.

2008 年のチョウ目(ガ類)の文献

- 前述以外のガ類に関する文献は以下の通りである.
- 久松正樹. 2008. 茨城の新しい住人たち—昆虫編—. 茨城生物, (28): 59-69.
- 久松正樹・小松友枝. 2008. 雪入ふれあいの里公園でのビロードハマキの観察記録. るりぼし, (36): 62.

3. 茨城県内への侵入が予想される種

スズメガ科のクロメンガタスズメ *Acherontia*

茨城県産ハエ目の記録

市毛 勝義

日本産のハエ目については、1989年発行の日本産昆虫総目録で107科5302種のハエ目が収録されており、その後もわずかながら年々新種が追加されている。

近年、各地で昆虫目録が作成されているが、他の昆虫に比べハエ目の収録数は著しく少ない。この理由のひとつに、図鑑の収録種数が少ないことが挙げられる場合があるが、互いに似通った種類が大半なので写真で外形を図示してもあまり役立つとは思われていないことや、従来の図鑑の限られた解説スペースでは、種の特徴がほとんど解説しきれないという図鑑特有の欠点もある。しかし、斑紋などの明瞭な特徴を備えながら、図示されていない種類が多数残されていることも事実である。

今年発行された新訂原色日本昆虫大図鑑では93科950種強が図示されており、旧版より200種近く増加しているが、日本産のハエ目は120科1万種以上と考えられており、まだまだ科レベルで図示されていないものも多数ある。

茨城県のハエ目については、井上ほか(1993)により34科213種のハエ目が報告されている。これは、近隣地域の目録に比べ著しく少なものであるが、積極的にハエ目を収集して調べる人材がいなかつたことが主な原因である。

一方、つくば市の森林総合研究所の末吉ほか(2003)による北茨城周辺の調査では、非常に多数のハエ目が記録されており、グループによっては日本でもっと多くの種数を報告している埼玉県昆虫誌より多い。しかし、この報告でNematocera(ガガンボ等)と有弁類(クロバエ・イエバエ・ヤドリバエ等)は報告されておらず、両群の調査が進むと相当な種類数が記録できると思われる。

近県のハエ目の種類数等はおよそ表1のようになっており、伊東らによる東京都本土部昆虫目録作成プロジェクトでは、文献記録だけを基にして2008年3月現在68科1269種を記録している。

表1. 茨城県周辺のハエ目昆虫の種類数
(各県で報告のある目録より)

	埼玉	神奈川	栃木	末吉ほか (2003)
科数	83	78	65	41
種数	1447	905	896	441

今回は、末吉ほか(2003)により記載された論文などから茨城県産の種をリストアップとともに、いくつか手元のハエ目を報告する。なお、末吉ほか(2003)については、非常に多岐にわたった報告であり、学名未確定種もあるので何回かに分けて紹介することとする。

最近の茨城県産のハエ目データ

1. ヒメガガンボ科 Limoniidae

井上ほか(1993)では、ガガンボ科 Tipulidaeとして41種が報告されており、うち今回のヒメガガンボ科 Limoniidaeに該当するのは17種となる。

1. *Achyrolimonia basispina* (Alexander, 1924)
北茨城: Sueyoshi et al. (2007a)
2. *Adelphomyia* sp.
北茨城: Sueyoshi et al. (2007a)
3. *Dicranomyia (D.) ochripes* (Alexander, 1955)
北茨城: Sueyoshi et al. (2007a)
4. *Dicranomyia* sp.
北茨城: Sueyoshi et al. (2007a)
5. *Discobola marginata*
北茨城: Sueyoshi et al. (2007a)
6. *Epiphragma trichomera* Alexander, 1955
北茨城: Sueyoshi et al. (2007a)
7. *Limonia yakushimensis* Alexander, 1930
北茨城: Sueyoshi et al. (2007a)
8. *Metalimnobia bifasciata* (Schrink, 1781)
北茨城: Sueyoshi et al. (2007a)
9. *Metalimnobia quadrimaculata* (Linnaeus, 1760)
北茨城: Sueyoshi et al. (2007a)

10. *Metalimnobia* sp. 2
北茨城: Sueyoshi *et al.* (2007a)
11. *Microlimonia omogoensis* (Alexander, 1954)
北茨城: Sueyoshi *et al.* (2007a)
12. *Prionolabis* sp.
北茨城: Sueyoshi *et al.* (2007a)
13. *Rhipidia isospilota* (Alexander, 1936)
北茨城: Sueyoshi *et al.* (2007a)
14. *Ula cincta* Alexander, 1924
北茨城: Sueyoshi *et al.* (2007a)
15. *Ula* sp. nr. *U. longicellata*
北茨城: Sueyoshi *et al.* (2007a)
16. *Ula* sp.
北茨城: Sueyoshi *et al.* (2007a)
2. クチキ力科 *Axymyiidae*
1. *Axymyia japonica* Ishida, 1953 ヤマトクチキカ
2♂2♀, late. III. 2006, 北茨城市関本町定波
(eclosion in late. IV. 2006)
クチキ力科 *Axymyiidae* については、別属の未記載が県内に分布する。
3. ハル力科 *Cramptonomyiidae*
1. *Haruka elegans* Okada, 1938 ハマダラハルカ
1ex., 10. V. 2005, 北茨城市関本町定波; 4exs., 28. IV. 2006, 茨城県高萩市花貫渓谷
4. ツノキノコバエ科 *Keroplatidae*
1. *Keroplatus biformis* (Okada, 1938)
メスグロヒラタキノコバエ
1♂, 13.VII.2005, 茨城県城里町御前山西登山口付近。
5. 力科 *Culicidae*
1. *Toxorhynchites towadensis* (Matsumura, 1916)
トワダオオカ
1ex., 25. V. 2008, 大子町男体山山頂付近
本種については、柳田 (2007) で花貫渓谷の記録が報告されている。
6. キアブ科 *Xylophagidae*
1. *Xylophagus albopilosus* Miyatake, 1965
ケジロキアブ
- 北茨城: Sueyoshi (2003); 5exs., 17. IV. 2006, 水戸市森林公園付近
2. *Xylophagus matsumrai* Miyatake, 1965
ホシキアブ
北茨城: Sueyoshi (2003); 1ex., 13. V. 2001, 大子町八溝山
7. *Coenomyiidae* クサアブ科
1. *Coenomyia basalis* Matsumura, 1915
ネグロクサアブ
水戸森林公園: 市毛 (2005)
8. *Xylomyidae* キアブモドキ科
1. *Xylomya moiwana* (Matsumura, 1915)
ミツボシキアブモドキ
北茨城: Sueyoshi (2003); 1ex., 23. V. 1999, 水戸市森林公園
9. *Stratiomyidae* ミズアブ科
1. *Actina diadema* Lindner, 1936
キアシホソルリミズアブ
1ex., 30. V. 1999, 水戸市木葉下林道
2. *Actina jezoensis* (Matsumura, 1916)
エゾホソルリミズアブ
1ex., 14. IV. 2002, 水戸市森林公園付近
3. *Allognosta flavofemoralis* Pleske, 1926
1ex., 29. IV. 2000, 水戸市森林公園付近
4. *Allognosta japonica* Frey, 1960
キバラトゲナシミズアブ
1ex., 30. V. 1999, 水戸市木葉下林道
5. *Allognosta shibuyai* Nagatomi et Tanaka, 1969
1ex., 29. IV. 2000, 水戸市森林公園付近
6. *Microchrysa japonica* Nagatomi, 1975
2exs., 2. VI. 2001, 水府村 男体山-大円地越
7. *Psecticus aurifer* (Walker, 1854)
キイロコウカアブ
1ex., 25. V. 2002, 水戸市千波
8. *Psecticus matsumurae* Lindner, 1936
ヒメルリミズアブ
6exs., 20. VII. 2005, 北茨城市関本町定波
9. *Psecticus tenebrifer* (Walker, 1849) コウカアブ
1ex., 9. VI. 2001, 水戸市千波
10. *Sargus niphonensis* Bigot, 1879 ルリミズアブ

- 5exs., 3. X. 1998, 水戸市千波
11. *Odontomyia garatas* Walker, 1849
コガタミズアブ
1ex., 20. VII. 2000, 大子町八溝山山頂付近
12. *Odontomyia hirayamae* Matsumura, 1916
ヒラヤマミズアブ
1ex., 2. VI. 2001, 水府村 大円地越-持方牧場
13. *Stratiomys japonica* (van der Wulp, 1885)
ミズアブ
5exs., 29. VII. 2000, 水戸市藤井町
14. *Clitellaria obtusa* (James, 1941)
ハラビロミズアブ
6exs., 2. VI. 2001, 水府村 男体山-大円地越
15. *Hermetia illucens* (Linnaeus, 1758)
アメリカミズアブ
3exs., 23. IX. 1999, 水戸市千波
16. *Craspedometopon frontale* Kertesz, 1909
ネグロミズアブ
1ex., 21. VI. 2005, 大子町八溝山山頂付近
10. シギアブ科 Rhagionidae
1. *Arthroceras japonicum* Nagatomi, 1954
1ex., 24. VI. 2005, 大子町八溝山山頂付近
2. *Arthroceras rubrifrons* Nagatomi, 1966
1ex., 24. VI. 2005, 大子町八溝山山頂付近; 1ex., 19. VI. 2005, 北茨城市関本町定波付近
3. *Chrysopilus ditissimis* Bezzi, 1912
キアシキンシギアブ
1♂, 25. V. 2008, 大子町男体山山頂付近
11. ナガレアブ科 Athericidae
1. *Suragina satsumana* (Matsumura, 1916)
サツマモンナガレアブ
1ex., 27. VI. 2006, 水戸市森林公園付近
2. *Atherix ibis japonica* Nagatomi, 1958
ハマダラナガレアブ
1ex., 21. V. 2003, 北茨城市関本町定波
12. コガシラアブ科 Acroceridae
1. *Nipponocyrthus shibakawae* (Matsumura, 1916)
シバカワコガシラアブ
2exs., 20. IV. 2007, 水戸市森林公園付近
かなり顕著な体形の種類であるが、東京以北の

- 記録は殆ど無い。茨城からは今回が初記録と思われる。
2. *Oligoneura nigroaenea* (Motschulsky, 1866)
セダカコガシラアブ
2exs., 20. IV. 2007, 水戸市森林公園付近
春先に各地で見られる。日本産の *Oligoneura* 属については、多数の種類が記載されているが、その後殆ど検討されていないため、通常この学名が使用されている。
13. ツリアブ科 Bombyliidae
1. *Systropus luridus* Taitzev, 1977
キムネハラボソツリアブ
2exs., 16. IX. 2000, 北茨城市関本町定波; 4exs., 21. IX. 2006, 北茨城市関本町定波
茨城県産の *Systropus* 属の中では、唯一小楯板後半が黄色となることで識別は容易。
2. *Systropus nitobei* Matsumura, 1916
ニトベハラボソツリアブ
1ex., 19. IX. 1999, 水戸市木葉下林道; 2exs., 21. IX. 2006, 北茨城市関本町定波
Systropus 属のなかでは、最も普通にみられる。
3. *Systropus suzukii* Matsumura, 1916
スズキハラボソツリアブ
5exs., 21. IX. 2006, 北茨城市関本町定波
2000 年前後に、本種を探索したことがあったが、当時は全く発見できなかった。前 2 種に比べ大型である。
4. *Bombylius major* Linnaeus, 1758
ビロードツリアブ
4exs., 22. IV. 2000, 水戸市森林公園
春先に普通。
5. *Ligyra tantalus* (Fabricius, 1794)
クロバネツリアブ
2exs., 1. VIII. 2006, 水戸市見川町丹下
6. *Anthrax aygulus* Fabricius, 1805 コウヤツリアブ
1ex., 11. Aug. 2002, 水戸市見川町
14. ヒラタアシバエ科 Platypezidae
- Platypezidae ヒラタアシバエ科は、従来 2 属 2 種が記録されているだけであったが、新訂原色昆虫大図鑑で 6 属 7 種が詳細に解説された。
1. *Callomyia sonora* Shatalkin, 1992

ツマグロホソヒラタアシバエ
北茨城市定波: 市毛 (2008)

15. アタマアブ科 Pipunculidae

1. *Nephrocerus japonicus* Morakote, 1988
1ex., 29. IV. 2000, 水戸市森林公園付近

16. ヒロクチバエ科 Platystomatidae

井上ほか (1993) では、ダイズコンリュウバエ 1 種が記録されている。

1. *Euprosopia grahami* Malloch, 1931
オオマダラヒロクチバエ
1♀, 25. Aug., 2002, 水戸市田野町付近

17. ニセミバエ科 Pallopteridae

日本産昆虫総目録では、*Palloptera ambusta* (Meigen, 1826) が記録されているだけであったが、Merz and Sueyoshi (2002) で新たに 3 属 5 種が日本から記録された。Sueyoshi (2003) で 1 属 1 種が追加され、茨城からは下記の 3 種が記録された。筆者の手元には、下記の 2 種の標本があり、茨城県産は 3 属 4 種となる。

1. *Palloptera ustulata* Fallén, 1823
北茨城: Sueyoshi (2003)
1ex., 13 Sept. 2005, 大子町八溝山ワサビ田付近,
市毛勝義採集.
2. *Temnosira similima* Merz et Sueyoshi, 2002
北茨城: Sueyoshi (2003)
3. *Toxoneura carterosoma* Ozerov, 1993
北茨城: Sueyoshi (2003)
4. *Temnosira trichaeta* Ozerov, 1993
2exs., 13 Sept. 2005, 大子町八溝山ワサビ田付近,
市毛勝義採集: 1ex., 30 Sept. 2005, 大子町八溝山
山頂付近, 市毛勝義採集.

18. ヤチバエ科 Sciomyzidae

Sciomyzidae ヤチバエ科は、日本産昆虫総目録では 6 属 16 種が収録されており、Sueyoshi (2001) の再検討で 11 属 23 種となった。

1. *Pherbellia ditoma* Steyskal, 1956
ブチマルヒゲヤチバエ
1ex., 3. I. 2007, 水戸市千波町
自宅庭で時折見られ、移動性が高いと思われる。

2. *Sepedon aenescens* Wiedmann, 1830

ヒゲナガヤチバエ
各地に普通。
3. *Tetanocera chosenica* Steyskal, 1951
チョウセンキタヤチバエ
1♂, 14.X.2002, 水戸市見川町丹下

19. クチキバエ科 Clusiidae

Clusiidae クチキバエ科は、日本産昆虫総目録では 5 属 6 種が収録され、その後も Sasakawa などにより幾つかの新種が記載されてきた。

先頃、Sueyoshi (2006) により日本産クチキバエ科が整理され、12 新種を含む 23 種が記録され、茨城から 10 種類が記録された。

1. *Clusiodes angulosus* Sueyoshi, 2006
北茨城: Sueyoshi (2006): Holotype
2. *Clusiodes discostylus* Sueyoshi, 2006
北茨城: Sueyoshi (2006) : Paratype
3. *Clusiodes plumosus* Sasakawa, 1964
北茨城: Sueyoshi (2006)
4. *Hendelia (Hendelia) beckeri* Czerny, 1903
北茨城: Sueyoshi (2006)
5. *Heteromerengia yamata* Sueyoshi, 2006
北茨城: Sueyoshi (2006) : Holotype
6. *Parachlusia japonica* Sasakawa, 1957
北茨城: Sueyoshi (2006)
7. *Paraclusia omogensis* Sasakawa, 1965
北茨城: Sueyoshi (2006)
8. *Phylloclusia quadrivittata* Sueyoshi, 2006
北茨城: Sueyoshi (2006) : Paratype
9. *Sobarcephala mitsuii* Sasakawa, 1995
北茨城: Sueyoshi (2006)
10. *Tetrameringia borealis* Sueyoshi, 2006
北茨城: Sueyoshi (2006) : Paratype

20. ヒメコバエ科 Opomyzidae

1. *Geomysa advena* Frey, 1959
ツマグロヒメコバエ
4exs., 28. VII. 2005, 大子町八溝山山頂付近

21. ハナホソバエ科 Anthomyzidae

Sueyoshi and Roháček (2003) で新たに 4 属 9 種が日本から記録され、茨城県産として 1 属 2 種が

報告された。本科も体長は 2-3mm と小形である。

1. *Anthomyza drachma* Sueyoshi et Roháček, 2003

里美村: Sueyoshi and Roháček (2003): Holotype

2. *Anthomyza trifurca* Sueyoshi et Roháček, 2003

里美村, 北茨城: Sueyoshi and Roháček (2003):

Paratype

22. ケシショウジョウバエ科 *Periscelididae*

体長が 2-5mm と小型なハエ目で、日本産昆虫総目録では Stenomicridae として 1 属 2 種が記録されていた。Sueyoshi and Mathis (2004) により、日本から 3 属 5 種が報告され、茨城からは 4 種が記録されている。残る 1 種 *Stenomicra (Stenomicra) angustiforceps* も埼玉・神奈川から記録されているので県内に分布している可能性が高い。

1. *Cyamops hotei* Sueyoshi and Mathis, 2004

北茨城: Sueyoshi and Mathis (2004) : Paratype

2. *Periscelis (Myodris) annulata* (Fallen, 1813)

北茨城: Sueyoshi and Mathis (2004)

3. *Stenomicra (Podocera) albibasis* Sabrosky, 1965

ネジロチビホソバエ

北茨城: Sueyoshi and Mathis (2004)

4. *Stenomicra (Podocera) fascipennis* Malloch, 1927

里美村: Sueyoshi and Mathis (2004)

2exs., XI. 2008, 水戸市七ツ洞公園付近。

23. シダコバエ科 *Teratomyzidae*

シダコバエ科 Teratomyzidae は、新訂原色昆虫大図鑑で初めて紹介された科で、日本産昆虫総目録や井上ほか(1993)では未収録である。図鑑では日本産として 2 種が解説されている。

1. *Teratomyza* sp.(near *T. sp.* sensu T. Saigusa)

1♂, 1. VIII. 2005, 北茨城市関本町定波; 1♀, 28. VII. 2005, 大子町八溝山山頂付近;

今回確認された種類は、図版に示されたヤマトシダコバエ *Teratomyza* sp.に酷似し、顔に黒色縦条を備えた種類である。

24. ヒメホソバエ科 *Asteiidae*

日本産昆虫総目録では、*Astiosoma okinawae* Sabrosky, 1957 が沖縄から記録されているだけであったが、Sueyoshi (2003b) で新たに 2 属 7 種が日本から記録された。体長が 1.5-3mm と小さいこと

もあり、未だ県内で採集していないが、千葉・埼玉・神奈川などの隣県で数種が記録されているため、茨城にも分布していると思われる。

25. イエバエ科 *Muscidae*

イエバエ科は、日本産昆虫総目録で 198 種が記録されているグループで、2003 年に発行された日本のイエバエ科では 37 属 252 種とかなり増加している。

トゲアシイエバエ亜科 *Phaoniinae*

1. *Syngamoptera amurensis* Schnabl, 1902

アムールヤドリイエバエ

1♂, 3. VI. 2000, 北茨城市関本町定波

2. *Syngamoptera japonica* Shinonaga, 2003

ヤマトヤドリイエバエ

1♂, 29. IV. 1999, 常北町藤井川ダム東部付近。

マルイエバエ亜科 *Mydaeinae*

1. *Graphomya maculata* (Scopoli, hinonaga, 2003

セマダライエバエ

1♂, 2. X. 1999, 水戸市森林公園付近。

2. *Graphomya rufitibia* (Stein hinonaga, 2003

ヒメセマダライエバエ

1♂, 31. X. 1998, 水戸市千波町。

前種に酷似するが、額の毛の列数が異なる。

ハナレメイエバエ亜科 *Coenosiinae*

1. *Caricea supria* (Zetterstedt, 1838)

スネアカチビハナレメイエバエ

1♂, early in Mar. 2007, 水戸市千波町

2. *Pygophora confusa* Stein, 1915

シリモチハナレメイエバエ

1♂, early in Mar. 2007, 水戸市千波町

26. ヤドリバエ科 *Tachinidae*

日本産ヤドリバエ科は、日本産昆虫総目録で 400 種以上記録されているグループで、目録以降も九州大学の篠 洪氏や館 卓司氏等により多数の新種が記載されている。従来ヤドリバエ科については、Die Fliegen der Palaearktischen Region で同定されることが多かったが、近年中国や日本などから同書に収録されていない未記載種がかなりの頻度で記載されているので、色々な文献を照らし合

わせた上で同定する必要がある。

井上ほか (1993) では、ヒラタヤドリバエ科を別科としているが、現在は Tachinidae の 1 亜科とするのが一般的であり、計 18 種が報告されている。残念ながら、井上ほか (1993) のリストで使用されている和名・学名共にいくつもの問題点があるのでまとめて記しておく。

ヤドリバエ亜科 Exoristinae

1. *Trigonospila ludio* (Zetterstedt, 1849)

1ex., 5. VI. 1999, 水戸市木葉下林道。

井上ほか (1993) や日本産昆虫総目録で、本種にシロオビハリバエの和名があてられているが、鳥 (1990) は最も普通に見られる *Trigonospila transvittata* (Pandelle, 1896) にシロオビハリバエの学名をあてると記している。

筆者が所有する茨城県産の *Trigonospila* 属では、本種のほうが次種より普通に見られる。

2. *Trigonospila transvittata* (Pandelle, 1896)

シロオビハリバエ

1ex., 2. IX. 2005, 北茨城市関本町定波

3. *Exorista (Exorista) japonica* (Townsend, 1909)

ブランコヤドリバエ

1♂, 6. XI. 1999, 東海村村松海岸

本属は、ニクバエ科を思わせるような綻縞を胸背に持つやや大型のヤドリバエで、日本産昆虫総目録には 4 亜属 10 種が収録されていたが、Tachi & Shima (2008) で 7 亜属 18 種と大幅に増加した。同論文では、茨城からは *Exorista (Adenia) mimula* と *Exorista (Podotachina) sorbillans* の 2 種が記録されている。

筆者が所有する茨城産の標本では、本種が最も普通種であった。

4. *Exorista (Adenia) mimula* (Meigen, 1824)

守谷、土浦: Tachi & Shima (2008)

5. *Exorista (Podotachina) sorbillans* (Wiedemann, 1830)

クワゴヤドリバエ

つくば: Tachi & Shima (2008); 1♂, 23. XI. 1999, 波崎町砂丘海浜公園

6. *Exorista (Spixomyia) lepis* (Chao, 1964)

1♂, 5. VI. 1999, 水戸市木葉下林道

ヒラタハナバエ亜科 Phasiinae

1. *Cylindromyia pandulata* (Matsumura, 1916)

ヒヨウタンハリバエ

1ex., 29. IX. 2002, 水戸市森林公園付近

2. *Hemyda vittata* (Meigen, 1924)

マガリハナバエ

1♂, 26. IX. 1999, 里美村里川・岡見

非常に特徴的な♂交尾器を備えた種類。

3. *Hermya beelzebul* (Wiedemann, 1830)

クロヒゲナガハナバエ

2exs., 2. IX. 2005, 北茨城市関本町定波

4. *Ectophasia rotundiventris* (Loew, 1858)

シナヒラタハナバエ

2exs., 17. VI. 2000, 北茨城市関本町定波

5. *Gymnosoma rotundata* (Linnaeus, 1758)

マルボシヒラタハナバエ

1ex., 4. X. 1998, 常北町藤井川ダム東部

井上ほか (1993) で、クラモホシバエ *Gymnosoma kuramanum* Matsumura と記されているのは、本種のことである。また、本種よりやや小形で小楯板の先端に黄色微毛を欠く *Gymnosoma inornata* Zimin, 1966 という種類も国内に広く分布するようであるが、茨城では採集していない。

6. *Pentatomophaga latifascia* (Villeneuve, 1932)

1ex., 23. IX. 2004, 水戸市森林公園付近

7. *Phasia albopunctata* (Baranov, 1935)

1♀, 11. XI. 2000, 水戸市森林公園付近

8. *Phasia hemiptera* (Fabricius, 1794)

ダイミョウヒラタハナバエ

1♂1♀, 27. v. 2000, 北茨城市関本町定波; 1♂.

12. v. 2001, 北茨城市関本町定波; 1♂1♀, 22. vii.

2001. 大子町八溝山山頂付近; 1♂, 16. v. 2002.

大子町八溝山山頂付近; 2♂1♀, 19. v. 2002. 北

茨城市関本町定波; 1♀, 17. viii. 2002. 大子町八

溝山山頂付近; 1♂, 14. v. 2007. 大子町八溝山山

頂;

埼玉県昆虫誌などを見ると、かなり稀なように

記されているが、春先のカエデの花などで時折

見かける。特に大型の♂個体は枝先でも目立つ。

本属については、Sun and Marshall (2003) で再検討され日本産は 9 種となった。

9. *Phasia japanensis* Sun et Marshall, 2003

3♀, 7. X. 2005, 北茨城市関本町定波

Sun and Marshall (2003) で長野県島々谷の標本

を元に記載された種類。栃木県塩原町の標本が Paratype に指定されている。

セスジハリバエ亜科 Tachininae

1. *Janthinomyia elegans* (Matsumura, 1905)

ルリアシナガハリバエ

1ex., 4. IX. 1999, 北茨城市関本町小川
学研中高生図鑑などに、ルリハリバエが図示されているためか、ルリ色のヤドリバエはルリハリバエと早合点されがちである。茨城県内で採集したルリ色のヤドリバエの大半は本種であった。

2. *Chrysocosmius auratus* (Fallen, 1820)

クチナガルリハリバエ

1ex., 6. V. 1999, 水戸市木葉下林道
前種に比べると少ない。

3. *Linnaemya (Linnaemya) tessellans* (Robineau-Desvoidy, 1830)

セスジチビヒゲハリバエ

1♂, 4. X. 1998, 常北町藤井川ダム東部

4. *Linnaemya (Ophina) microchaetopsis* Shima, 1986

1♂, 4. X. 2008, 大子町男体山山頂付近

5. *Linnaemya (Ophina) picta* (Meigen, 1824)

チビヒゲハリバエ

1♂, 26. IX. 1999, 里美村里川・岡見

6. *Peleteria propinqua* (Zimin, 1961)

1ex., 5. V. 2000, 北茨城市関本町定波

次種のセスジハリバエと混同されやすいが、本属は単眼剛毛 (Ocellar seta) を欠くことで区別できる。

7. *Tachina (Eudoromyia) nupta* (Rondani, 1859)

セスジハリバエ

1ex., 2. X. 1999, 水戸市森林公園付近

井上ほか (1993) は、*Tachina micado* と本種を別種として扱っているが、現在では *T. micado* は *T. nupta* のシノニムとされており、鳴 (1990) は *T. nupta* にセスジハリバエの和名をあてると記している。

8. *Tachina (Servillia) amurensis* (Zimin, 1929)

ヨコジマオオハリバエ

1ex., 6. VI. 1999, 水戸市木葉下林道

井上ほか (1993) では、従来どおりヨコジマオオハリバエに *Tachina jakovlevi* の学名があてられているが、鳴 (1990) は *Tachina jakovlevi* は日

本に分布しないとして本種にこの和名をあてている。

9. *Tachina (Servillia) luteola* Coquillett, 1898

コガネオオハリバエ

1ex., 8. X. 1999, 瓜連町古徳沼付近
県内で見られるヤドリバエ科としては、極めて大型の普通種である。

10. *Tachina (Servillia) breviceps* (Zimin, 1929)

1ex., 3-4. V. 2006, 大子町八溝山

井上ほか (1993) には *Tachina politula* ビロウドハリバエが記されているが、鳴 (1990) は高野が図示したビロウドハリバエは真の *Tachina politula* ではなく、おそらく *T. breviceps* ではないかと推測している。したがって、井上ほか (1993) の記録も本種と思われる。

引用文献

- Chao, C.-m. 1999. Tachinidae. In: Xue, W. and Chao, C.-m., eds., Flies of China. Volume 2. Liaoning Science and Technology Press, Shenyang. 17 + 1366–2425 + 32 pls.
- Draber-Monko, A. 1965. Monographic der palaarktischen Arten der Gattung *Alophora* R. D. (Diptera, Larvaevoridae). *Annl. Zool.* 23: 69–194.
- Herting, B. 1984. Catalogue of Palearctic Tachinidae (Diptera). *Stut. Beit. zur Nat. A (Bio.)*. 369: 1–228.
- 平嶋義宏他. 1989. ハエ目. 日本産昆虫総目録 II. pp. 699–873.
- 平嶋義宏他. 2008. ハエ目. 新訂 原色昆虫大図鑑 III. pp. 255–458, 北隆館.
- 久松定成. 1999. 今月の虫 ニトベハラボソツリアブ. インセクタリウム, 8:26
- 市毛勝義. 2005. ネグロクサアブの茨城県からの記録. はなあぶ, 20: 44.
- 市毛勝義. 2008. 茨城県からのツマグロホソヒラタアシバエ *Callomyia sonora* Shatalkin の記録. はなあぶ, 26: 66–67.
- 市川顕彦. 1998. 日本産ミズアブのカタログ. はなあぶ, 6: 50–53.
- 井上尚武・久保田正秀・成田行弘. 1993. ハエ目. 茨城県の昆虫. pp. 230–232, 水戸市立博物館.
- 石原 保. 1975. チビホソバエ科. 学研中高生図鑑

- 昆虫 III.
- 伊東憲正・亀澤 洋・紺野 剛・浜路久徳・雛倉正人・松原 豊. 2008. 東京都本土部昆虫目録.
<http://homepage3.nifty.com/TKM/index.html>.
- MacAlpine, D. K. 1998. 3.30. Family Teratomyzidae. In: Contributions to a Manual of Palaearctic Diptera, 3: 331-334.
- Mathis, W. N. and L. Papp. 1998. 3.24. Family Periscelididae. In: Contributions to a Manual of Palaearctic Diptera, 3: 285-294.
- 松村 雄・中村剛之. 2003. 双翅目. 栃木の昆虫 I. pp. 350-403, 栃木県.
- Merz, B. 1998. 3.14. Family Pallopteridae. In: Contributions to a Manual of Palaearctic Diptera, 3: 201-210.
- Merz, B. and M. Sueyoshi. 2002. Descriptions of new species of Pallopteridae (Diptera) from Taiwan, Korea and Japan, and notes on some other species from Eastern Asia. *Studia dipterologica*. 9(1): 293-306.
- Mesnil, L. P. 1944-1975. 64g. Larvaevorinae (Tachinidae). In: Die Fliegen der Palaearktischen Region 10, 1-1435.
- Nagatomi, A. and A. Tanaka. 1969. The Japanese Actina and Allognosta (Diptera, Stratiomyidae). *Mem. Fac. Agr. Kagoshima Univ.* 7(1): 149-176.
- Nagatomi, A. 1977. The Staratiomyinae (Diptera, Stratiomyidae) of Japan, I. *Kontyu*, 45(3): 377-394.
- Nagatomi, A. 1977. The Staratiomyinae (Diptera, Stratiomyidae) of Japan, II. *Kontyu*, 45(4): 538-552.
- Nagatomi, A., 1977. The Clitellariinae (Diptera, Stratiomyidae) of Japan. *Kontyu*, 45(2): 222-241.
- Nagatomi, A. 1990. Species-groups of Sargus and a new Japanese species. (Diptra, Stratiomyidae). *Jap. J. Ent.* 58(4): 735-745.
- Nagatomi, A., N. Liu, N. Tamaki and N. L. Evenhuis, 1991. The genus *Systropus* from Japan, Korea, Taiwan and Thailand (Diptera, Bombyliidae). *South Pac. Study*, 12: 23-112.
- Ozerov A. L. 1993. A new genus and seven new species of Pallopterids (Diptera Pallopteridae) from Russia. *Russian Ent. J.* 2(2): 73-81.
- Ozerov A. L. 1999. 73. Family Pallopteridae. In: Key to the insects of Russian Far East. Vol. VI. Diptera and Siphonaptera. 1: 531-534.
- Richter, V. A. 2004. 124. Fam. Tachinidae. In: Key to the insects of Russian Far East. Vol. VI. Diptera and Siphonaptera. 3: 148-398.
- Sasakawa, M. 1998. 3.16. Family Cluciidae. In: Contributions to a Manual of Palaearctic Diptera, 3: 219-225.
- Shima, H. 1979. Study on the Tribe Blondeliini from Japan (Diptera: Tachinidae) II. Revision of the Genera *Trigonospila* Pokorný and *Lixophaga* Townsent from Japan. *Jap. J. ent.* 47(3): 298-311.
- Shima, H. 1986. A systematic study of the genus *Linnaemya* Robineau-Desvoidy from Japan and the Oriental region (Tachinidae)-OCR.pdf
- 鳶 洪. 1990. 日本昆虫図鑑 (改訂版) に記載されたヤドリバエ (高野, 1950) の同定. まくなぎ, 16: 15-24.
- Shinonaga, S. 2003. A monograph of the Muscidae of Japan. 347pp., Tokai University Press.
- Sidorenko, V. S. 1999. Family Diastatidae. In: Key to the insects of Russian Far East. Vol. VI. Diptera and Siphonaptera. 3: 180-181.
- 末吉昌宏・前藤 薫・楳原 寛・牧野俊一・祝 輝男. 2003. 皆伐後の温帯落葉樹林の二次遷移に伴う双翅目昆虫群集の変化. 森林総合研究所研究報告, 388: 171-191.
- Sueyoshi, M. 2003. A taxonomic review of Japanese Asteia (Diptera: Acalyptrata: Asteiidae). *European Journal of Entomology*, 100: 609-623.
- Sueyoshi, M. and J. Roháček. 2003. Anthomyzidae (Diptera: Acalyptrata) from Japan and adjacent areas. *Ent. Sci.* 6: 17-36.
- Sueyoshi, M. and W. Mathis. 2004. A new species of *Cyamops* Melander 1913 (Diptera, Periscelididae) from Japan and a review of Japanese Periscelididae. *Proc. Ent. Soc. Wash.* 106(1): 74-84.
- Sueyoshi, M. 2006. Species diversity of Japanese Clusiidae (Diptera: Acalyptrata) with description of 12 new species. *Ann. Soc. Ent. France*, 42(1): 1-26
- Sueyoshi, M., K. Okabe and T. Nakamura. 2007. Host abundance of crane flies (Diptera: Limoniidae) and their role as phoronts of Acari (Arachnida)

- inhabiting fungal sporophores. *Can. Ent.*, 139: 247-257.
- Sun, X. and S. A. Marshall. 2003. Systematics of *Phasia* Latreille (Diptera: Tachinidae). *Zootaxa*, 276: 1-320.
- 鈴木 裕・脇 一郎・久保浩一. 2004. ハエ目. 神奈川県昆虫誌, pp. 845-906.
- Tachi, T. and H. Shima. 2008. Phylogenetic relationships of subgenera of the genus *Exorista* Meigen, with a revision of the Japanese species (Diptera: Tachinidae). *Ent. Sci.*, 11(4): 419-448
- 高野秀三. 1950. ひらたはなばえ科, たんかくやどりばえ科, やどりばえ科, あしながやどりばえ科, 日本昆虫図鑑 (改訂版), pp.1690-1692, pp.1699-1720, 北隆館.
- 玉木長寿. 1997. 埼玉県の双翅目. 埼玉県昆虫誌 II. pp. 405, 埼玉昆虫談話会.
- Tschorsnig, H.-P. and V. A. Richter. 1998. Family Tachinidae. In: Contributions to a Manual of Palaearctic Diptera, 3: 691-827.
- 柳田紀行, 2007. 高萩市でトワダオオカを採集. るりぼし, 34: 46-47.
- Ziegler, J. and Shima, H. 1996. Tachinid flies of the Ussuri area (Diptera: Tachinidae). *Beiträge zur Entomologie* 46: 379–478.
- Zimin, L. S. 1966. A review of the tribe *Gymnosomatini* (Diptera, Tachinidae) of the fauna of the USSR, parasitizing phytophagous bugs. *Ent. Obozr.* 45: 424-456.

宍塙大池におけるガ類の記録(2003年～2008年)

佐藤 和明・釣巻 岳人

土浦市宍塙地区はつくば市との市境に位置し、宍塙大池を中心として約100haの山林が広がっている。コナラ、クヌギの落葉樹に一部アラカシなどの常緑樹が混生する雑木林が主体であり、里山の景観を色濃く残している。本地区では「宍塙の自然と歴史の会」により幅広く里山保全活動が継続されてきた。また、植生、鳥類、蝶類調査など生物多様性を記録する調査も同会により実施されており、過去の主要な成果は報告書(宍塙の自然と歴史の会, 1995)としてまとめられている。しかしながら蛾類については2004年夏期に金子(2005)が報告した17科96種の記録があるのみである。

筆者らは、2003年より宍塙大池周辺の雑木林にて灯火と糖蜜による蛾類採集を継続してきた。灯火採集は20Wのブラックライトで日没後2～3時間行い、同時に糖蜜を浸したスポンジを約10箇所、樹幹に設置し糖蜜採集を行った。今回は2008年までの6年間の記録をまとめ24科377種を報告する。採集記録は、採集個体数、採集日を記載し、目視記録の場合はその後に(目)と表示した。また、採集方法を記録した種については、その区別を灯火、糖蜜、花、飛翔、昼間に分けて記した。花は訪花中の採集、飛翔は夜間飛翔、昼間は昼間採集の意である。採集記録が複数あるものについては頻度の高い採集方法から順に記した。また、利用者の便宜を図るために、和名右肩に日本産蛾類大図鑑(井上ほか, 1982)の整理番号を付記した。なお、日本産蛾類大図鑑以後の追加種と学名の変更については杉(2000)および杉・神保(2004)に従い、整理番号がないものは“—”と記した。

採集・目視リスト

コウモリガ科

1. コウモリガ⁰⁰²¹ *Endoclita excrescens* (Butler)
1♀, 2003.9.27. (灯火)

ヒゲナガガ科

1. ウスキヒゲナガ⁰⁰³⁴ *Nematopogon distincta*
Yasuda
1ex., 2003.4.19./ 3ex., 2004.4.17. (目), (昼間)
2. キオビクロヒゲナガ⁰⁰³⁷ *Nemophora umbripennis*
Stringer
1♀, 2004.5.8./ 1♂, 2007.5.12. (目), (昼間)
3. クロハネシロヒゲナガ⁰⁰⁴⁴ *Nemophora albiantennella* Issiki
1♀, 2004.5.8./ 1ex., 2007.5.13. (目), (昼間)

ボクトウガ科

1. ボクトウガ⁰⁰⁷³ *Cossus jezoensis* (Matsumura)
1♀, 2003.6.28./ 2♂2♀, 2004.7.17.
2. ゴマフボクトウ⁰⁰⁷⁵ *Zeuzera multistrigata* Moore
1♀, 2004.8.21.

ハマキガ科

1. アトキハマキ⁰⁰⁸⁹ *Archips audax* Razowski
1♂, 2003.5.24. (灯火)
2. オオアトキハマキ⁰⁰⁹⁰ *Archips ingentanus* (Christoph)
1ex., 2008.9.14. (灯火)
3. アトボシハマキ⁰¹⁰⁷ *Choristoneura longicellana* (Walsingham)
1ex., 2006.9.2.
4. オオギンスジアカハマキ⁰¹¹⁸ *Ptycholoma lecheana* (Linnaeus)
1ex., 2004.5.8./ 1♂, 2005.5.14. (灯火)
5. ハイイロフユハマキ⁰¹⁶³ *Kawabeia razowskii* (Kawabe)
1♂, 2004.2.21.
6. プライヤハマキ⁰²⁰¹ *Acleris affinitana* (Snellen)
1ex., 2007.2.10./ 2007.3.3. (昼間)
7. ヘリオビヒメハマキ⁰²³⁸ *Microcorses marginifasciata* (Walsingham)
1ex., 2003.9.27. (灯火)
8. クロサンカクモンヒメハマキ⁰²³⁹ *Microcorses trigonana* (Walsingham)

- 1ex., 2005.5.14. / 1ex., 2008.4.20. / 1ex., 2008.4.29.
(灯火, 昼間)
9. コシロアシヒメハマキ ⁰²⁹¹ *Hystrichosolus spathanum* Walsingham
1♀, 2003.9.27. (灯火)
10. シロモンヒメハマキ ⁰²⁹⁶ *Hedya dimidiana* (Clerck)
2exs., 2004.5.8.
11. カバカギバヒメハマキ ⁰³⁹⁵ *Ancylis partitana* (Christoph)
1ex., 2004.5.8.(灯火)
12. ヨモギネムシガ ⁰⁵¹¹ *Epiblema foenella* (Linnaeus)
1ex., 2005.9.3./ 1ex., 2008.9.14.(灯火)
13. クリミガ ⁰⁶²¹ *Cydia kurokoi* (Amsel)
1ex., 2005.9.3. (灯火)
- スカシバガ科**
1. コスカシバ ¹⁰⁴³ *Synanthedon hector* (Butler)
1ex., 2007.8.12. (昼間)
2. モモブトスカシバ ¹⁰⁵⁶ *Macroscelisia japonica* (Hampson)
1ex., 2005.7.9. (昼間)
- ハマキモドキガ科**
1. コウゾハマキモドキ ¹⁰⁷² *Choreutis hyligenes* (Butler)
1ex., 2007.4.1. (昼間)
- マダラガ科**
1. ホタルガ ¹³⁴³ *Pidorus atratus* Butler
1ex., 2003.6.21./ 1ex., 2004.7.4./ 1ex., 2006.7.8. (昼間)
2. シロシタホタルガ ¹³⁴⁴ *Neochalcosia remota* (Walker)
1ex., 2005.7.9. (昼間)
3. タケノホソクロバ ¹³⁴⁹ *Artona martini* Efetov
1ex., 2005.5.14. (灯火)
4. キスジホソマダラ ¹³⁵⁰ *Artona gracilis* (Walker)
1ex., 2005.6.4. (昼間)
- イラガ科**
1. ナシイラガ ¹³⁷⁴ *Narosoideus flavidorsalis* (Staudinger)
1♂, 2004.7.17. (灯火)
2. テングイラガ ¹³⁷⁸ *Microleon longipalpis* Butler
1ex., 2003.8.23./ 1ex., 2004.8.21./ 1ex., 2005.9.3. / 1ex., 2008.8.3. (灯火)
3. アカイラガ ¹³⁷⁹ *Phrixolepia sericea* Butler
1ex., 2003.8.23./ 1ex., 2005.9.3./ 1ex., 2006.9.16. (灯火)
4. ヒロヘリアオイラガ ¹³⁸⁵ *Parasa lepida* (Cramer)
5exs., 終齢幼虫, 2008.10.25. (目)
5. アオイラガ ¹³⁸⁶ *Parasa consocia* Walker
1♂, 2004.7.17. (灯火)
- マイガ科**
1. ニカメイガ ¹⁴⁵⁹ *Chilo suppressalis* (Walker)
2exs., 2004.5.8./ 1ex., 2004.7.17./ 1ex., 2005.5.14./ 1ex., 2008.6.28. (灯火)
2. チャバネツトガ ¹⁴⁶⁴ *Japonichilo bleszynskii* Okano
1♀, 2005.7.2.(糖蜜)
3. シロツトガ ¹⁴⁶⁹ *Calamotropha paludella* (Hübner)
1ex., 2004.9.11. / 1ex., 2005.7.2. / 1ex., 2005.9.3./ 1ex., 2006.9.16. (糖蜜, 花)
4. シロスジツトガ ¹⁴⁹³ *Crambus argyrophorus* Butler
1ex., 2005.6.4. (昼間)
5. ツトガ ¹⁵²¹ *Ancylolomia japonica* (Zeller)
1♀, 2003.6.28./ 1ex., 2008.6.28. (灯火)
6. エグリノマイガ ¹⁵⁵¹ *Diplopseustis perieresalis* (Walker)
1ex., 2003.9.27. (灯火)
7. シロオビノマイガ ¹⁵⁶² *Spoladea recurvalis* (Fabricius)
1ex., 2003.9.27. / 1ex., 2004.8.21. / 1ex., 2004.9.11./ 1ex., 2007.9.22. (目) / 1ex., 2007.10.8./ 2exs., 2008.10.25. (目), (昼間, 灯火)
8. アヤナミノマイガ ¹⁵⁶³ *Eurrhyparodes accessalis* (Walker)
1ex., 2003.9.27. / 1ex., 2006.9.16. (灯火, 花)
9. ウスムラサキノマイガ ¹⁵⁶⁵ *Agrotera nemoralis* (Scopoli)
1ex., 2003.9.27./ 1ex., 2005.5.14. (灯火)
10. ヨスジノマイガ ¹⁵⁷⁰ *Pagyda quadrilineata* Butler

- 1ex., 2004.9.11./ 1ex., 2006.9.2. (糖蜜)
11. クロスジノメイガ¹⁵⁹³ *Tyspanodes striata* (Butler)
1ex., 2008.8.2. (昼間)
12. モモゴマダラノメイガ¹⁵⁹⁶ *Conogethes punctiferalis* (Guenée)
1ex., 2004.6.12.
13. シロテンキノメイガ¹⁵⁹⁸ *Nacoleia commixta* (Butler)
1ex., 2005.6.4. (昼間)
14. イノウエノメイガ¹⁶⁰⁰ *Nocoleia inouei* Yamanaka
1ex., 2005.9.3.
15. キバラノメイガ¹⁶¹³ *Omiodes noctescens* (Moore)
1ex., 2006.7.29./ 1ex., 2007.8.12. (昼間)
16. クロヘリキノメイガ¹⁶¹⁶ *Goniorhynchus butyrosa* (Butler)
1ex., 2005.9.3. (灯火)
17. オオキノメイガ¹⁶²¹ *Botyodes principalis* Leech
1ex., 2003.11.22. / 1ex., 2004.11.27. (灯火, 昼間)
18. ウコンノメイガ¹⁶²⁵ *Pleuroptya ruralis* (Scopoli)
1ex., 2008.10.25. (灯火)
19. タイワンモンキノメイガ¹⁶⁴¹ *Syllepte taiwanalis* Shibuya
1ex., 2004.8.21. (灯火)
20. ウスグロヨツモンノメイガ¹⁶⁴⁶ *Lygropia yerburi* (Butler)
1ex., 2005.9.10. (昼間)
21. マエアカスカシノメイガ¹⁶⁴⁸ *Palpita nigropunctalis* (Bremer)
1ex., 2004.7.17.
22. ヒメシロノメイガ¹⁶⁴⁹ *Palpita inusitata* (Butler)
1ex., 2003.9.27. / 1ex., 2003.10.25. / 1ex., 2004.5.8./
1ex., 2005.7.9. (灯火, 昼間)
23. ヨツボシノメイガ¹⁶⁵³ *Glyphodes quadrimaculalis* (Bremer and Grey)
2exs., 2004.6.12/ 1ex., 2004.9.11./ 1ex., 2005.6.4.
(昼間)
24. スカシノメイガ¹⁶⁵⁵ *Glyphodes pryeri* Butler
1ex., 2005.6.4./ 1ex., 2008.6.28. (昼間, 灯火)
25. チビスカシノメイガ¹⁶⁵⁷ *Glyphodes duplicalis* Inoue, Munroe and Mutuura
1ex., 2003.9.27. (灯火)
26. ツマグロシロノメイガ¹⁶⁷⁰ *Polythlipta liquidalis* Leech
1ex., 2007.5.13. (昼間)
27. カギバノメイガ¹⁶⁸⁹ *Circobotys nycterina* Butler
2exs., 2008.5.25.
28. マメノメイガ¹⁶⁹² *Maruca vitrata* (Fabrisius)
1ex., 2004.8.21. / 1ex., 2007.9.22. (灯火, 昼間)
29. ワモンノメイガ¹⁶⁹⁵ *Nomophila noctuella* (Denis and Schiffermüller)
1ex., 2003.10.25.
30. シロテンウスグロノメイガ¹⁶⁹⁶ *Bradina atopalis* (Walker)
1ex., 2008.8.3.
31. アカウスグロノメイガ[—] *Bradina angustalis* Yamanaka
1ex., 2004.7.17.
32. モンキクロノメイガ¹⁷¹² *Herpetogramma luctuosalis* (Guenée)
1ex., 2004.8.21. / 1ex., 2005.8.6. (灯火)
33. キアヤヒメノメイガ¹⁷²¹ *Diasemia accalis* (Walker)
1ex., 2006.9.16. / 1ex., 2007.10.6. (灯火, 昼間)
34. タテシマノメイガ¹⁷³⁵ *Sclerocona acutella* (Eversmann)
1ex., 2008.5.25.
35. キムジノメイガ¹⁷³⁶ *Prodasynemis inornata* (Butler)
1♂, 2003.5.24. / 1ex., 2004.8.17./ 1ex., 2005.6.4.
(目) / 2exs., 2005.7.2./ 1ex., 2005.9.3. (灯火, 糖蜜,
昼間)
36. ホシオビホソノメイガ¹⁷³⁸ *Nomis albopedalis* Motschulsky
1ex., 2008.5.25., 1ex., 2008.6.28. / 1ex., 2008.9.14.
(灯火)
37. マエベニノメイガ¹⁷⁴⁷ *Paliga minnehaha* (Pryer)
1ex., 2005.5.5./ 1ex., 2008.4.19. (目), (昼間)
38. ヘリジロキンノメイガ¹⁷⁴⁹ *Paliga auratalis* (Warren)
1ex., 2003.6.28. (灯火)
39. ヨウグモノメイガ¹⁷⁵⁷ *Ostrinia palustralis* (Hübner)
1ex., 2004.9.11./ 1ex., 2006.9.16. (花)

40. アワノメイガ¹⁷⁶⁰ *Ostrinia furnacalis* (Guenée)
2exs., 2006.9.16. (灯火, 花)
41. アズキノメイガ¹⁷⁶² *Ostrinia scapulalis* (Walker)
1ex., 2004.6.12.
42. マダラミズメイガ¹⁸⁰³ *Elophila interruptalis* (Pryer)
1ex., 2005.9.3. (灯火)
43. ヒメマダラミズメイガ¹⁸⁰⁶ *Elophila turbata* (Butler)
3exs., 2003.9.27. (灯火)
44. ミドロミズメイガ¹⁸³¹ *Neoschoenobia testacealis* Hampson
4exs., 2005.9.3./ 3exs., 2006.9.16. / 2exs., 2008.9.14. (灯火)
45. コネアオフトメイガ¹⁸⁵¹ *Lepidogma melanobasis* (Hampson)
1ex., 2005.7.2. (糖蜜)
46. ナカアオフトメイガ¹⁸⁵³ *Teliphasa elegans* (Butler)
1ex., 2005.9.3./ 1ex., 2006.9.16. (灯火)
47. ハスジフトメイガ¹⁸⁶¹ *Epilepia dentata* (Matsumura and Shibuya)
1ex., 2004.7.17./ 1ex., 2008.8.3.
48. クロモンフトメイガ¹⁸⁶⁵ *Orthaga euadrusalis* Walker
1ex., 2005.9.3.
49. ネアオフトメイガ¹⁸⁶⁶ *Orthaga onerata* (Butler)
1ex., 2004.7.17.
50. ナカトビフトメイガ¹⁸⁶⁸ *Orthaga achatina* (Butler)
1ex., 2005.8.6./ 1ex., 2005.9.3.
51. ギンモンシマメイガ¹⁸⁷⁷ *Pyralis regalis* Denis and Schiffermüller
1ex., 2003.7.19. (灯火)
52. クシヒゲシマメイガ¹⁸⁹⁶ *Sybrida approximans* (Leech)
1♂, 2005.9.3. (灯火)
53. ネアカマダラメイガ¹⁹⁵⁴ *Etielloides bipartitellus* Leech
1ex., 2004.5.8. (灯火)
- カギバガ科
1. ヤマトカギバ²⁰⁸⁴ *Nordstromia japonica* (Moore)
1ex., 2007.4.21. (灯火)
2. クロスジカギバ²¹⁰⁷ *Oreta turpis* Butler
1ex., 2008.9.14. (糖蜜)
- トガリバガ科
1. モントガリバ²¹¹³ *Thyatira batis* (Linnaeus)
1ex., 2006.9.16. (糖蜜)
2. ホソトガリバ²¹²⁶ *Tethea octogesima* (Butler)
1ex., 2005.8.6.
3. ニッコウトガリバ²¹³⁸ *Epipsesitis nikkoensis* (Matsumura)
1ex., 2003.11.22./ 3exs., 2003.11.30./ 1ex., 2003.12.16. (目)/ 1ex., 2006.12.23. (糖蜜, 灯火)
4. マユミトガリバ²¹⁴⁶ *Neoploca arctipennis* (Butler)
1♂, 2004.4.3./ 1ex., 2005.4.2.(糖蜜)
- シャクガ科
1. シロオビフュシャク²¹⁵² *Alsophila japonensis* (Warren)
1♂, 2004.12.25.
2. クロバネフュシャク²¹⁵³ *Alsophila foedata* Inoue 1♂, 2004.2.21.
3. クロテンフュシャク²¹⁵⁵ *Inurois membranaria* (Christoph)
1♂, 2003.2.8./ 1♂, 2004.2.21./ 1♂, 2006.2.5./ 1♂, 2006.2.11. / 1♂, 2006.3.4./ 1♂, 2007.2.11. (飛翔)
4. ウスバフュシャク²¹⁵⁶ *Inurois fletcheri* Inoue 1♂, 2003.12.30./ 1♂, 2004.12.25./ 3♂, 2005.12.25. (目), (飛翔)
5. ウスモンフュシャク²¹⁶⁰ *Inurois fumosa* (Inoue) 1♂, 2003.1.4./ 1♂, 2007.1.13./ 2♂, 2008.1.27. (飛翔)
6. ホシシャク²¹⁶⁶ *Naxa seriaria* (Motschulsky)
10exs., 2005.7.2. (目)/ 1ex., 2008.6.28./ 100exs., 2008.6.28. (目)
7. チズモンアオシャク²¹⁷⁵ *Agathia carissima* Butler 1ex., 2003.5.24./ 1ex., 2008.9.14. (灯火)
8. カギバアオシャク²¹⁸¹ *Tanaorhinus reciprocata* (Walker)
1♂, 2008.9.13. (昼間)
9. カギシロスジアオシャク²¹⁸⁵ *Geometra dieckmanni* (Graeser)

- 1ex., 2003.9.27./ 1ex., 2008.8.3. (灯火)
10. ヒメウスアオシャク²¹⁹⁶ *Jodis putata* (Linnaeus)
1ex., 2003.4.26./ 1♀, 2008.4.29./ 1♂, 2008.9.14. (灯火)
11. ツバメアオシャク²²⁰⁴ *Maxates ambiguus* (Butler)
1ex., 2008.9.14. (糖蜜)
12. コシロスジアオシャク²²³⁵ *Hemistola veneta* (Butler)
1ex., 2006.9.16. (灯火)
13. フタナミトビヒメシャク²²⁴⁴ *Pylargosceles steganoides* (Butler)
1ex., 2005.5.14./ 1ex., 2008.4.29. (灯火)
14. ウススジオオシロヒメシャク²²⁶¹ *Ploblepsis plagiata* (Butler)
1ex., 2004.6.12.
15. マエキヒメシャク²²⁷¹ *Scopula nigropunctata* (Hufnagel)
1ex., 2005.5.14. / 1ex., 2008.6.21. (灯火, 昼間)
16. シタコバネナミシャク²³⁴⁶ *Trichopteryx hemana* (Butler)
1ex., 2006.4.1. (昼間)
17. チャオビコバネナミシャク²³⁴⁸ *Trichopteryx terranea* (Butler)
1ex., 2004.4.3.
18. ウスベニスジナミシャク²³⁵⁸ *Esakiopteryx volitans* (Butler)
2exs., 2003.3.8./ 1ex., 2003.3.22./ 1ex., 2003.3.29./ 1ex., 2005.3.21./ 2exs., 2005.4.2. / 1ex., 2008.3.15. (昼間, 灯火)
19. クロフシロナミシャク²³⁶³ *Otopiclcta frigida* (Butler)
1ex., 2003.4.12./ 1ex., 2006.4.1./ 1ex., 2007.4.7. (目) / 1ex., 2008.4.6. (目), (昼間)
20. コウスグモナミシャク²³⁷⁷ *Heterophleps confusa* (Wileman)
1♂, 2005.5.14. (灯火)
21. フタトビスジナミシャク²⁴⁰¹ *Xanthorhoe hortensiaria* (Graeser)
1ex., 2005.5.14./ 1ex., 2008.4.29. (灯火)
22. モンキキナミシャク²⁴²⁶ *Idiotephria amelia* (Butler)
1ex., 2003.3.29./ 1ex., 2003.4.26./ 4♂1♀, 2004.4.3. / 1ex., 2004.4.17./ 1ex., 2005.4.2. (昼間, 灯火)
23. オオネグロウスベニナミシャク⁻
Photoscotosia lucicola (Butler)
1♂, 2006.6.4. (昼間)
24. ナミガタシロナミシャク²⁴⁵¹ *Callabraxas compositata* (Guenée)
1♂, 2003.6.28./ 1ex., 2005.6.11./ 1ex., 2005.6.25. (目) / 1ex., 2005.7.2. (目), (昼間, 灯火)
25. ウストビモンナミシャク²⁴⁵⁴ *Eulithis ledereri* (Bremer)
1ex., 2003.6.21.
26. セスジナミシャク²⁴⁶³ *Evecliptopera ilitata* (Wileman)
1ex., 2003.4.19./ 1ex., 2003.9.27./ 1ex., 2004.4.3./ 1ex., 2005.5.14./ 1ex., 2005.7.2./ 1ex., 2005.8.6. (灯火)
27. オオハガタナミシャク²⁴⁶⁵ *Ecliptopera umbrosaria* (Motschulsky)
1♀, 2003.4.26./ 1♂, 2003.6.28./ 1ex., 2005.7.2./ 1ex., 2006.9.16./ 2exs., 2008.4.29./ 2exs., 2008.6.28. / 1ex., 2008.8.3. (灯火, 糖蜜)
28. シロシタトビイロナミシャク²⁴⁹³ *Heterothera postalbida* (Wileman)
2ex., 2004.5.8.
29. コナミフユナミシャク⁻ *Operophtera brunnea* Nakajima
1♂, 2003.12.30./ 3♂, 2004.12.25./ 2♂, 2005.12.25./ 2♂, 2006.12.23./ 1♂, 2006.12.31./ 1♂, 2007.1.13. (飛翔)
30. クロオビフユナミシャク²⁴⁹⁹ *Operophtera relegata* Prout
1♂, 2006.12.17. (昼間)
31. ウスアカチビナミシャク²⁵⁴⁸ *Eupithecia rufescens* Butler
1ex., 2004.5.8.
32. ウスカバナミシャク²⁵⁵⁰ *Eupithecia proterva* Butler
1ex., 2005.4.2. (灯火)
33. マエナミカバナミシャク²⁵⁵² *Eupithecia niphonaria* Leech
1♂, 2004.4.3.
34. ソトカバナミシャク²⁵⁵⁵ *Eupithecia signigera* Butler
1ex., 2005.3.26./ 2ex., 2005.4.2./ 1ex., 2005.4.9.

- (灯火, 糖蜜)
35. ヒメマダラエダシャク ²⁶⁴⁴ *Abraxas niphonibia* Wehrli
1ex., 2008.9.6. (昼間)
36. ヒトスジマダラエダシャク ²⁶⁴⁷ *Abraxas latifasciata* Warren
1ex., 2004.5.8.
37. クロズウスキエダシャク ²⁶⁵⁵ *Lomographa simplicior* (Butler)
2exs., 2003.9.27. (灯火)
38. バラシロエダシャク ²⁶⁵⁷ *Lomographa temerata* (Denis and Schiffermüller)
1♂, 2003.4.26./ 2exs., 2004.5.8./ 1ex., 2005.5.14./ 1ex., 2007.3.17. (灯火, 昼間)
39. ウチムラサキヒメエダシャク ²⁶⁶² *Ninodes splendens* (Butler)
1ex., 2005.9.3.
40. コスジシロエダシャク ²⁶⁷² *Cabera purus* (Butler)
1♂, 2003.5.11./ 1ex., 2004.5.8.
41. ハグルマエダシャク ²⁶⁸⁵ *Synegia hadassa* (Butler)
1ex., 2008.6.28. (灯火)
42. クロハグルマエダシャク ²⁶⁸⁸ *Synegia esther* Butler
1ex., 2004.9.11.
43. フタテンオエダシャク ²⁶⁹⁷ *Chiasmia defixaria* (Walker)
1ex., 2003.7.19./ 1ex., 2004.7.31. (灯火)
44. ウスオエダシャク ²⁶⁹⁸ *Chiasmia hebesata* (Walker)
1ex., 2006.9.2. (糖蜜)
45. ウスキオエダシャク ²⁷⁰² *Oxymacaria normata* (Alpheraky)
1ex., 2008.4.29. (灯火)
46. ヒロオビトンボエダシャク ²⁷²¹ *Cystidia truncangulata* Wehrli
1ex., 2006.6.10./ 1ex., 2008.6.21. (昼間)
47. チャノウンモンエダシャク ²⁷³⁹ *Jankowskia fuscaria* (Leech)
1ex., 2005.9.3./ 1ex., 2006.9.16. (灯火)
48. シロテンエダシャク ²⁷⁴³ *Cleora leucophaea* (Butler)
- 1♂, 2003.3.29./ 1ex., 2004.4.3.
49. オレクギエダシャク ²⁷⁴⁹ *Protoboarmia simpliciaria* (Leech)
3exs., 2008.9.14. (灯火)
50. ナカウスエダシャク ²⁷⁵² *Alcis angulifera* (Butler)
1ex., 2003.4.19./ 1ex., 2003.4.26./ 2exs., 2004.4.3./ 1ex., 2006.10.7./ 2♂1♀, 2008.5.25. (灯火, 昼間)
51. フタヤマエダシャク ²⁷⁵⁹ *Rikiosatoa grisea* (Butler)
1ex., 2003.9.27. (灯火)
52. ウスバキエダシャク ²⁷⁶⁵ *Pseuderannis lomozemaria* (Prout)
2exs., 2006.4.1./ 1ex., 2008.4.29. (昼間, 灯火)
53. ハミスジエダシャク ²⁷⁶⁸ *Hypomecis roboraria* (Denis and Schiffermüller)
1♀, 2004.7.17./ 1ex., 2006.9.16. (灯火)
54. オオバナミガタエダシャク ²⁷⁶⁹ *Hypomecis lunifera* (Butler)
1ex., 2003.5.24.
55. ウスバミスジエダシャク ²⁷⁷⁴ *Hypomecis punctinalis* (Scopoli)
1ex., 2005.5.14.
56. コヨツメエダシャク ²⁷⁸¹ *Ophthalmitis irrorataria* (Bremer and Grey)
1ex., 2008.8.3. (灯火)
57. マエモンキエダシャク ²⁷⁸⁷ *Heterarmia costipunctaria* (Leech)
1ex., 2004.5.8./ 1ex., 2005.5.14./ 1ex., 2005.9.3.
58. ウスジロエダシャク ²⁷⁹¹ *Ectropis obliqua* (Prout)
1ex., 2004.7.17./ 1ex., 2008.4.20. (昼間)
59. オオトビスジエダシャク ²⁷⁹² *Ectropis excellens* (Butler)
1♂, 2004.6.26.
60. トギレエダシャク ²⁸²⁰ *Protalcis concinnata* (Wileman)
2♂, 2003.3.29./ 1♂1♀, 2005.4.2./ 2♂, 2008.3.15. (目), (灯火)
61. シロフフユエダシャク ²⁸²¹ *Agriopsis dira* (Butler)
2♂, 2004.2.21./ 1♂, 2007.2.10./ 1♂, 2007.2.24. (昼間)

62. クロスジフユエダシャク ²⁸²² *Pachyerannis obliquaria* (Motschulsky)
 1♂, 2003.11.30./ 5♂, 2004.11.27. (目)/ 1♂,
 2005.12.3. / 10♂, 2005.12.10. (目)/ 9♂, 2007.12.15.
 (昼間, 灯火)
63. チャバネフユエダシャク ²⁸²³ *Erannis golda Djakonov*
 1♂, 2003.12.30./ 2♂, 2004.12.25. / 2♂, 2005.12.25.
 (目)/ 1♂, 2006.12.16. (灯火, 飛翔)
64. ニトベエダシャク ²⁸⁴⁸ *Wilemania nitobei* (Nitobe)
 2exs., 2005.11.23./ 2exs., 2005.12.3. (目)/ 2exs.,
 2008.11.22. (目), (灯火)
65. アトジロエダシャク ²⁸⁴⁹ *Pachyligia dolosa* Butler
 1♂, 2004.4.3./ 1ex., 2005.4.2./ 1ex., 2008.3.15. (目),
 (灯火, 飛翔)
66. ハスオビエダシャク ²⁸⁵⁰ *Descoreba simplex* Butler
 2♂, 2004.4.3.
67. ツマトビキエダシャク ²⁸⁵⁷ *Bizia aexaria* Walker
 1♀, 2003.6.28./ 1♂, 2004.6.12.
68. ギンスジエダシャク ²⁸⁷⁰ *Chariaspilates formosaria* (Eversmann)
 1ex., 2005.9.3.
69. モンシロツマキリエダシャク ²⁸⁸⁹ *Xerodes albonotaria* (Bremer)
 1ex., 2003.4.26./ 2exs., 2005.5.14./ 2exs., 2005.6.4.
 / 1ex., 2008.4.29. (灯火, 昼間)
70. ミスジツマキリエダシャク ²⁸⁹⁰ *Xerodes rufescens* Motschulsky
 1ex., 2003.5.24./ 1ex., 2005.8.13./ 1ex., 2007.5.12.
 (目)
71. トガリエダシャク ²⁹⁰⁹ *Xyloscia subspersata* (Felder and Rogenhofer)
 1ex., 2006.5.20./ 1ex., 2006.9.16. (灯火)
72. ウラモンアカエダシャク ²⁹²² *Parepione grata* (Butler)
 1ex., 2007.4.21. (灯火)
73. ウコンエダシャク ²⁹²⁸ *Corymica pryeri* (Butler)
 1ex., 2008.9.14. (灯火)
74. ウスキツバメエダシャク ²⁹³¹ *Ourapteryx nivea*
- Butler
 1ex., 2004.11.20. (昼間)
- ツバメガ科
1. ギンツバメ ²⁹³⁷ *Acropteris iphiata* (Guenée)
 1ex., 2003.9.27. / 1ex., 2004.5.15. (目)/ 1ex.,
 2005.9.10./ 1ex., 2008.9.13. (目), (昼間, 灯火)
- カレハガ科
1. ホシカレハ ²⁹⁶² *Gastropacha populifolia* (Esper)
 1ex., 2004.10.2.
2. ヒメカレハ ²⁹⁶⁶ *Phyllodesma japonica* (Leech)
 1ex., 2003.4.19. (灯火)
3. タケカレハ ²⁹⁷⁰ *Euthrix albomaculata* (Bremer)
 1ex., 2006.9.16. (灯火)
4. ヤマダカレハ ²⁹⁷⁸ *Kunugia yamadai* (Nagano)
 3exs., 2008.10.25. (灯火)
- オビガ科
1. オビガ ²⁹⁸² *Apha aequalis* (Felder)
 1ex., 2003.6.28./ 1ex., 2003.8.23./ 1ex., 2003.9.27./
 1ex., 2005.7.9./ 1ex., 2008.6.28. (灯火, 昼間)
- カイコガ科
1. クワコ ²⁹⁸⁴ *Bombyx mandarina* (Moore)
 1ex., 2003.11.22./ 1ex., 2004.8.21./ 1ex., 2004.11.27.
 (灯火)
- ヤママユガ科
1. ヤママユ ²⁹⁹¹ *Antheraea yamamai* (Guérin-Méneville)
 1♀, 2003.8.23. (灯火)
2. クスサン ²⁹⁹³ *Saturnia japonica* (Moore)
 3exs.卵塊, 2007.2.24. (目)/ 3exs., 卵塊, 2008.2.10.
 (目)
3. ウスタビガ ²⁹⁹⁴ *Rhodinia fugax* (Butler)
 2♀, 2005.11.23. (灯火)
4. エゾヨツメ ³⁰⁰⁰ *Aglia japonica* (Leech)
 1ex., 2007.4.7. (目), (昼間)
- スズメガ科
1. クチバスズメ ³⁰²³ *Marumba Sperchioides* (Ménétriès)
 1ex., 2005.7.2. (灯火)

2. オオスカシバ ³⁰³⁶ *Cephalodes hylas* (Linnaeus)
1ex., 2007.9.22. (目), (昼間)
3. クルマスズメ ³⁰³⁹ *Ampelophaga rubiginosa*
Bremer and Grey
1ex., 2003.8.3. / 1ex., 2008.8.3. (灯火, 糖蜜)
4. ホシヒメホウジャク ³⁰⁴² *Neogurelca himachala*
(Butler)
1♂, 2005.10.8. / 1ex., 2007.8.11. (目) / 1ex., 2007.10.8. (目), (昼間)
5. ホシホウジャク ³⁰⁴⁵ *Macroglossum pyrrhosticta*
Butler
1♀, 2005.9.10. / 1ex., 2007.10.8. (目) / 1ex., 2008.11.15. (目), (昼間)
6. ベニスズメ ³⁰⁵⁷ *Deilephila elpenor* (Linnaeus)
5exs., 2005.7.2. (糖蜜)
7. コスズメ ³⁰⁶⁵ *Theretra japonica* (Boisduval)
1ex., 2008.6.28. (飛翔)
8. セスジスズメ ³⁰⁶⁶ *Theretra oldenlandiae*
(Fabricius)
1ex., 2005.8.13.
9. ビロードスズメ ³⁰⁶⁹ *Rhagastis mongoliana*
(Butler)
1ex., 2003.7.19. / 1ex., 2005.8.6. (灯火)

シャチホコガ科

1. シャチホコガ ³⁰⁷⁴ *Stauropus fagi* (Linnaeus)
1♀, 2003.4.26.
2. オオアオシャチホコ ³⁰⁸² *Syntypipsis cyanea*
(Leech)
1ex., 2005.4.2. (灯火)
3. バイバラシロシャチホコ ³⁰⁸⁷ *Cnethodonta grisescens* Staudinger
1♀, 2003.7.19. / 1♂, 2004.5.8. / 1♂, 2008.4.29. (灯火)
4. モンクロシャチホコ ³¹¹³ *Phalera flavescens*
(Bremer and Grey)
1ex., 2005.8.6.
5. クロスジシャチホコ ³¹²⁵ *Lophocosma sarantuja*
(Schintlmeiser and Kinoshita)
1♀, 2004.7.17.
6. キシャチホコ ³¹²⁹ *Torigea straminea* (Moore)
1♂, 2003.8.3. / 1♀, 2003.8.23. / 1ex., 2004.5.15. / 1ex., 2004.8.21. (目) / 1♂, 2005.5.14. / 2005.6.4.

- (目)/1ex., 2005.8.6. (目) / 1ex., 2005.9.3. (目) / 1♂, 2006.5.20. / 1ex., 2008.5.25. (目), (昼間, 灯火, 飛翔)
7. ウスキシャチホコ ³¹³⁰ *Mimopydra pallida*
(Butler)
1♂, 2008.5.17. (昼間)
8. ナカキシャチホコ ³¹³⁹ *Peridea gigantea* Butler
2exs., 2005.9.3.
9. スズキシャチホコ ³¹⁴⁶ *Pheosiopsis cinerea*
(Butler)
1♀, 2003.5.24. (灯火)
10. タカオシャチホコ ³¹⁵⁷ *Hiradonta takaonis*
(Matsumura)
1♂, 2003.5.24. / 1♂, 2003.8.23. / 1♂, 2004.7.17. / 1ex., 2008.5.25. (目) / 1♀, 2008.6.28. (灯火)
11. オオエグリシャチホコ ³¹⁸¹ *Pterostoma gigantina*
Staudinger
1ex., 2003.5.24. (灯火)

ドクガ科

1. アカヒゲドクガ ³¹⁹³ *Calliteara lunulata* (Butler)
1♀, 2003.8.23. / 1♂, 2004.8.21. (灯火)
2. マメドクガ ³¹⁹⁸ *Gifuna locuples* Walker
1ex., 2005.9.3.
3. マイマイガ ³²¹⁸ *Lymantria dispar* (Linnaeus)
1♀, 2003.7.19. / 5♂, 2004.7.17. (目) / 4♂, 2008.7.19. (目), (昼間)
4. カシワマイマイ ³²²¹ *Lymantria mathura* Moore
1♀, 2003.7.19.
5. ウチジロマイマイ ³²²⁷ *Parocneria furva* (Leech)
1ex., 2004.6.26.
6. ニワトコドクガ ³²²⁸ *Topomesoides jonasii* (Butler)
1ex., 2005.9.10. / 1♀, 2008.6.28. (昼間, 灯火)
7. モンシロドクガ ³²³⁰ *Sphrageidus similis* (Fuessly)
1ex., 2003.9.27. (灯火)
8. ゴマフリドクガ ³²³² *Somena pulverea* (Leech)
1ex., 2003.9.27. / 1ex., 2008.10.25. (灯火)
9. チヤドクガ ³²³⁸ *Arna pseudoconspersa* (Strand)
1♂, 2003.10.25. (灯火)

ヒトリガ科

1. キマエホソバ ³²⁵⁶ *Eilema japonica* (Leech)
1ex., 2008.9.14. (灯火)

2. ヨツボシホソバ³²⁶⁸ *Lithosia quadra* (Linnaeus)
1♂, 2003.8.23. / 1♂, 2005.9.3. (灯火)
3. アカスジシロコケガ³²⁷¹ *Cyana hamata* Walker
1♀, 2004.8.21.
4. クロスジチビコケガ³²⁷⁴ *Stictane rectilinea* (Snellen)
1ex., 2005.9.3. (灯火)
5. クロテンハイイロコケガ³²⁹² *Eugoa grisea* Butler
1ex., 2005.9.3. / 1ex., 2006.9.16. (灯火)
6. ハガタベニコケガ³²⁹⁴ *Barsine aberrans* Butler
1ex., 2005.9.3. / 1ex., 2006.9.16. (灯火, 糖蜜)
7. ハガタキコケガ³²⁹⁶ *Miltochrista calamina* Butler
1ex., 2005.9.3.
8. ゴマダラベニコケガ³²⁹⁸ *Barsine pulchera* Butler
1♀, 2003.6.21. / 1ex., 2005.9.3.
9. ゴマダラキコケガ³³⁰⁰ *Stigmatophora leacrita* (Swinhoe)
1♀, 2003.6.28. / 1ex., 2008.6.28. (灯火)
10. チャオビチビコケガ³³⁰² *Philenora latifasciata* Inoue and Kobayashi
1♀, 2003.9.27. (灯火)
11. アカハラゴマダラヒトリ³³²¹ *Spilosoma punctaria* (Stoll)
1ex., 2006.5.20. / 1ex., 2008.5.25 (目)
12. キハラゴマダラヒトリ³³²² *Spilosoma lubricipeda* (Linnaeus)
1ex., 2005.8.6.
13. シロヒトリ³³²³ *Chionarctia nivea* (Ménétriès)
2exs., 2004.9.11. (目) / 2exs. 2005.9.3. (目) / 1ex., 2008.9.14. (目), (灯火, 昼間)
- コブガ科**
1. クロスジシロコブガ³³⁵⁶ *Nola taeniata* Snellen
1ex., 2005.9.3. (灯火)
2. クロスジコブガ³³⁹² *Rhynchospalpus fumosa* (Butler)
1ex., 2003.9.27. (灯火)
- カノコガ科**
1. カノコガ³³⁹⁴ *Amata fortunei* (Orza)
1ex., 2003.6.21. / 10exs., 2005.7.9. (目) / 1ex., 2007.6.16. (目) / 3exs., 2008.6.21. (目), (昼間)
- ヤガ科**
1. ウスベリケンモン³³⁹⁹ *Anacronicta nitida* (Butler)
1ex., 2003.8.23. / 1ex., 2004.5.8. / 1ex., 2006.9.2. / 1ex., 2008.9.14. (灯火, 糖蜜)
2. コウスベリケンモン³⁴⁰¹ *Anacronicta caliginea* (Butler)
1ex., 2008.8.3.
3. ゴマケンモン³⁴¹² *Moma alpium* (Osbeck)
1ex., 2003.8.23. (灯火)
4. シロハラケンモン³⁴²⁶ *Plataplecta pulverosa* (Hampson)
1ex., 2003.4.26.
5. シロシタケンモン³⁴⁴⁰ *Hylonycta hercules* (Fedler and Rogenhofer)
1ex., 2005.9.3.
6. ナシケンモン³⁴⁴² *Viminia ruminis* (Linnaeus)
1ex., 2003.4.26. / 2exs., 2003.6.28. / 1ex., 2004.4.3. / 3exs., 2005.7.2. / 1ex., 2005.8.6. / 1ex., 2005.9.3. (目) / 1ex., 2006.9.2. / 1ex., 2006.9.16. / 1ex., 2008.6.28. (目), (糖蜜, 灯火, 花)
7. シマケンモン³⁴⁵¹ *Craniophora fasciata* (Moore)
1ex., 2004.5.8.
8. イチモジキノコヨトウ³⁴⁵⁸ *Bryophila granitalis* (Butler)
1ex., 2005.9.3. (灯火)
9. ウンモンキノコヨトウ³⁴⁷² *Stenoloba manleyi* (Leech)
1ex., 2003.9.27. / 1ex., 2006.9.2. / 2exs., 2008.9.14. (糖蜜, 灯火)
10. オオタバコガ³⁴⁷⁴ *Helicoverpa armigera* (Hübner)
1ex., 2004.11.13.
11. ツメクサガ³⁴⁷⁷ *Heliothis maritime* (Graslin)
1ex., 2005.9.10. (昼間)
12. タマナヤガ³⁴⁸⁸ *Agrotis ipsilon* (Hufnagel)
1♀, 2003.1.4. (糖蜜)
13. オオカブラヤガ³⁴⁹⁰ *Agrotis tokionis* Butler
1ex., 2008.10.25. (灯火)
14. カブラヤガ³⁴⁹³ *Agrotis segetum* (Denis and Schiffermüller)
1♂, 2004.5.8. / 1ex., 2005.7.2. (糖蜜)

15. マエジロヤガ³⁴⁹⁹ *Ochropleura plecta* (Linnaeus)
1♂, 2004.5.8./ 1ex., 2007.4.21. (灯火)
16. クロクモヤガ³⁵⁰⁴ *Hermonassa cecilia* Butler
1ex., 2003.5.24./ 2exs., 2003.10.25. / 1ex., 2004.7.17.
/ 1ex., 2008.10.25. (糖蜜, 灯火)
17. オオカバスジヤガ³⁵¹⁵ *Sineugrapha oceanica*
(Kardakoff)
1ex., 2003.7.19. (糖蜜)
18. コウスチャヤガ³⁵²⁰ *Diarsia deparca* (Butler)
1ex., 2004.5.8./ 1♀, 2008.11.22. (糖蜜)
19. オオバコヤガ³⁵²² *Diarsia canescens* (Butler)
1ex., 2003.10.25. (糖蜜)
20. ウスチャヤガ³⁵⁴⁰ *Xestia dilatata* (Butler)
1ex., 2004.11.13./ 2exs., 2008.10.25. (灯火)
21. クロギシギシャガ³⁵⁴⁴ *Naenia contaminata*
(Walker)
1ex., 2008.5.25.
22. カギモンヤガ³⁵⁴⁸ *Cerastis pallescens* (Butler)
1ex., 2007.4.21. (灯火)
23. ヨトウガ³⁵⁵⁹ *Mamestra brassicae* (Linnaeus)
1ex., 2003.5.11./ 2exs., 2004.5.8./ 2exs., 2006.9.16./
1ex., 2008.9.14. (糖蜜)
24. クロスジキリガ³⁵⁸² *Xylopolia bella* (Butler)
1♀, 2003.4.19./ 2exs., 2003.4.26. (糖蜜)
25. マツキリガ³⁵⁸⁴ *Panolis japonica* (Draudt)
1ex., 2007.4.21. (灯火)
26. カバキリガ³⁵⁹¹ *Orthosia evanida* (Butler)
1ex., 2005.4.2. (糖蜜)
27. クロミミキリガ³⁵⁹⁴ *Orthosia lizetta* Butler
1♂, 2003.3.29./ 1ex., 2006.3.11. (糖蜜, 花)
28. ブナキリガ³⁵⁹⁵ *Orthosia paromoea* (Hampson)
3♀, 2003.3.29./ 1ex., 2005.4.2./ 1ex., 2007.3.3. /
1ex., 2008.3.15./ 1ex., 2008.3.16. (糖蜜, 花)
29. ホソバキリガ³⁵⁹⁶ *Anorthoa angustipennis*
(Matsumura)
2exs., 2005.3.12./ 4exs., 2006.3.4./ 1ex., 2007.3.3. /
1ex., 2008.3.15 / 1ex., 2008.3.16. (糖蜜, 花, 灯火)
30. スモモキリガ³⁶⁰¹ *Anorthoa munda* (Denis and
Schiffermüller)
2♀, 2003.3.29./ 1ex., 2005.3.12./ 1ex., 2005.4.2./
3exs., 2006.3.4./ 1ex., 2007.3.3. / 2exs., 2008.3.15.
(糖蜜, 灯火, 花)
31. アカバキリガ³⁶⁰⁸ *Orthosia carnipennis* (Butler)
- 1♂, 2003.3.29. (灯火)
32. クロシタキヨトウ³⁶¹⁹ *Mythimna placida*
Butler
2exs., 2005.9.3./ 1ex., 2006.9.2./ 1ex., 2006.9.16. /
1ex., 2008.9.14. (糖蜜, 飛翔)
33. アワヨトウ³⁶³⁶ *Mythimna separate* (Walker)
1ex., 2008.11.22./ 1ex., 2008.12.13. (糖蜜)
34. ノヒラキヨトウ³⁶⁴⁰ *Mythimna obsoleta* (Hübner)
1ex., 2008.8.3. (灯火)
35. ホソバオビキリガ³⁶⁷³ *Dryobotodes angusta*
Sugi
1♂, 2003.10.25.
36. キバラモクメキリガ³⁶⁷⁷ *Xylena formosa*
(Butler)
1♂, 2003.3.8./ 1ex., 2003.11.22./ 1ex., 2006.9.2./
1ex., 2007.3.3./ 1ex., 2008.11.22./ 2exs., 2008.12.13.
(目), (糖蜜, 灯火)
37. ハンノキリガ³⁶⁷⁹ *Lithophane ustulata* (Butler)
1ex., 2005.4.2/ 2exs., 2006.3.4. (糖蜜)
38. ミツボシキリガ³⁶⁹⁰ *Eupsilia tripunctata* Butler
2exs., 2006.3.4. (糖蜜)
39. ヨスジノコメキリガ³⁶⁹³ *Eupsilia quadrilinea*
(Leech)
1ex., 2005.3.12./ 1ex., 2006.2.11./ 1ex., 2008.11.22.
(糖蜜, 飛翔)
40. ウスミミモンキリガ³⁶⁹⁵ *Eupsilia contracta*
Butler
1ex., 2005.4.2. (糖蜜)
41. チャマダラキリガ³⁶⁹⁶ *Rhynchaglaea scitula*
(Butler)
1♂, 2004.2.21./ 1ex., 2005.4.2./ 1ex., 2006.12.16.
(糖蜜)
42. クロチャマダラキリガ³⁶⁹⁷ *Rhynchaglaea fuscipennis* Sugi
1♀, 2004.2.21./ 1ex., 2005.3.12./ 1ex., 2006.3.4. (糖
蜜)
43. フサヒゲオビキリガ³⁷⁰³ *Agrochola evelina*
(Butler)
1♀, 2003.1.4./ 1♀, 2003.3.29./ 1♂, 2006.2.5./ 2exs.,
2006.2.11./ 1ex., 2006.3.4./ 3exs., 2006.12/16. (目)/
1♀, 2008.3.15.(目), (糖蜜, 灯火)
44. カシワオビキリガ³⁷⁰⁵ *Conistra ardescens*
(Butler)

- 1♂, 2003.1.4./ 1♂1♀, 2003.3.8./ 1♀, 2003.3.29./ 1♂,
2003.11.30./ 1♂1♀, 2004.1.17./ 1ex., 2004.11.27./
1♂, 2008.3.16./ 1♀, 2008.11.22. (糖蜜)
45. ミヤマオビキリガ ³⁷⁰⁶ *Conistra grisescens*
Draudt
1♂, 2003.3.29./ 1♀, 2003.4.19./ 1ex., 2004.2.21./
1ex., 2005.4.2./ 1ex., 2006.3.4./ 1ex., 2007.3.3. (糖
蜜)
46. ホシオビキリガ ³⁷⁰⁸ *Conistra albipuncta*
(Leech)
2♂, 2003.3.8./ 2♂, 2003.11.30./ 1♂, 2004.2.21./
1ex., 2005.3.12./ 4exs., 2006.2.5./ 2exs., 2006.12.16.
/ 1ex., 2007.2.11./ 1♀, 2008.12.13. (糖蜜)
47. ゴマダラキリガ ³⁷¹⁰ *Conistra castaneofasciata*
(Motschulsky)
1ex., 2008.11.22. (糖蜜)
48. イチゴキリガ ³⁷¹¹ *Orbona fragariae* (Vieweg)
1♂1♀, 2008.12.13. (糖蜜)
49. ウスキトガリキリガ ³⁷¹⁷ *Telorta acuminata*
(Butler)
1ex., 2006.12.16./ 1ex., 2008.11.22. (糖蜜)
50. ノコメトガリキリガ ³⁷¹⁹ *Telorta divergens*
(Butler)
1♀, 2003.1.4./ 1ex., 2003.11.30./ 1ex., 2006.12.23./
1ex., 2008.10.25./ 1ex., 2008.11.22. (糖蜜, 灯火)
51. ネスジシラクモヨトウ ³⁷⁴¹ *Apamea hampsoni*
Sugi
1ex., 2003.5.24./ 1ex., 2003.6.28./ 1ex., 2004.5.8.
(糖蜜)
52. カバマダラヨトウ ³⁷⁶³ *Anapamea cuneatoides*
Poole
1ex., 2008.8.3. (糖蜜)
53. ハジマヨトウ ³⁷⁶⁶ *Bambusiphila vulgaris*
(Butler)
2exs., 2004.7.17./ 2exs., 2005.8.6.
54. イネヨトウ ³⁷⁹⁸ *Sesamia inferens* (Walker)
1ex., 2004.5.8.
55. シロホシキシタヨトウ ³⁸⁰¹ *Triphaenopsis lucilla*
Butler
1ex., 2004.6.26./ 1ex., 2005.7.2. (糖蜜)
56. ホソバミドリヨトウ ³⁸¹⁸ *Euplexidia angusta*
Yoshimoto
1ex., 2008.10.25. (灯火)
57. シロスジアオヨトウ ³⁸²⁸ *Trachea atriplicis*
(Linnaeus)
1ex., 2003.5.24./ 1ex., 2003.8.3./ 2exs., 2004.8.21./
1ex., 2005.7.2./ 1ex., 2005.8.6./ 1ex., 2006.9.2.
(糖蜜)
58. ハスマシヨトウ ³⁸⁴⁰ *Spodoptera litura*
(Fabricius)
1♀, 2002.11.4.
59. スジキリヨトウ ³⁸⁴⁴ *Spodoptera depravata*
(Butler)
1ex., 2005.9.3. (目)/ 1ex., 2008.5.25. (灯火)
60. ヒメサビスジヨトウ ³⁸⁵⁹ *Athetis stellata* (Moore)
1ex., 2003.8.3./ 1ex., 2004.7.17.
61. シロモンオビヨトウ ³⁸⁶⁰ *Athetis lineosa*
(Moore)
1ex., 2005.9.3. (灯火)
62. シマガラスヨトウ ³⁸⁶⁵ *Amphipyra pyramidea*
(Linnaeus)
1ex., 2003.8.23./ 1ex., 2003.9.27./ 1ex., 2003.10.25.
/ 1ex., 2005.7.2.(目)/ 1ex., 2005.8.6. (目)/ 1ex.,
2005.9.3.(目), (糖蜜)
63. オオシマカラスヨトウ ³⁸⁶⁶ *Amphipyra monolitha* Guenée
2exs., 2003.7.19./ 2exs., 2004.6.26.(目)/ 3exs.,
2004.8.21.(目)/ 1ex., 2005.8.6.(目)/ 5exs., 2006.9.2.
(目)/ 1ex., 2008.9.14. (目), (糖蜜)
64. カラスヨトウ ³⁸⁶⁸ *Amphipyra livida* (Denis and
Schiffermüller)
2exs., 2003.7.19./ 3exs., 2004.8.21. (目)/ 1ex.,
2004.11.27./ 5exs. 2005.7.2. (目)/ 2exs., 2005.
8.6.(目)/ 2exs. 2005.11.23./ 1ex., 2006.9.16./ 1ex.,
2006.12.16. (目)/ 2exs., 2008.12.13. (糖蜜, 灯火)
65. オオウスズマカラスヨトウ ³⁸⁷⁰ *Amphipyra erebina* Butler
2♂, 2003.7.19./ 1ex., 2003.8.23./ 1ex., 2004.8.21.
(目)/ 1ex., 2005.8.6. (目)/ 1ex., 2005.9.3. (糖蜜)
66. ノコメセダカヨトウ ³⁸⁷⁵ *Orthogonia sera* Felder
and Felder
1♂, 2003.6.28./ 1♀, 2003.7.19./ 1ex., 2003.9.27./
1ex., 2004.6.26. (目)/ 1ex., 2004.8.21. (目)/ 5exs.,
2005.7.2. (目)/ 1ex., 2005.9.3. (目)/ 1ex.,
2006.9.16./ 10exs., 2008.6.28. (目)/ 1ex., 2008.8.3.
(目)/ 1ex., 2008.9.14. (目), (糖蜜)

67. チャオビヨトウ³⁹¹² *Niphonyx segregata* (Butler)
1ex., 2003.5.24./ 1ex., 2003.7.19./ 1ex., 2003.8.23./
1ex., 2004.8.21./ 3exs., 2005.7.2./ 1ex., 2005.8.6./
1ex., 2005.9.3./ 1ex., 2006.7.29./ 2exs., 2006.9.2./
1ex., 2008.9.14. (糖蜜, 灯火)

68. ベニモンヨトウ³⁹¹³ *Oligonyx vulnerata* (Butler)
3exs., 2003.9.27./ 1ex., 2004.5.8./ 1ex., 2006.9.16.
(糖蜜, 灯火)

69. マエホシヨトウ³⁹¹⁴ *Pyrrhidivalva sordida*
(Butler)
2exs. 2006.9.16.

70. フタテンヒメヨトウ³⁹³⁰ *Hadjina biguttula*
(Motschulsky)
1ex., 2005.9.3.

71. フサヤガ³⁹⁵⁶ *Eutelia geyeri* (Felder and
Rogenhofer)
1ex., 2003.7.19. / 1ex., 2005.8.6./ 1ex., 2006.2.4.
(灯火, 昼間)

72. キノカワガ³⁹⁷⁴ *Blenina senex* (Butler)
1ex., 2003.9.27./ 2exs., 2003.10.25. (灯火)

73. マエキリンガ³⁹⁸¹ *Iragaodes nobilis* (Staudinger)
1ex., 2003.4.26./ 1ex., 2004.5.8./ 1ex., 2004.8.21.

74. ベニモンアオリンガ³⁹⁸⁶ *Earias roseifera* Butler
1ex., 2005.6.4./ 1ex., 2005.9.3.(灯火, 昼間)

75. クロオビリンガ³⁹⁹³ *Gelastocera exustai* Butler
1ex., 2003.4.26./ 1ex., 2004.5.8.

76. アカスジアオリンガ⁴⁰⁰⁴ *Pseudoips sylpha*
(Butler)
1ex., 2005.9.3./ 1ex., 2007.4.21.(灯火)

77. ハイイロリンガ⁴⁰⁰⁷ *Gabala argentata* Butler
1ex., 2004.11.27. (昼間)

78. シラホシコヤガ⁴⁰¹⁰ *Enispa bimaculata*
(Staudinger)
1ex., 2005.9.3.(灯火)

79. ハイイロコヤガ⁴⁰¹³ *Mataeomera obliquisigna*
(Hampson)
1ex., 2005.9.3.(灯火)

80. クロハナコヤガ⁴⁰¹⁴ *Aventiola pusilla* (Butler)
1ex., 2005.9.3.(灯火)

81. シマフコヤガ⁴⁰¹⁵ *Corgatha nitens* (Butler)
2exs., 2005.9.3.(灯火)

82. シロスジシマコヤガ⁴⁰¹⁸ *Corgatha dictaria*
(Walker)

83. アヤホソコヤガ⁴⁰²⁷ *Araeopteron amoenum*
Inoue
3exs., 2003.9.27.(灯火)

84. クロモンホソコヤガ⁴⁰²⁹ *Araeopteron kurokoi*
Inoue
1ex., 2008.10.25.(灯火)

85. ネジロコヤガ⁴⁰⁶² *Maliattha chalcogramma*
(Bryk)
1ex., 2005.9.3.(灯火)

86. シロマダラコヤガ⁴⁰⁷⁴ *Protodeltote distinguenda*
(Staudinger)
1ex., 2005.9.3.(灯火)

87. ウスシロフコヤガ⁴⁰⁷⁶ *Sugia stygia* (Butler)
1ex., 2005.9.3.(灯火)

88. マエモンコヤガ⁴⁰⁸⁶ *Neustrotia japonica*
(Warren)
1ex., 2005.9.3. (灯火)

89. モンキコヤガ⁴⁰⁹⁶ *Hyperstrotia flavipuncta*
(Leech)
3exs., 2003.9.27./ 1ex., 2005.9.3./ 1ex., 2008.4.29.
(灯火)

90. フタオビコヤガ⁴¹⁰⁴ *Naranga aenescens* Moore
1ex., 2004.5.8. / 1ex., 2005.8.6.(灯火)

91. キマダラコヤガ⁴¹⁰⁹ *Emmelia trabealis* (Scopoli)
1ex., 2008.7.19. (昼間)

92. ギンスジキンウワバ⁴¹³⁴ *Erythroplusia rutilifrons* (Walker)
1ex., 2003.9.27.

93. セアカキンウワバ⁴¹³⁵ *Erythroplusia pyropia*
(Butler)
1ex., 2005.7.2./ 1ex., 2005.9.10. / 1ex., 2007.6.2. (糖
蜜, 昼間, 花)

94. イネキンウワバ⁴¹⁴⁵ *Plusia festucae* (Linnaeus)
1ex., 2006.9.16. (花)

95. エゾギクキンウワバ⁴¹⁶² *Ctenoplusia albostriata*
(Bremer and Grey)
1ex., 2004.8.21./ 3exs., 2006.9.16. (花)

96. ミツモンキンウワバ⁴¹⁶³ *Ctenoplusia agnata*
(Staudinger)
1ex., 2003.9.27./ 1ex., 2004.8.21.

97. オニベニシタバ⁴¹⁷⁵ *Catocala dula* Bremer
1ex., 2008.8.3. (目), (糖蜜)

98. シロシタバ⁴¹⁷⁶ *Catocala nivea* Butler
1ex., 2003.8.23. / 1ex., 2006.9.2. / 3exs.,
2008.9.14.(目), (糖蜜, 昼間)
99. ワモンキシタバ⁴¹⁸¹ *Catocala fulminea*
(Scopoli)
1♀, 2004.6.26./ 1♂, 2004.7.10./ 2exs., 2005.7.2. (糖
蜜, 昼間)
100. マメキシタバ⁴¹⁸⁶ *Catocala duplicita* Butler
2exs., 2003.8.3./ 1ex., 2004.6.24. (目)/ 1ex.,
2004.7.17./ 1ex., 2004.8.21. (目)/ 2exs., 2005.7.2.
(目)/ 2exs., 2005.8.6. (目)/ 1ex., 2006.9.2./ 1ex.,
2008.8.3./ 1ex., 2008.9.14. (目)(糖蜜, 灯火)
101. コシロシタバ⁴¹⁸⁸ *Catocala actaea* Felder and
Rogenhofer
1ex., 2003.7.19.
102. キシタバ⁴¹⁹⁷ *Catocala patala* Felder and
Rogenhofer
1ex., 2003.8.3./ 2exs., 2004.7.17. (目)/ 2exs.,
2005.8.6. (目)/ 1ex., 2005.9.3. (目)/ 1ex., 2006.9.2./
10exs., 2008.8.3.(目), (糖蜜)
103. コガタキシタバ⁴¹⁹⁸ *Catocala praegnax* Walker
3exs., 2003.6.28./ 1ex., 2003.7.19./ 1ex., 2003.8.3./
2exs., 2004.6.26./ 10exs., 2005.7.2. (目)/ 1ex.,
2008.6.28.(目)/ 1ex., 2008.8.3.(目), (糖蜜)
104. オオウンモンクチバ⁴²²² *Mocis undata*
(Fabricius)
1ex., 2007.5.3. / 1ex., 2008.8.3. (目), (昼間, 糖蜜)
105. ウンモンクチバ⁴²²³ *Mocis annetta* (Butler)
1ex., 2003.7.19./ 1ex., 2003.8.3./ 1ex., 2004.5.8./
2exs., 2004.7.17. (目)/ 1ex., 2004.8.21./ 1ex.,
2005.5.14./ 1ex., 2005.6.4. (目)/ 1ex., 2005.8.6./
1ex., 2007.5.3. (糖蜜, 昼間)
106. ニセウンモンクチバ⁴²²⁴ *Mocis ancilla*
(Warren)
1ex., 2003.5.24./ 1ex., 2003.6.28./ 1ex., 2004.5.8./
3exs., 2004.6.12. (目), (糖蜜, 昼間)
107. モンムラサキクチバ⁴²³³ *Ercheia umbrosa*
Butler
1ex., 2008.6.28. (糖蜜)
108. ムクゲコノハ⁴²³⁹ *Legoptera juno* (Dalman)
1ex., 2003.7.19./ 3exs., 2004.8.21. (目)/ 1ex.,
2005.8.6. (目)/ 1ex., 2006.9.2. (目), (糖蜜)
109. フクラスズメ⁴²⁴¹ *Arcte coerula* (Guenée)
- 1ex., 2003.4.19./ 1ex., 2004.4.3. / 1ex., 2004.5.8.
(目)/ 1ex., 2008.5.25. (目), (糖蜜, 灯火)
110. カキバトモエ⁴²⁴³ *Hypopyra vespertilio*
(Fabricius)
1ex., 2003.6.28./ 1ex., 2004.6.10./ 1ex., 2004.6.26.
(目)/ 1ex., 2004.8.21. (目)/ 1ex., 2005.8.6. (目), (糖
蜜)
111. オスグロトモエ⁴²⁴⁴ *Spirama retorta* (Clerck)
1ex., 2003.5.24./ 1♀, 2003.8.10./ 1♂, 2003.9.27./
2exs., 2004.7.17. (目)/ 1ex., 2004.8.21. (目)/ 1ex.,
2004.9.11. (目)/ 1♂, 2005.6.4./ 1ex., 2005.6.25.
(目)/ 1♀, 2005.8.6./ 1ex., 2005.9.3. (目)/ 5exs.,
2006.9.2. (目)/ 1ex., 2008.5.25. (目)/ 1ex., 2008.8.3.
(目), (糖蜜, 昼間)
112. オオトモエ⁴²⁴⁷ *Erebis ephesperis* (Hübner)
1ex., 2003.5.24./ 1ex., 2004.8.21. (目)/ 1ex.,
2008.8.3. (目), (糖蜜)
113. クビグロクチバ⁴²⁵¹ *Lygephila maxima*
(Bremer)
1ex., 2003.8.23./ 1ex., 2004.7.17. (目)/ 1ex.,
2004.8.21. (目)/ 1ex., 2005.7.2. (目), (糖蜜, 灯火)
114. アカエグリバ⁴²⁷⁶ *Oraesia excavata* (Butler)
1ex., 2003.4.26.
115. アカテンクチバ⁴²⁹² *Erygia apicalis* Guenée
1ex., 2003.5.24./ 2exs., 2005.7.2. / 1ex., 2008.8.6./
1ex., 2005.9.3. (糖蜜)
116. シラフクチバ⁴²⁹⁵ *Synpoides picta* (Butler)
1♀, 2003.6.28./ 1ex., 2005.7.2./ 1ex., 2008.6.28.
(目), (糖蜜, 灯火)
117. オオシロテンクチバ⁴²⁹⁹ *Hypersynpoides*
submarginata (Walker)
1♀, 2006.9.2. (糖蜜)
118. コウンモンクチバ⁴³⁰⁹ *Blasticorhinus*
ussuriensis (Bremer)
1ex., 2003.7.19./ 1ex., 2004.7.17./ 1ex., 2005.7.2.
(糖蜜)
119. ナカジロシタバ⁴³¹⁰ *Aedia leucomelas*
(Linnaeus)
1ex., 2005.9.3.
120. ウスヅマクチバ⁴³¹⁷ *Dinumma deponens*
Walker
1ex., 2003.4.26./ 1ex., 2003.7.19. / 1ex., 2004.5.8.
/ 1ex., 2004.7.17./ 2005.9.3. (目)/ 1ex., 2008.5.25.

- / 1ex., 2008.6.28. (目), (糖蜜, 灯火)
121. カザリツマキリアツバ ⁴³³² *Tamba igniflua* (Wileman and South)
1ex., 2005.8.13./ 1ex., 2008.4.29. (灯火)
122. ウンモンツマキリアツバ ⁴³⁴³ *Pangrapta perturbans* (Walker)
1ex., 2004.8.17./ 1ex., 2005.6.4. /
1ex., 2008.6.28./ 1ex., 2008.8.3.
123. ムラサキアツバ ⁴³⁷³ *Diomea cremata* (Butler)
1ex., 2005.9.3./ 1ex., 2008.6.28.
124. マエジロアツバ ⁴³⁷⁶ *Hypotrochia cinerea* (Butler)
1ex., 2002.8.4.
125. キボシアツバ ⁴⁴⁰¹ *Paragabara flavomacula* (Oberthür)
1ex., 2008.5.25.
126. ウスグロセニジモンアツバ ⁴⁴⁰³ *Paragona inchoata* (Wileman)
1ex., 2003.9.27. / 1ex., 2005.9.3./ 1ex., 2006.9.16./
1ex., 2008.5.25.
127. クロテンカバアツバ ⁴⁴¹¹ *Anachrostis nigripunctalis* (Wileman)
3exs., 2003.9.27/ 1ex., 2008.9.14. (糖蜜)
128. クリイロアツバ ⁴⁴²⁴ *Rivula plumipars* Hampson
1ex., 2003.9.27.
129. ヒロバチビトガリアツバ ⁴⁴²⁷ *Hypenomorpha calamina* (Butler)
2exs., 2005.9.3. (灯火)
130. ミジンアツバ ⁴⁴³⁴ *Hypenodes rectifascia* Sugi
1ex., 2003.9.27. (灯火)
131. クロスジヒメアツバ ⁴⁴³⁸ *Schränkia costaestrigalis* (Stephens)
1♀, 2003.9.27./ 2♂, 2003.11.30./ 1ex., 2008.10.25.
(灯火)
132. ハスオビヒメアツバ ⁴⁴⁴⁰ *Schränkia separatalis* (Herz)
1ex., 2005.9.3.
133. チビアツバ ⁴⁴⁴⁵ *Luceria fletcheri* Inoue
1ex., 2003.9.27./ 1ex., 2005.9.3. (灯火)
134. タイワンキシタアツバ ⁴⁴⁵⁴ *Hypena trigonalis* (Guenée)
1ex., 2005.5.28.
135. トビモンアツバ ⁴⁴⁶⁷ *Hypena indicatalis* Walker
1ex., 2007.4.21.
136. コテシングアツバ ⁴⁴⁷⁶ *Hypena pulverulenta* Wileman
1ex., 2006.11.4. / 1ex., 2008.4.29. (昼間, 灯火)
137. ヤマガタアツバ ⁴⁴⁸¹ *Bomolocha stygiana* (Butler)
1ex., 2004.5.8./ 1ex., 2005.9.3./ 1ex., 2008.5.25./
1ex., 2008.9.14. (灯火)
138. シラクモアツバ ⁴⁴⁸⁶ *Bomolocha zilla* (Butler)
1ex., 2008.4.29. (灯火)
139. シラナミクロアツバ ⁴⁴⁹⁶ *Adrapsa simplex* (Butler)
1ex., 2003.8.23./ 1ex., 2004.6.26. (目)/ 1ex.,
2004.8.21./ 1ex., 2005.7.2./ 1ex., 2005.9.3./ 1ex.,
2006.6.17./ 1ex., 2006.9.2./ 1ex., 2008.6.21. / 2exs.,
2008.6.28. (目)/ 1ex., 2008.9.14. (目), (糖蜜)
140. ソトウスグロアツバ ⁴⁴⁹⁹ *Hydrillodes lentalis* Guenée
1ex., 2005.6.11. / 1ex., 2005.9.3.
141. ヒロオビウスグロアツバ ⁴⁵⁰⁰ *Hydrillodes morosa* Warren
1ex., 2003.4.26./ 1♀, 2004.5.8./ 1♀, 2008.4.29. (灯火)
142. オオシラホシアツバ ⁴⁵⁰³ *Edessena hamada* (Felder and Rogenhofer)
1ex., 2003.8.23. / 1ex., 2004.8.21. (灯火)
143. フサキバアツバ ⁴⁵⁰⁷ *Mosopia sordida* (Butler)
1ex., 2005.7.2. / 1♀, 2005.9.3. / 1♀, 2006.9.2. (灯火,
糖蜜)
144. ミスジアツバ ⁴⁵¹⁸ *Paracolax trilinealis* (Bremer)
1ex., 2005.9.3. (糖蜜)
145. シロスジアツバ ⁴⁵²⁷ *Bertula spacoalis* (Walker)
1ex., 2008.6.28.
146. ニセアカマエアツバ ⁴⁵³³ *Simplicia xanthoma* Prout
1♀, 2005.9.3. / 1ex., 2008.9.14. (灯火, 糖蜜)
147. ウスグロアツバ ⁴⁵⁴⁴ *Zanclognatha fumosa* (Butler)
1ex., 2006.6.17./ 1♂, 2008.5.25./ 1♀, 2008.6.28.
148. ハスオビアツバ ⁴⁵⁴⁵ *Zanclognatha oblique* Staudinger

- 1ex., 2005.9.3. (灯火)
149. キイロアツバ⁴⁵⁴⁶ *Zanclognatha helva* (Butler)
1ex., 2003.5.24./ 2exs., 2008.5.25.
150. ヒメコブヒゲアツバ⁴⁵⁴⁷ *Zanclognatha tarsipennalis* (Treitschke)
1ex., 2004.8.21./ 1ex., 2005.5.14./ 1ex., 2005.6.4./
1ex., 2008.10.25. (灯火, 糖蜜, 昼間)
151. クロスジアツバ⁴⁵⁵⁶ *Herminia grisealis* (Denis and Schiffermüller)
1ex., 2004.8.21. (糖蜜)
152. フシキアツバ⁴⁵⁵⁷ *Herminia dolosa* Butler
1♀., 2004.5.8.
153. シラナミアツバ⁴⁵⁵⁸ *Herminia innocens* Butler
1ex., 2003.9.27./ 1ex., 2004.5.8.
154. ウスキミスジアツバ⁴⁵⁶⁰ *Herminia arenosa* Butler
1ex., 2003.9.27.
155. トビスジアツバ⁴⁵⁶² *Herminia tarsicrinalis* (Knoch)
1♀., 2004.5.8.
156. オオシラナミアツバ⁴⁵⁶³ *Hipoepa fractalis* (Guenée)
1ex., 2003.9.27./ 1ex., 2006.9.16./ 1ex., 2008.10.25.
(灯火)
157. ムモンキイロアツバ⁴⁵⁶⁴ *Stenhypena nigripuncta* (Wileman)
1♀, 2003.4.26.

引用文献

- 井上 寛・杉 繁郎・黒子 浩・森内 茂・川辺 澄・大和田守. 1982. 日本産蛾類大図鑑第Ⅰ巻：
解説編. 966 pp., 講談社.
- 金子岳夫. 2005. 茨城県宍塙大池の蛾類の記録.
誘蛾灯, (181): 123-127.
- 宍塙の自然と歴史の会. 1995. 宍塙大池地域自然
環境調査報告書. 224 pp., 宍塙の自然と歴史の
会.
- 杉 繁郎 (編). 2000. 日本産蛾類大図鑑以後の追
加種と学名の変更. 171 pp., 日本蛾類学会.
- 杉 繁郎・神保宇嗣 (編). 2004. 日本産蛾類大図
鑑以後の追加種と学名の変更 追録 1. 60 pp.,
日本蛾類学会.

茨城県産淡水・汽水性プラナリア類

茅根重夫

プラナリアは、扁形動物門 *Platyhelminthes*, ウズムシ目 (三岐腸目) *Tricladida* ウズムシ亜目に属する動物の総称である。茨城県内では、現在までに淡水性のプラナリア類として、山地性のカズメウズムシ *Seidlia auriculata*, ミヤマウズムシ *Phagocata vivida*, 平地性のナミウズムシ *Dugesia japonica*, アメリカナミウズムシ *Girardia tigrina*, 地下水性のカントウイドウズムシ *Phagocata papillifera*, それに汽水性種のプラナリア類としてサンカクウミウズムシ *Paucumala trigocephala* の合計 6 種が確認されている。ここでは、県内における調査研究の経緯と、種の解説および今までの採集記録をまとめた。今後の調査研究の資料となれば幸いである。

本報告をまとめるにあたり、協力いただいたミュージアムパーク茨城県自然博物館の池澤宏美氏、常総市の堀越 功氏、長崎市の山本清彦氏および札幌市の川勝正治博士に謝意を表す。

これまでの調査・研究

茨城県におけるプラナリアの最初の研究は、茅根 (1961) で、八溝山で、カズメウズムシ、ミヤマウズムシ、ナミウズムシの 3 種のプラナリア垂直分布を調査したのが最初である。6 つの沢の 128 地点で調査した結果、源流部から下流に向かって、カズメウズムシ→ミヤマウズムシ→ナミウズムシの順に分布していることを確認した。その後、久賀谷 (1963) は県内の他の山地渓流を調査し、花園山等でミヤマウズムシを確認した。川勝・堀越 (1966) は、常総市 (旧水海道市) 豊岡町の浅井戸から地下水性のプラナリアであるカントウイドウズムシの生息を報告した。現在、本種が確認できるのは豊岡町の井戸のみである。堀越 (1975) は、県内各地のプラナリアの分布も調査し、それまでの茨城県の淡水産プラナリアの分布をまとめた。2007 年には、筆者が涸沼で汽水性のサンカクウミウズムシを採集した。また、茅根ほか (2008) は、

外来種のアメリカナミウズムシを県西の菅生沼とその周辺の河川や用水、沼等で確認し、その分布状態を調査した。

茨城県産プラナリアの記録

以下に、種の解説と採集の記録をまとめた。採集記録は、採集日、採集地 (採集地の詳細), 採集者、同定者 (同定者がいる場合)、文献 (引用の場合) の順で記した。

1. ナミウズムシ

Dugesia japonica Ichikawa and Kawakatsu

平地の河川・湖沼に棲む。かつては普通に見られたが、現在は比較的水のきれいな所でしか見られない。頭部は三角形で、寄り目状の 2 個の黒色の目をもつ。体長は 20~30mm、体巾は 3~4mm で、褐色のものが多い。再生等の実験材料。

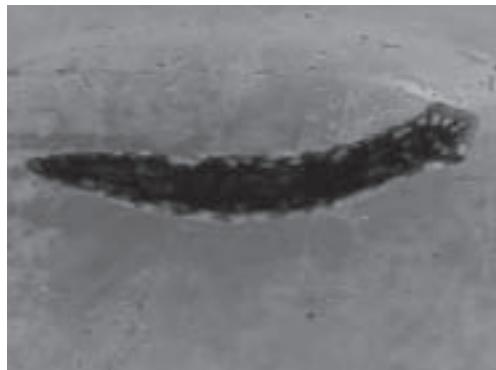


[採集記録]

1960. 4-11, 八溝山 (標高: 760m 以下, 44 地点), 茅根重夫 (茅根, 1961) / 1960-1961, 筑波山 (標高: 400m 以下), 花園山 (標高: 580m 以下), 水戸市 (標高: 20m), 久賀谷幸子 (久賀谷, 1963) / 1963.7.24-27, 関根川 (高萩市, 標高: 480m~7m, 6 地点), 花貫川 (高萩市, 標高: 360m~10m, 3 地点), 高萩高生物クラブ・顧問, 茅根重夫 (高萩高生物クラブ, 1966) / 1966.8.27, 筑波山 (男女川, 標高: 350m), 堀越 功 (堀越, 1975) / 1968.6.29, 八溝山 (腐沢源流部, 標高: 760m),

堀越 功・茅根重夫 (堀越, 1975)／1971.7.27, 加波山 (神社裏, 標高 690m); 1971.8.10, 水戸市 (吐玉泉他, 標高: 20m); 1972.7.4, 利根川 (境大橋下, 標高: 20m); 1972.8.3, 楠巣寺 (笠間市, 標高 100m), 仏頂山 (笠間市, 標高: 250m); 1972.8.17, 筑波山 (上曾峰新道, 標高: 360m); 1974.5.13, 筑波山 (椎尾薬王院, 標高: 200m); 1972.5.3, 富谷山(旧岩瀬町, 標高: 190m), 伝正寺 (旧真壁町, 標高: 50m); 1974.7.24, 男体山 (大子町, 標高: 240m); 花園山 (北茨城市, 標高: 580m), 堀越 功 (堀越, 1975)／1988-1990, 関根川 (高萩市関口, 若栗, 金成); 大北川 (高萩市大荷田, 大金田, 小山, 横川); 花貫川 (高萩市文添, 大能), 茅根重夫 (茅根, 1991)／2000.9.12, 泉ヶ森 (日立市水木町), 茅根重夫／2001.6.28, 里川 (旧里美村, 里川公民館付近), 茅根重夫／2003.8.7, 小溪流 (大和村本木), 茅根重夫／2003.10.28, 茨城県自然博物館野外ホタルの川*, 池澤広美／2003.12.24, 茨城県自然博物館野外菅生沼側斜面絞り水, 茅根重夫／2004.2.5, 茨城県自然博物館野外, ビオトープ, 池澤広美／2004.6.14, 筑波山 (白滝下溪流), 茅根重夫／2004.6.28, 谷津田用水 (旧御前山村長倉), 茅根重夫／2004.7.4, 江川 (旧岩井市, 薬師寺附近), 茅根重夫／2005.7.22, 那珂川 (旧御前山付近); 久慈川 (旧山方町付近), 茅根重夫／2007.11.3, 楠巣寺 (笠間市), 茅根重夫／2008.8.2, 筑波山 (ふれあいの里付近).

* まだら模様のナミウズムシ. 川勝正治博士によると, 長野県松本市でも確認しているが, 非常に珍しい個体である. 純心女子高等学校の山本清彦氏に, このナミウズムシの染色体を調べていただいたところ, 同一個体に $2n$, $3n$, $4n$ の細胞をもっている個体であった.



2. アメリカナミウズムシ

Girardia tigrina (Girard)

2003 年に菅生沼に注ぐ東仁連川で底生動物調査の際に, 変わった模様のプラナリアが採集され, 川勝正治博士により, 外来種のアメリカナミウズムシと仮同定された. 体長は 6~12mm, 体巾は 0.5 ~1.8mm で白色と褐色の色素斑が細かいまだら模様状になっている. 頭部はナミウズムシのように三角形で, 両眼はナミウズムシより接近している. 咽頭の表面には *Girardia* 属の特徴である灰色の色素斑がある. 原産地は北米大陸であるが, 水草等に付着して世界各地に広がっている. 筆者が菅生沼とその周辺の水域で分布調査を行った結果, 生息密度が高く, 自然繁殖個体群であること, さらに, 河川汚濁に強い性質を持つことなどが分かった. 茨城県内の菅生沼, 東仁連川, 桜川などで採集された個体の染色体は $3x=24$ で, すべて 3 倍体であった. 今後, 利根川水系の平地の河川・用水等で増加する可能性が高い種と判断された (茅根ほか, 2008).



[採集記録]

2003.12.24, 東仁連川 (旧水海道市), 茅根重夫, 川勝正治 (仮同定)／2004.1.2. 東仁連川・西仁連川・江川 (旧岩井市, 旧水海道市), 茅根重夫／2004.10.1, 乙戸沼 (土浦市乙戸), 茅根重夫／2004.11.23, 燐ヶ池 (つくば市臼井), 茅根重夫／2007.10.4, 桜川 (つくば市酒寄), 茅根重夫 (茅根ほか, 2008).

3. ミヤマウズムシ

Phagocata vivida (Iijima and Kaburaki)

山地性のプラナリアで, 八溝山や筑波山の溪流に生息しているが, 平地の湧水部でも見られるこ

とがある。体長は10~20mm、体巾は3mm位で、頭部は切形でやや波状、眼はやや奥にあり、寄り目である。



[採集記録]

1960.4.11, 八溝山 (標高: 880m~400m, 61 地点), 茅根重夫 (茅根, 1961) / 1960-1961, 筑波山 (標高: 420m), 花園山 (標高: 650m 以上), 久賀谷幸子 (久賀谷, 1961) / 1963.7.25, 関根川河岸湧水 (高萩市若栗, 標高: 360m), 高萩高生物クラブ顧問茅根重夫 (高萩高生物クラブ, 1966) / 1966.8.27, 筑波山 (神社西側); 1972.8.3, 楠巣寺 (笠間市, 標高 70m); 1974.8.28, 花園山 (標高: 650m ~ 850m), 堀越 功 (堀越, 1975) / 1993.8.23, 八溝山 (日輪寺下のわさび田, 標高: 650m); 2007.10.24, 八溝山 (金性水下の沢), 茅根重夫 / 2007.11.3, 筑波山 (上曾峠, 標高: 390m), 茅根重夫。

4. カントワイドウズムシ

Phagocata papillifera (Ijima and Kaburaki)

堀越 功氏は、豊岡中の科学クラブの生徒達と常総市 (旧水海道市) 豊岡町の石塚要二氏宅の浅井戸からプラナリアを発見し、それが川勝正治博士により 1916 年に東京の浅井戸で採集、記載された日本固有種であることが分かり、カントワイドウズムシと命名された (川勝・堀越, 1966)。本種はその後、石塚氏宅に近い、小島 力氏宅の掘り抜き井戸からも発見されている。

体長は約 1cm、乳白色をしていて、頭部は切形、眼は小さく退化し、背面の正中線にそって 15~30 個の乳頭状の突起をもつた変わった形の地下水性のプラナリアである。基準産地の東京の浅井戸もなくなり、今では豊岡町の石塚氏宅の浅井戸のみとなっている。

カントワイドウズムシは環境省のレッドリストでは絶滅危惧 I 類に指定され (川勝, 1993), 県のレッドデータブックでも希少種に指定されている (茨城県生活環境部環境政策課, 2000)。2008 年 1 月に石塚氏宅のカントワイドウズムシの生息状況を確認した。備え付けの手漕ぎポンプを 50 回ほど漕ぎ、水を汲み上げると約 50 匹の本種とキヨウトメクラヨコエビなどが採集された。現在、この井戸は家人によって手厚く保護されている。将来にわたって保護されるような行政の施策が欲しい。



[採集記録]

1965-1966, 掘り抜き井戸 (旧水海道市豊岡町, 石塚要二宅および小島 力宅), 豊岡中科学クラブ (顧問: 堀越 功), 川勝正治 (同定) (川勝・堀越, 1966) / 2006.12.9, 掘り抜き井戸 (石塚要二宅), 茅根重夫・池澤広美 / 2008.1.24, 掘り抜き井戸 (石塚要二宅), 茅根重夫。

5. カズメウズムシ

Seidlia auriculata (Ijima and Kaburaki)

山地性の種で、茨城県では八溝山の源流部附近 (標高 630m) にのみ生息している。体長は約 2cm、体巾は 3.5mm ほど、頭部は切形 (波形) で多数の小眼点が馬蹄形に散在している。



[採集記録]

1960.4.11, 八溝山 (標高: 910m~630m, 最源流部, 32 地点), 茅根重夫 (茅根, 1961) / 2006.9.2, 八溝山 (金性水附近の沢, 標高: 900m), 茅根重夫.

6. サンカクウミウズムシ

Paucumala trigonocephala (Ijima and Kaburaki)

2007年8月, 潤沼岸近くの水深約40cmの礫の表面に小さな変わった形のプラナリアを発見した。川勝正治博士にその生体写真を送ったところ, 1916年に広島県厳島で記載され, その後, 対馬や長崎, 沖縄で確認された海産のサンカクウミウズムシと仮同定された。

体長は約3.5mm, 体巾は0.8mmほどで, 頭部前端は円形で細く, 眼は三日月形で両眼は接近している。頭部から尾部にかけて5個(3番目は1対)の目立った白斑がある。



[採集記録]

2007.8.11, 潤沼 (旧茨城町広浦公園前), 茅根重夫 / 2007.8.31, 潤沼, 茅根重夫, 川勝正治 (仮同定).

引用文献

茅根重夫. 1961. 八溝山の溪流動物の研究とくにプラナリアおよびトワダカワゲラの分布について. 茨城大学生物学会会報, (9): 6-9.

茅根重夫. 1991. 水生昆虫類. 高萩の動物編集委員会(編). 高萩の動物. pp. 143-149, 高萩市.

茅根重夫・山本清彦・川勝正治. 2008. 茨城県におけるアメリカナミウズムシの出現記録(扁形動物門, 三岐腸目). 茨城県自然博物館研究報告,

(11): 33-40.

堀越 功. 1975. 茨城県の淡水産プラナリアの分布. 茨城県高等学校教育研究会生物部(編). 茨城の生物第1集. pp116-130, 茨城県高等学校教育研究会生物部.

川勝正治・堀越 功. 1966. カントウイドウズムシの再発見. 遺伝, 20(10): 13-16.

川勝正治・西野麻知子・大高明史. 2007. プラナリア類の外来種. 陸水学雑誌, 68: 461-469.

久賀谷幸子. 1963. 茨城県における淡水産プラナリアおよびトワダカワゲラの分布について. 茨城大学生物学会会報, (10): 6-9.

川勝正治. 1993. 希少種, カントウイドウズムシ. 上野俊一(編). 減びゆく日本の動物 50種. pp. 166-168, 築地書館,

茨城県生活環境部環境政策課. 2000. 茨城における絶滅のおそれのある野生生物〈動物編〉茨城県版・レッドデータブック. 195pp., 茨城県生活環境部環境政策課.

高萩高校生物クラブ. 1966. 炭坑排水等の汚水が河川水生昆虫相に与える影響. 高萩高校生物クラブ誌「はまなす」, 1-8.

執筆者一覧

市毛 勝義 (水戸市)
井上 尚武 (茨城県立多賀高等学校)
榎本 友好 (牛久市役所)
大桃 定洋 (稲敷郡阿見町)
勝間 信之 (㈱環境研究センター)
金井 節博 (結城市)
岸本 亨 (つくば国際大学産業情報学科)
佐藤 和明 (宍塙の自然と歴史の会)
桜井 浩 (笠間市)
佐々木泰弘 (茨城県立笠間高等学校)
釣巻 岳人 (東京都板橋区)
茅根 重夫 (坂東市)
成田 行弘 (水戸市役所)
林 恵治 (サントリー ㈱)
疋田 直之 (水戸葵陵高等学校)
久松 正樹 (ミュージアムパーク茨城県自然博物館)
廣瀬 誠 (水戸市)
松本 嘉幸 (芝浦工業大学柏中学高等学校)
三浦麻里子 (茨城大学教育学部)
山根 爽一 (茨城大学教育学部)
渡邊 健 (茨城県農業総合センター農業研究所)

Report of Comprehensive Surveys of Plants, Animals and Geology
in Ibaraki Prefecture by the Ibaraki Nature Museum
- Trends of Insects and Other Invertebrates in 2008 -

Edited by Ibaraki Nature Museum
March 2009

茨城県自然博物館総合調査報告書
2008年 茨城県の昆虫類および無脊椎動物の動向
平成21年3月31日発行

編集 ミュージアムパーク茨城県自然博物館
久松正樹
発行 ミュージアムパーク茨城県自然博物館
館長 菅谷 博
〒306-0622 茨城県坂東市大崎700
TEL0297-38-2000
印刷 谷田部印刷株式会社

©2009 Ibaraki Nature Museum
(本書掲載記事および写真の無断転載を禁じます。)

ISBN978-4-902959-16-1 C3045